

ABBYY® FineReader 12

ユーザーズ ガイド

ABBYY FineReader 12 ユーザーズガイド

本書に記載されている情報は、予告なく変更されることがあり、その内容について ABBYY は何ら責任を負いません。本書で説明されているソフトウェアは、使用許諾契約に基づいて提供されます。同ソフトウェアは、契約条件に厳密に従った場合に限り、使用および複製が行えます。使用許諾契約または機密保持契約で明確に許可されている場合を除き、ソフトウェアを何らかの媒体に複製することは、ロシア連邦の「ソフトウェアおよびデータベースの法的保護に関する」法律および国際法に違反します。本書のいかなる部分も、書面による ABBYY の明示的な許可を得ることなく、電子的またはその他のいかなる形式または方法によっても、その目的を問わず、複製または伝送を行ってはなりません。

© 2013 ABBYY Production LLC. All rights reserved.

ABBYY、ABBYY FineReader、ADRT は、ABBYY Software Ltd. の登録商標または商標です。

© 1984–2008 Adobe Systems Incorporated and its licensors. All rights reserved.

次の米国特許により 保護されています: 5,929,866; 5,943,063; 6,289,364; 6,563,502; 6,185,684; 6,205,549; 6,639,593; 7,213,269; 7,246,748; 7,272,628; 7,278,168; 7,343,551; 7,395,503; 7,389,200; 7,406,599; 6,754,382。その他の特許申請中。

Adobe® PDF Library は Adobe Systems Incorporated より使用許諾を受けています。

Adobe、Acrobat®、Adobe のロゴ、Acrobat のロゴ、Adobe PDF のロゴおよび Adobe PDF Library は、米国および/またはその他の国々における Adobe Systems Incorporated の登録商標または商標です。

本コンピュータ プログラムの一部は次の著作権の対象です: © 2008 Celartem, Inc. All rights reserved.

本コンピュータ プログラムの一部は次の著作権の対象です: © 2011 Caminova, Inc. All rights reserved.

DjVu は米国特許 No. 6,058,214によって保護されています。 外国特許申請中。

AT&T Labs Technology 搭載。

本コンピュータ プログラムの一部は次の著作権の対象です: © 2013 University of New South Wales. All rights reserved.

© 2002–2008 Intel Corporation.

© 2010 Microsoft Corporation. All rights reserved.

Microsoft、Outlook、Excel、PowerPoint、SharePoint、SkyDrive、Windows Server、Office 365、Windows Vista、Windows は、米国およびその他の国々における Microsoft Corporation の登録商標または商標です。

© 1991–2013 Unicode, Inc. All rights reserved.

JasPer License Version 2.0:

© 2001–2006 Michael David Adams

© 1999–2000 Image Power, Inc.

© 1999–2000 The University of British Columbia

本製品には OpenSSL ツールキットで使用するために OpenSSL Project により開発されたソフトウェアが含まれています。(http://www.openssl.org/)。本製品には Eric Young (eay@cryptsoft.com) によって作成された暗号化ソフトウェアが含まれています。

© 1998–2011 The OpenSSL Project. All rights reserved.

©1995–1998 Eric Young (eay@cryptsoft.com) All rights reserved.

本製品には Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com)によって作成されたソフトウェアが含まれています。

本ソフトウェアの一部は次の著作権の対象です: © 2009 The FreeType Project (www.freetype.org). All rights reserved.

Apache、Apacheの羽根のロゴ、およびOpenOfficeは、The Apache Software Foundationの商標です。OpenOffice.org およびカモメのロゴは、The Apache Software Foundationの登録商標です。

EPUB® は IDPF (International Digital Publishing Forum) の登録商標です

他のすべての商標は、それぞれの所有者の独占的な所有物です。

目次

ABBYY FineReader 12 の概要	6
ABBYY FineReader 12 の新機能	8
クイック スタート	10
Microsoft Word タスク	14
Microsoft Excel タスク	14
Adobe PDF タスク	15
その他の形式のタスク	16
処理なしでの画像の追加	17
カスタム自動タスクの作成	17
他のアプリケーションとの統合	20
紙文書のスキャン	22
文書の写真撮影	24
画像または PDF ファイルを開く	27
ファイルを開く場合およびスキャンのオプション	28
画像の予備処理	30
文書の認識	34
FineReader 文書とは何か	34
OCR の前に検討すべき文書の特性	38
OCR オプション	42
複合文字の言語での作業	43
OCR 品質を高めるためのヒント	48
紙文書の複雑な構造が再現されない場合	48
エリアが正しく検出されない場合	49
レイアウトが類似した文書を多数処理する場合	52
表が検出されない場合	52
画像が検出されない場合	53
バーコードが検出されない場合	54

エリア プロパティの調整	55
正しくないフォントが使用されているか、一部の文字が「?」または「□」で置き換えられている場合	56
印刷した文書に標準以外のフォントが含まれる場合	57
テキストに特殊な用語や珍しい用語が多数含まれている場合	60
一部の文字をプログラムが認識できなかった場合	60
縦書きのテキストまたは反転したテキストが認識されない場合	63
テキストの確認と編集	64
[テキスト] ウィンドウでのテキストの確認	64
スタイルの使用	67
ハイパーリンクの編集	67
表の編集	68
機密情報の削除	69
文書からの内容のコピー	70
認識結果の保存	71
ページの画像の保存	86
OCR 結果のメール送信	87
オンライン ストレージ サービスおよび Microsoft SharePoint での作業	89
オンライン ストレージ サービスでの作業	89
Microsoft SharePointへ結果を保存	90
ローカル エリア ネットワークでのグループ作業	91
OCR の自動化およびスケジューリング	93
自動タスク	93
ABBYY Hot Folder	94
ABBYY FineReader のカスタマイズ	99
メイン ウィンドウ	99
ツールバー	101

ABBYY FineReader 12 ユーザーズガイド

ワークスペースのカスタマイズ	103
[オプション] ダイアログ ボックス	104
ユーザー インターフェイス言語の変更	105
ABBYY FineReader のインストール、アクティベーションおよび登録	107
ABBYY FineReader のインストールと起動	107
ABBYY FineReader のアクティベーション	109
ABBYY FineReader の登録	111
データプライバシー	111
ABBYY Screenshot Reader	112
付録	117
用語集	117
ショートカット キー	121
サポートされている画像形式	127
サポートされている保存形式	130
必要なフォント	131
正規表現	133
テクニカル サポート	136

ABBYY FineReader 12 の概要

ABBYY FineReader は、スキャンした文書、PDF 文書、デジタル写真を含む画像ファイルを編集可能な形式に変換する光学式文字認識 (OCR) システムです。

ABBYY FineReader 12 の特長

高速かつ正確な認識

- ABBYY FineReader に採用されている OCR 技術はあらゆる文書を素早く、正確に認識し、しかも文書の元の書式設定を保持します。
- ABBYY の ADRT® (adaptive document recognition technology) により、ABBYY FineReader ではページ単位ではなく、文書全体を分析し、処理することができます。この手法により、書式、ハイパーリンク、電子メールアドレス、ヘッダーとフッター、画像や表のキャプション、ページ番号、脚注など、ソース文書の構造が保持されます。
- ABBYY FineReader は印刷欠陥の影響をほとんど受けず、実質的にあらゆるフォントを認識できます。
- ABBYY FineReader は通常のカメラや携帯電話で撮影されたテキスト写真も認識できます。さらに画像の予備処理を行うことにより、写真の品質を大幅に高めることができ、より正確な OCR 結果が得られます。
- 処理をより高速化するために、ABBYY FineReader ではマルチコアプロセッサを効率的に使用し、色彩を保存する必要のない文書のために特別なモノクロ処理モードも備えています。

世界のほとんどの言語に対応*

- ABBYY FineReader は、対応する 190 の言語、またはこれらの言語の組み合わせで書かれたテキストを認識できます。対応する言語にはアラビア語、ベトナム語、韓国語、中国語、日本語、タイ語、ヘブライ語も含まれています。ABBYY FineReader は文書の言語を自動的に検出できます。

OCR 結果を確認する機能

- ABBYY FineReader には、認識したテキストを元の画像と比較し、必要な変更を加えることができるテキストエディタが組み込まれています。
- 自動処理の結果に満足できない場合は、取り込む画像エリアを手動で指定し、プログラムの学習機能を利用して一般的ではないフォントや特殊なフォントを認識することができます。

直感的なユーザー インターフェイス

- プログラムには、最も一般的な OCR シナリオを網羅した、あらかじめ設定済みの自動タスクが多数用意されており、ボタンをクリックするだけでスキャン画像、PDF、画像ファイルを編集可能な文書に変換できます。Microsoft Office および Windows Explorer との統合により、Microsoft

Outlook、Microsoft Word、Microsoft Excel

で文書を直接認識したり、コンピュータ上のファイルを右クリックするだけで認識したりできます。

- プログラムでは通常の Windows ショートカットキー、およびスクロールや画像の拡大縮小などを行うタッチスクリーンのスワイプ操作もサポートされています。

素早い引用

- 認識した文書の一部を他のアプリケーションに簡単にコピーして貼り付けることができます。ページ画像は即座に開くため、文書全体の認識が完了する前に表示、選択、コピーが可能です。

デジタル写真の認識

- デジタル カメラで文書の写真を撮影し、ABBYY FineReader 12 で通常のスキャンと同様にテキストを認識することができます。

PDF アーカイブ収納

- ABBYY FineReader は紙の文書またはスキャンした PDF を検索可能な PDF および PDF/A 文書に変換できます。
- MRC 圧縮を適用し、表示品質を損なうことなく PDF ファイルのサイズを縮小できます。

複数の保存形式とクラウド ストレージ サービスに対応

- ABBYY FineReader 12 は認識したテキストを Microsoft Office 形式 (Word、Excel、および PowerPoint)、検索可能な PDF/A および PDF として長期保存用に保存したり、人気の高い E ブック形式で保存したりできます。
- 結果はローカル コンピュータに保存するか、またはクラウド ストレージ サービス (Google Drive、Dropbox、および SkyDrive) に保存して世界のどこからでもアクセスすることができます。また、ABBYY FineReader 12 では Microsoft SharePoint Online および Microsoft Office 365 に文書を直接エクスポートすることもできます。

2 つのボーナス アプリケーションを同梱 - ABBYY Business Card Reader および ABBYY Screenshot Reader

- ABBYY Business Card Reader (ABBYY FineReader 12 Corporate のみで利用可能) は名刺のデータを取り込んで、Microsoft® Outlook®、Salesforce、およびその他の連絡先管理ソフトウェアに直接保存する便利なユーティリティです。
- ABBYY Screenshot Reader はウィンドウ全体または選択したエリアのスクリーンショットを作成し、その中のテキストを認識することができる使いやすいプログラムです。

登録ユーザー向けの無料テクニカル サポート

* 対応する言語のセットは、製品のエディションにより異なることがあります。

ABBYY FineReader 12 の新機能

ABBYY FineReader 12

に組み込まれた主な新しい機能と改善点の概要を簡単にご紹介します。

認識精度の向上

ABBYY FineReader の新バージョンでは ABBYY 独自の Adaptive Document Recognition Technology (ADRT) の向上により、OCR

の精度が一段と高まり、文書の元の書式がより正確に再現されます。このプログラムでは文書のスタイル、見出し、表の検出精度が向上したため、文書を認識した後で書式設定をやり直す必要がありません。

認識言語

ABBYY FineReader 12

ではアクセント符号付きのロシア語テキストも認識できるようになりました。中国語、日本語、韓国語、アラビア語、ヘブライ語の OCR 品質も向上しました。

より速く、より使いやすいユーザー インターフェイス

- **バックグラウンド処理**

非常に大きな文書の認識には、かなり時間がかかることがあります。この新バージョンでは、時間がかかる処理がバックグラウンドで処理されるため、ユーザーは文書のすでに認識された部分での作業を継続できます。OCR

プロセスが完了するまで待たなくても、画像エリアの調整、認識されないページの表示、特定のページまたは画像エリアからの OCR

の強制的な開始、他のソースからのページの追加、文書内のページの並べ替えを行うことができます。

- **画像読み込みの高速化**

ページ画像は紙の原稿がスキャンされ次第、プログラムに入るため、スキャン結果を直ちに確認し、認識するページや画像エリアを選択することができます。

- **より簡単になった引用**

画像エリア内のテキスト、画像、または表は、マウスをクリックするだけで簡単に認識し、クリップボードにコピーできます。

- **スクロールや拡大縮小などの基本的な操作はすべてタッチスクリーンでも可能になりました。**

画像の予備処理とカメラ OCR

画像の予備処理アルゴリズムが向上したことにより、撮影されたテキストの認識精度が確実に高まり、スキャンと同等品質のテキスト写真を作成できます。新しい写真修正機能には、自動切り取り、幾何学的歪みの修正、明るさと背景色の均一化が含まれています。

ABBYY FineReader 12

では、新たに追加した画像に適用する予備処理オプションを選択できるため、各画像を個別に補正する必要はありません。

アーカイブ格納された文書の表示品質が向上

ABBYY FineReader 12

には、文字の輪郭を滑らかにしてスキャンされた文書の表示品質を高める、新たな

PreciseScan

テクノロジーが搭載されています。この結果、ページを拡大しても文字の輪郭が画素化して見えることはありません。

認識出力を手動で編集するための新ツール

新バージョンでは確認機能と修正機能が拡張されました。ABBYY FineReader 12 では、標準キーボードでは入力できない特殊記号を挿入するためのツールも備えた [検証] ウィンドウで、認識されたテキストの書式を設定できます。最も頻繁に使用する検証コマンドと修正コマンドには、キーボード ショートカットも使用できます。

ABBYY FineReader 12

ではヘッダー、フッター、脚注、目次、番号付きリストなどの構造要素の再生を無効にできません。この機能は、翻訳ソフトウェアや Eブック作成ソフトウェアなどの他の製品との互換性を高めるために、これらの要素を通常のテキストとして表示する場合に必要なことがあります。

新しい保存オプション

- OCR の結果を XLSX ファイル形式で保存する場合、画像の保存、テキストの書式設定の削除、個別の Excel ワークシートとしてのページ保存が可能になりました。
- ABBYY FineReader 12 では、EPUB 2.0.1 および EPUB 3.0 規格に準拠した ePub ファイルを作成できます。

サード

パーティのサービスおよびアプリケーションとの統合の改善

SharePoint Online および Microsoft Office 365

に認識した文書を直接エクスポートできるようになり、新しい [開く] ダイアログ ボックスと [保存] ダイアログ ボックスでは、Google Drive、Dropbox、SkyDrive などのクラウド ストレージ サービスに簡単にアクセス可能です。

クイック スタート

ABBYY FineReader はスキャンした文書、PDF 文書、および画像ファイル（デジタル写真を含む）を編集可能な形式に変換します。

ABBYY FineReader で文書进行处理するには、次の 4 つの手順を行う必要があります。

- 文書の画像を取得する
- 文書を認識する
- 結果を検証する
- 選択した形式で結果を保存する

同じ手順を何度も繰り返す必要がある場合、ボタンをワンクリックするだけで必要な操作を実行する自動タスクを使用できます。複雑なレイアウトの文書进行处理するには、各手順を別個にカスタマイズして実行することが可能です。

組み込みの自動タスク

ABBYY FineReader を起動すると、[タスク]

ウィンドウが表示され、最も一般的な処理シナリオのための自動タスクが一覧表示されます。

[タスク] ウィンドウが表示されない場合は、メイン ツールバーにある [タスク]

ボタンをクリックします。



1. [タスク] ウィンドウで左側にあるタブをクリックします。
 - [クイック スタート] には、最も一般的な ABBYY FineReader タスクが含まれています
 - [Microsoft Word] には、文書を Microsoft Word 形式に自動変換するタスクが含まれています
 - [Microsoft Excel] には、文書を Microsoft Excel 形式に自動変換するタスクが含まれています
 - [Adobe PDF] には、文書を PDF 形式に自動変換するタスクが含まれています
 - [その他] には、文書をその他の形式に自動変換するタスクが含まれています
 - [マイ タスク] には、ユーザーのカスタム タスクが含まれています (ABBYY FineReader Corporate のみ)
2. [ドキュメントの言語] ドロップダウン リストで文書の言語を選択します。
3. [カラー モード] ドロップダウン リストでカラー モードを選択します。
 - [フルカラー] は文書の色を保持します。
4. 必要なドキュメント オプションを選択します
5. クリックしてタスクを開始します

- [モノクロ] は文書をモノクロに変換し、サイズを縮小して処理速度を高めます。

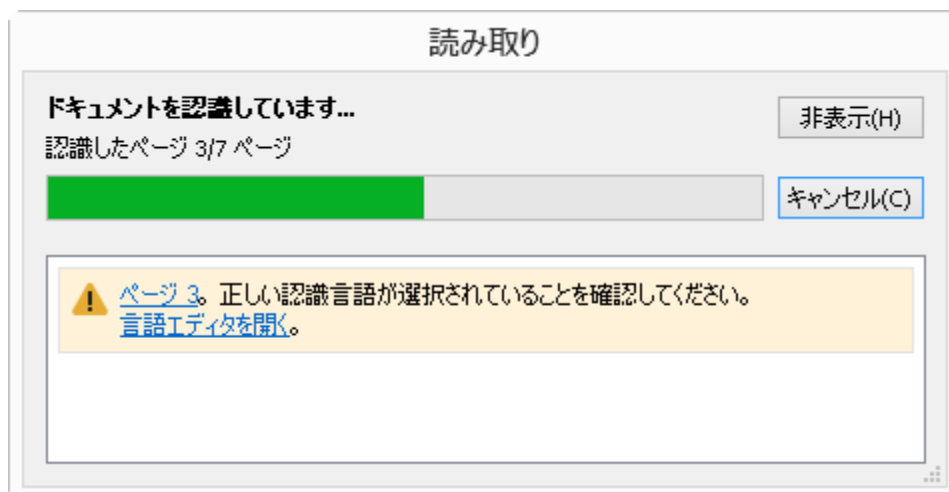
重要事項

文書をモノクロに変換した後で、色を復元することはできません。カラー文書を取得するには、紙文書をカラーでスキャンするか、またはカラー画像を含むファイルを開きます。

4. Microsoft Word、Microsoft Excel または PDF のタスクを実行する場合、ウィンドウの右側部分にある追加的な文書オプションを指定します。
5. **タスク** ウィンドウにあるタスクのボタンをクリックし、タスクを開始します。

タスクを開始する際には、[オプション] ダイアログボックスで現在選択されているオプションが使用されます（ダイアログボックスを開くには、[ツール] > [オプション…] をクリックします）。

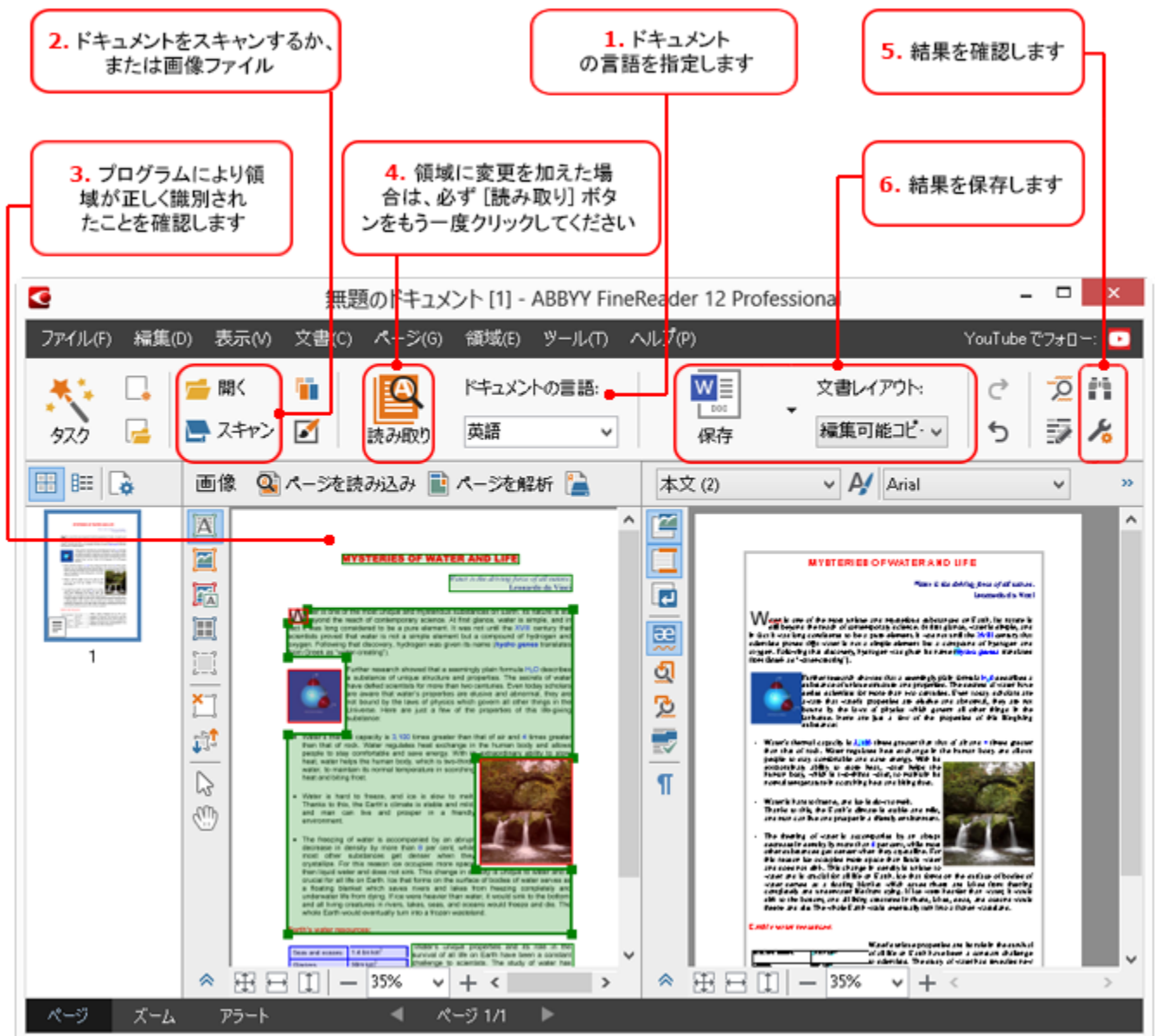
タスクの実行中、タスクの進捗ウィンドウが表示され、手順およびプログラムにより発行された警告の一覧が示されます。



タスクが実行されると、FineReader 文書に画像が追加され、認識が行われて、選択した形式で保存されます。プログラムが検出したエリアを調整し、認識されたテキストを確認し、サポートされている他の形式で結果を保存することができます。

文書の変換手順

いずれの処理手順も ABBYY FineReader のメイン画面で設定して開始できます。



1. メイン ツールバーで、[ドキュメントの言語] ドロップダウン リストから文書の言語を選択します。
2. ページをスキャンするか、ページ画像を開きます。
注意：既定により、ABBYY FineReader はスキャンしたページまたは開いたページを自動的に分析して認識します。この既定の動作は、[オプション] ダイアログ ボックスの [スキャン/開く] で変更できます (ダイアログ ボックスを開くには [ツール] > [オプション...] をクリックします)。
3. [画像] ウィンドウで検出されたエリアを見直し、必要な変更を行います。
4. エリアを調整した場合は、メイン ツールバーにある [読み取り] をクリックし、再度認識を行います。
5. [テキスト] ウィンドウで、認識結果を見直し、必要に応じて修正します。
6. メイン ツールバーの [保存] ボタンの右側にある矢印をクリックし、保存形式を選択します。あるいは、[ファイル] メニューで保存コマンドをクリックします。

Microsoft Word タスク

[タスク] ウィンドウの [クイック スタート]

タブにあるタスクを使用し、紙文書を簡単にスキャンして編集可能な Microsoft Word 形式のファイルに変換することができます。現在選択されているプログラム オプションが使用されます。変換オプションをカスタマイズする場合は、[Microsoft Word] タブにあるタスクを使用します。

1. ウィンドウの上部にある [ドキュメントの言語] ドロップダウン リストで文書の言語を選択します。
2. [カラー モード] ドロップダウン リストで、フルカラーまたはモノクロのモードを選択します。
重要事項 文書をモノクロに変換した後で、色を復元することはできません。
3. ウィンドウの右側部分で必要な文書オプションを選択します。
 - 文書レイアウト オプション
 - 出力文書で画像を保持する場合は、[画像を保持する] を選択します
 - 出力文書でヘッダーとフッターを保持する場合は、[ヘッダーとフッターを維持する] を選択します
4. 必要なタスクのボタンをクリックします。
 - **Microsoft Word 形式でスキャン** 紙文書をスキャンし、Microsoft Word 形式に変換します
 - **画像または PDF ファイルを Microsoft Word に PDF** 文書または画像ファイルを Microsoft Word 形式に変換します
 - **写真を Microsoft Word に** 文書の画像を Microsoft Word 形式に変換します

結果として、元の文書のテキストを含む新しい Microsoft Word 文書が作成されます。

重要事項 組み込みタスクを起動する場合、現在選択されているプログラム オプションが使用されます。オプションのいずれかを変更した場合、タスクを再起動する必要があります。

Microsoft Excel タスク

[タスク] ウィンドウの [Microsoft Excel] タブにあるタスクを使用し、表の画像を Microsoft Excel に簡単に変換することができます。

1. ウィンドウの上部にある [ドキュメントの言語] ドロップダウン リストで文書の言語を選択します。
2. [カラー モード] ドロップダウン リストで、フルカラーまたはモノクロのモードを選択します。
重要事項 文書をモノクロに変換した後で、色を復元することはできません。
3. ウィンドウの右側部分で必要な文書オプションを選択します。
 - 文書レイアウト オプション
 - 出力文書で画像を保持する場合は、[画像を保持する] を選択します

- 元の文書の各ページを個別の Microsoft Excel ワークシートとして保存する場合は、[各ページのワークシートを個別に作成] を選択します

4. 必要なタスクのボタンをクリックします。

- **Microsoft Excel 形式でスキャン** 紙文書をスキャンし、Microsoft Excel 文書に変換します
- **画像または PDF ファイルを Microsoft Excel に** PDF 文書または画像ファイルを Microsoft Excel 形式に変換します
- **写真を Microsoft Excel に** 文書の画像を Microsoft Excel 形式に変換します

結果として、元の文書のテキストを含む新しい Microsoft Excel 文書が作成されます。

重要事項 組み込みタスクを起動する場合、現在選択されているプログラム オプションが使用されます。オプションのいずれかを変更した場合、タスクを再起動する必要があります。

Adobe PDF タスク

[タスク] ウィンドウの [Adobe PDF] タブにあるタスクを使用し、画像 (スキャンした文書、PDF ファイル、画像ファイルなど) を PDF 形式に簡単に変換することができます。

1. ウィンドウの上部にある [ドキュメントの言語] ドロップダウン リストで文書の言語を選択します。

2. [カラー モード] ドロップダウン リストで、フル カラーまたはモノクロのモードを選択します。

重要事項 文書をモノクロに変換した後で、色を復元することはできません。

3. ウィンドウの右側部分で必要な文書オプションを選択します。

- **テキストと画像のみ**

このオプションでは、認識したテキストと画像のみが保存されます。テキストは完全に検索可能で、PDF ファイルのサイズは小さくなります。作成される文書の外観は、元の文書とわずかに異なります。

- **ページ画像の上にテキスト**

このオプションでは、元の文書の背景と画像が保存され、その上に認識したテキストが配置されます。通常、この種類の PDF ファイルには**テキストと画像のみ**の PDF より大きなディスク領域が必要となります。作成される PDF 文書は、完全に検索可能です。場合によって、作成される文書の外観は、元の文書とわずかに異なります。

- **ページ画像の下にテキスト**

このオプションでは、ページ画像全体が画像として保存され、その下に認識したテキストが配置されます。外見が元の文書とほぼ同じで、完全に検索可能な文書を作成するには、このオプションを使用します。

- **ページ画像のみ**

このオプションでは、ページの正確な画像が保存されます。この種類の PDF

文書は、元の文書とほとんど見分けがつかませんが、検索可能なファイルにはなりません。

4. **[画像]** ドロップダウン リストで必要な画質を選択します。
5. PDF または PDF/A を選択します。
6. 必要なタスクのボタンをクリックします。
 - **PDF 形式でスキャンする** 紙文書をスキャンし、PDF 形式に変換します
 - **画像ファイルを PDF に** 画像ファイルを PDF 形式に変換します
 - **写真を PDF に** 文書の画像を PDF 形式に変換します

結果として、新しい PDF 文書が作成され、PDF 表示用アプリケーションで開きます。

重要事項 組み込みタスクを起動する場合、現在選択されているプログラムオプションが使用されます。オプションのいずれかを変更した場合、タスクを再起動する必要があります。

ヒント：認識したテキストを PDF 形式で保存する場合、文書が不正に開かれたり、印刷、編集されたりしないよう保護するためにパスワードを指定できます。詳細については、「PDF のセキュリティ設定」を参照してください。

その他の形式のタスク

[その他] ウィンドウの **[タスク]**

タブを使用し、他の組み込み自動タスクにアクセスします。

1. ウィンドウの上部にある **[ドキュメントの言語]** ドロップダウン リストで文書の言語を選択します。
2. **[カラー モード]** ドロップダウン リストで、フルカラーまたはモノクロのモードを選択します。

重要事項 文書をモノクロに変換した後で、色を復元することはできません。
3. 必要なタスクのボタンをクリックします。
 - **HTML 形式でスキャンする** 紙文書をスキャンし、HTML 形式に変換します
 - **画像または PDF ファイルを HTML に** PDF 文書または画像ファイルを HTML 形式に変換します
 - **EPUB 形式でスキャンする** 紙文書をスキャンし、EPUB 形式に変換します
 - **画像または PDF ファイルを EPUB に** PDF 文書または画像ファイルを EPUB 形式に変換します
 - **その他の形式でスキャンする** 紙文書をスキャンし、選択した形式に変換します
 - **画像または PDF を他の形式に変換する** PDF 文書または画像ファイルを選択した形式に変換します

結果として、元の文書のテキストを含む新しい ABBYY FineReader 文書が作成されます。

重要事項 組み込みタスクを起動する場合、現在選択されているプログラムオプションが使用されます。オプションのいずれかを変更した場合、タスクを再起動する必要があります。

処理なしでの画像の追加

[タスク] ウィンドウにある [クイック スキャン]、[クイック オープン] または [スキャンして画像として保存する] 自動タスクを使用し、画像の予備処理または OCR を行わずに ABBYY FineReader で画像をスキャンしたり、開いたりできます。これは非常に大きな文書があり、その一部のページのみ認識する必要がある場合に役立つことがあります。

1. [カラー モード] ドロップダウン リストで、フルカラーまたはモノクロのモードを選択します。
重要事項 文書をモノクロに変換した後で、色を復元することはできません。
2. 必要な自動タスクをクリックします。
 - **クイック スキャン** 画像の予備処理または OCR を行わずに、紙文書をスキャンしてその画像を ABBYY FineReader で開きます
 - **クイック オープン** 画像の予備処理または OCR を行わずに PDF 文書および画像ファイルを ABBYY FineReader で開きます
 - **スキャンして画像として保存する** 文書をスキャンし、スキャンデータを保存します。スキャンが完了すると、[画像保存] ダイアログボックスが開きます。

結果として画像は新しい ABBYY FineReader 文書に追加されるか、またはユーザーが選択したフォルダに保存されます。

カスタム自動タスクの作成 (ABBYY FineReader Corporate のみ)

組み込まれている自動タスクで選択できない処理手順を含める必要がある場合は、独自の自動タスクを作成できます。

1. [タスク] ウィンドウで [マイ タスク] タブをクリックし、[新規作成] ボタンをクリックします。
2. [タスク設定] ダイアログ ボックスでタスクの名前を [タスク名] ボックスに入力します。
3. 左側のペインで、タスクに使用する ABBYY FineReader 文書の種類を選択します。
 - **新しいドキュメントを作成する**
このオプションを選択すると、タスクを開始したときに新しい ABBYY FineReader 文書が作成されます。次に、文書を処理するためにプログラムが使用する文書オプションを指定します。プログラムで指定されているグローバル処理オプションまたは特定のタスクに指定するオプションのいずれかを選択できます。
 - **既存のドキュメントを選択する**
既存の FineReader ドキュメントのイメージを処理するタスクが必要な場合は、このオプションを選択

して下さい。FineReader

ドキュメントを指定するか、タスクを開始する度にドキュメントを選択するプロンプトをプログラムに表示させる必要があります。

- **現在の文書を使用**

このオプションを選択した場合、アクティブな ABBYY FineReader 文書からの画像が処理されます。

4. 画像の取得方法を選択します。

- **画像または PDF を開く**

フォルダにあるイメージまたはPDFドキュメントを処理するタスクが必要な場合は、このオプションを選択して下さい。フォルダを指定するか、タスクを開始する度にいずれかのフォルダを選択するプロンプトをプログラムに表示させる必要があります。

- **スキャン**

このオプションを選択した場合、ページをスキャンする必要があります。

注意

α. この手順は、前の手順で **「既存のドキュメントを選択する」** または **「現在の文書を使用」** を選択した場合はオプションとなります。

β. すでに画像を含んでいる文書に画像が追加された場合、新たに追加された画像のみが処理されます。

γ. 処理する ABBYY FineReader

文書に、すでに認識されたページとすでに分析されたページが含まれている場合、認識済みのページが新たに処理されることはありませんが、分析済みのページは認識されます。

画像上のエリアを検出するには、**「分析」** 手順を追加して、この手順を設定します。

- **レイアウトを自動的に分析した後で、領域を手動で調整する**

ABBYY FineReader が画像を分析し、その内容に基づいてエリアを識別します。

- **領域を手動で描画する**

ABBYY FineReader による案内に従って適切なエリアを手動で描画します。

- **領域テンプレートを使用する**

プログラムがドキュメントを分析する際に、既存のエリアテンプレートを使用したい場合、このオプションを選択して下さい。テンプレートを指定するか、タスクを開始する度にいずれかのテンプレートを選択するプロンプトをプログラムに表示させる必要があります。詳細については、「**エリアテンプレートの使用**」を参照してください。

画像を認識する必要がある場合は **「読み取り」** 手順を追加します。プログラムは手順 3 で指定された認識オプションを使用します。

注意： **「読み取り」** 手順を追加すると、**「分析」** 手順が自動的に追加されます。

認識したテキストを選択した形式で保存する場合、テキストまたは画像をメールで送信する場合、または ABBYY FineReader 文書の複製を作成する場合は **「読み取り」** を追加します。タスクには複数の **「読み取り」** 手順を含めることができます。

- **ドキュメントを保存する**
ここではファイルの名前と形式、ファイル オプション、ファイルを保存するフォルダを指定できます。


注意：タスクが起動されるたびに新しいフォルダを指定する手間を省くには、**[タイムスタンプ付きのサブフォルダを作成する]** を選択します。

- **ドキュメントを送信する**
作成される文書を開くアプリケーションを選択できます。
- **ドキュメントを電子メールで送信する**
ファイルの名前と形式、ファイル オプション、ファイル送信先の電子メールアドレスを指定できます。
- **画像を保存する**
ここではファイルの名前と形式、ファイル オプション、画像ファイルを保存するフォルダを指定できます

注意：すべての画像を 1 つのファイルに保存するには、**[複数ページからなる 1 つの画像ファイルとして保存する]** を選択します (TIFF、PDF、JB2、JBIG2、DCX 形式の画像のみが該当)。

- **画像を電子メールで送信する**
ファイルの名前と形式、ファイル オプション、画像ファイルの送信先の電子メール アドレスを指定できます。
- **FineReader ドキュメントを保存する**
ABBYY FineReader 文書を保存するフォルダを指定できます。

結果を保存するためにプログラムが使用するオプションを指定します。保存時にプログラムで指定されたグローバル処理オプションまたは特定のタスクに指定するオプションのいずれかを選択できます。

 ボタンを使用してタスクから不要な手順を削除します。

注意：時として、1 つの手順を削除すると、別の手順も削除されることがあります。例えば、**[分析]** 手順を削除すると、画像の分析なしに認識することはできないため、**[読み取り]** 手順も削除されます。

必要となるすべての手順を設定したら、**[完了]** をクリックします。

新たに作成されたタスクは **[タスク]** ウィンドウの **[マイ タスク]** タブに表示されます。**[タスク マネージャ]** でタスクを保存できます (タスク マネージャを開くには **[ツール]** > **[タスク マネージャ…]** をクリックします)。

以前作成したタスクも読み込むことができます。**[マイ タスク]** タブで **[ディスクから読み込む]** をクリックし、必要なタスクを含むファイルを選択します。


ABBYY FineReader

では、カスタム自動タスクの変更、コピー、削除、インポート、エクスポートを行うことができます。詳細については、「自動タスク」を参照してください。

他のアプリケーションとの統合

ABBYY FineReader 12 は Microsoft Office アプリケーションおよび Windows Explorer との統合をサポートしています。これにより、Microsoft Outlook、Microsoft Word、Microsoft Excel および Windows Explorer を使用しているときに文書を認識できます。

Microsoft Word または Microsoft Excel を使用しているときに文書を認識するには、以下の手順に従ってください。

1. **ABBYY FineReader 12** タブで  ボタンをクリックします。
2. 表示されたダイアログ ボックスで、以下を指定します。
 - 画像のソース (スキャナまたはファイル)
 - 文書の言語
 - 保存オプション
3. **[スタート]** ボタンをクリックします。

ABBYY FineReader 12 が開き、認識されたテキストが Microsoft Office アプリケーションに送られます。

Microsoft Outlook

を使用しているときに文書を認識するには、以下の手順に従ってください。

1. Microsoft Outlook を開きます。
2. 1 つまたは複数の文書が添付されているメッセージを選択します。
ヒント: 電子メールに添付されているすべての文書を認識する必要がない場合は、個別の文書を選択できます。
3. **[ABBYY FineReader 12]** タブで **[画像または PDF 添付書類を変換]** ボタンをクリックします。
4. 表示されたダイアログ ボックスで、以下を指定します。
 - 文書の言語
 - 保存オプション
5. **[スタート]** ボタンをクリックします。

ヒント: 認識された文書の外見が元の文書と大幅に異なる場合は、別の認識設定を使用するか、テキスト エリアを手動で指定してみてください。認識設定に関する詳細情報は「OCR 品質を高めるためのヒント」セクションを参照してください。

Windows Explorer から画像または PDF ファイルを開くには

1. Windows Explorer でファイルを選択します。
2. ファイルを左クリックし、ショートカット メニューで **[ABBYY FineReader 12] > [ABBYY FineReader 12 で開く]** をクリックします。

注意： 選択したファイルの形式が ABBYY FineReader 12 によってサポートされていない場合、そのショートカットメニューにこれらの項目は含まれません。

ABBYY FineReader 12 が起動し、選択したファイルからの画像が新しい FineReader 文書に追加されます。ABBYY FineReader がすでに起動しており、FineReader 文書が開いている場合、画像は FineReader 文書に追加されます。

ABBYY FineReader ボタンが Microsoft Office アプリケーションのツールバーまたはリボンに表示されない場合...

ABBYY FineReader 12 ペインが Microsoft Office アプリケーションのツールバーに表示されない場合は

- Microsoft Office アプリケーション ツールバーのショートカット メニューにある [ABBYY FineReader 12] をクリックします。

Microsoft Office アプリケーションのリボンまたはツールバーに [ABBYY FineReader 12] ボタンが含まれていない場合、そのアプリケーションのインストール時に FineReader 12 は統合されませんでした。FineReader 12 を手動でインストールする場合、Microsoft Office アプリケーションとの統合を無効にできます。

統合を有効にするには

1. タスクバーで [スタート] ボタンをクリックし、次に [コントロール パネル] > [プログラムと機能] をクリックします。

注意：

- Microsoft Windows XP では、この項目は [プログラムの追加と削除] と呼ばれます。
 - Microsoft Windows 8では、WIN + Xを押し、開いたメニューにあるプログラムと機能をクリックします。
2. インストールされているプログラムの一覧から [ABBYY FineReader 12] を選択し、[変更] ボタンをクリックします。
 3. [カスタム インストール] ダイアログ ボックスで必要なコンポーネントを選択します。
 4. インストール ウィザードに表示される手順に従います。

ABBYY FineReader 12

でのデータ取り込みプロセスの第一の手順は、プログラムに画像を提供することです。文書画像を取得する方法には、次のような複数の方法があります。

- ハードコピーの文書をスキャンする
- 文書の写真を撮影する
- 既存の画像ファイルまたは PDF 文書を開く

認識品質は、画像の品質とスキャン

設定によって変わります。このセクションには、文書のスキャンおよび写真撮影、ならびにスキャンおよび写真から一般的な欠陥を除去する方法についての情報が記載されています。

紙文書のスキャン

紙文書をスキャンし、それにより得られる画像を ABBYY FineReader 12 で認識することができます。画像をスキャンするには、以下の手順を行います。

1. ご使用のスキャナがコンピュータに正しく接続されていることを確認し、電源のスイッチを入れます。

スキャナをコンピュータに接続する際には、スキャナの使用説明書またはその他の付属文書の指示に従い、スキャナの付属ソフトウェアも必ずインストールしてください。一部のスキャナはパソコンに接続する前に電源を入れる必要があります。

2. スキャンするページをスキャナにセットします。スキャナが自動ドキュメントフィーダを備えている場合、複数のページをセットできます。スキャナにセットされたページができる限りまっすぐに配置されていることを確認してください。スキャンした画像のテキストが傾きすぎていると、文書が正しく変換されないことがあります。
3. [スキャン] ボタンをクリックするか、[ファイル] メニューで [ページのスキャン...] をクリックします。

[スキャン] ダイアログ

ボックスが開きます。スキャン設定を指定して文書をスキャンします。結果として得られる画像は [ページ] ウィンドウに表示されます。

注意 : FineReader

文書がすでに開いている場合、新たにスキャンされたページはその文書の最後に追加されます。FineReader

文書が開いていない場合、スキャンされたページから新しい文書が作成されます。

ヒント : 通常のプリンタで印刷された文書をスキャンする必要がある場合は、グレースケールモードと 300 dpi の解像度を使用すると、最善の結果が得られます。

認識品質はハードコピー

文書の品質と、文書がスキャンされた際の設定に依存します。画質が低い場合、認識に悪影響を及ぼすことがあるため、適切なスキャン設定を指定し、元の文書の特性を考慮すること重要です。

明るさの設定

スキャン設定で明るさが正しく指定されないと、認識中に明るさ設定を変更するよう求めるメッセージが表示されます。モノクロ

モードで文書をスキャンする場合、更に明るさの調整が必要となることがあります。

明るさの設定を変更するには、以下の手順を行います。

1. [スキャン] ボタンをクリックします。
2. 表示されたダイアログ ボックスで明るさを指定します。
注意 : ほとんどの場合、標準的な明るさ設定 (50%) が有効です。
3. 画像をスキャンします。

結果として得られた画像に文字が混じり合ったり分かれてしまっているなどの欠陥がある場合は、下表のより良い画像を得る方法に関する推奨事項を参照してください。

画像の問題	推奨事項
<p>brightness</p>	<p>このようなテキストは認識の準備が整っており、調整を行う必要はありません。</p>
<p>brightness</p> <p>文字が分かれており、明るすぎ、細すぎる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 明るさを下げて、画像をもっと暗くします • グレースケール スキャンモードを使用します (このモードでは明るさが自動調節されます)
<p>brightness</p> <p>文字の色が濃く、太すぎるため、混じり合って歪んでいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 明るさを上げて、画像をもっと明るくします • グレースケール スキャンモードを使用します (このモードでは明るさが自動調節されます)

解像度を変更するよう求めるメッセージが表示された場合、どうすればよいですか

認識品質は文書画像の解像度に依存します。画像解像度が低い場合（150 dpi 未満）、認識品質に悪影響を及ぼすことがあります。解像度が高すぎる画像（600 dpi 超）も認識品質が大幅に向上するわけではなく、処理に長い時間がかかります。

画像の解像度を変更するよう求めるメッセージは、以下の場合に表示されます。

- 画像の解像度が 250 dpi 未満または 600 dpi を超える場合。
- 画像の解像度が標準以外である場合。例えば、一部の FAX の解像度は 204 x 96 dpi です。認識で最適な結果を得るためには、垂直解像度と水平解像度が同じである必要があります。

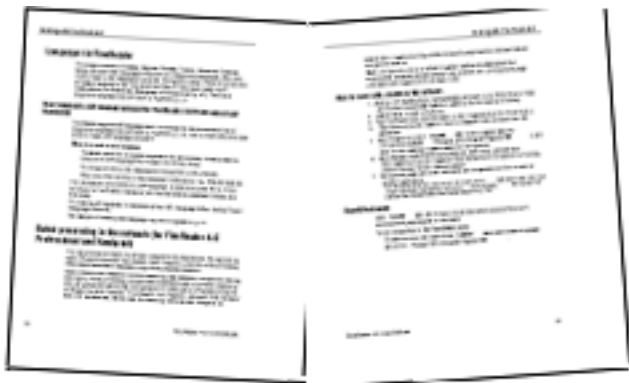
画像の解像度を変更するには、以下の手順を行います。

1. [スキャン] ボタンをクリックします。
2. [スキャン] ダイアログ ボックスで、別の解像度を選択します。
注意： 10 ポイント未満のテキストを含まない文書の場合は、300dpi の解像度を使用することをお勧めします。9 ポイント以下のテキストには 400~600 dpi の解像度を使用します。
3. 画像をスキャンします。

ヒント： 画像エディタを使用して画像の解像度を変更することもできます。画像エディタを開くには、[ページ] メニューで [画像の編集...] をクリックします。

見開きページのスキャン

書籍の見開きページをスキャンする場合、両ページが 1 つの画像に表示されます。



OCR 品質を高めるには、見開きページの画像を 2 つの画像に分割する必要があります。ABBYY FineReader 12 は、このような画像を FineReader 文書内の個別のページに自動的に分割する特別なモードを備えています。

書籍または見開きページをスキャンするには、以下の指示に従ってください。

1. **オプション** ダイアログ ボックスを開き ([ツール] > [オプション…])、**スキャン/開く** タブをクリックします。
2. [一般的な修正] グループで [見開きページを分割する] オプションを選択します。
注意：最善の結果を得るためには、スキャンする際にページを正しい向きでセットし、[ページの向きを検出する] オプションを **オプション** ダイアログ ボックスの [スキャン/開く] タブで有効にします。
3. 見開きページをスキャンします。

自動処理設定は、[画像を開く] ダイアログ ボックス ([ファイル] > [PDF ファイルまたは画像を開く…]) または [スキャン] ダイアログ ボックスにある [オプション…] ボタンをクリックしてアクセスすることもできます。

見開きページは手動で分割することもできます。

1. 画像エディタを開きます ([ページ] > [画像の編集…])。
2. [分割] グループのツールを使用して画像を分割します。

文書の写真撮影

文書の画像を取得する方法は、スキャンのみではありません。カメラまたは携帯電話で撮影した文書の画像を認識できます。テキストの画像を撮影し、ハードディスクに保存して、ABBYY FineReader で開いてください。

文書の画像を撮影する際は、画像を認識に適したものにするために、いくつかの要因に留意する必要があります。これらの要因について、以下の項目で詳しく説明します。

- カメラの要件
- 光量
- 写真を撮る
- 画像を改善する方法

カメラの要件

正しく認識できる文書画像を得るためには、カメラが以下の要件を満たしている必要があります。

推奨されるカメラの特性

- 画像センサー：A4 のページで 500 万ピクセル
名刺などの小さな文書を撮影する場合は、小さなセンサーで十分です。
- フラッシュをオフにする機能
- 手動口径制御、すなわち、Av または フル手動モードが使用可能
- 手動のピント合わせ
- 手ブレ防止機能、または三脚を使用する機能
- 光学ズーム

最小要件

- A4 のページで 200 万ピクセル
- 可変焦点距離。

注意：カメラの詳細については、機器に付属のマニュアルを参照してください。

光量

光量は撮影する写真の質を大きく左右します。

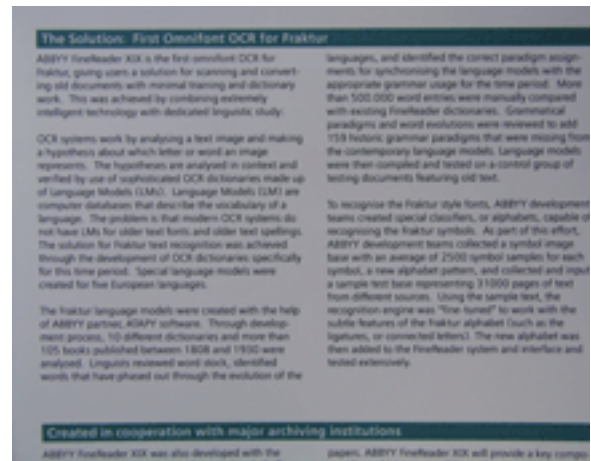
最もよい結果が得られるのは、均等に行き渡る明るい光を利用した場合で、望ましいのは昼光です。よく晴れた明るい日には、絞り値を大きくして鮮明な画像を得ることができます。

フラッシュおよび追加光源の使用

- 人工照明で撮影する場合は、影やギラつきが生じないように 2 つの光源を配置して使用します。
- 光量が十分な場合はフラッシュをオフにして、極端な明暗が生じないようにします。照明が不十分な条件下でフラッシュを使用する場合は、必ず 50 cm ほど離れた位置から撮影してください。

重要事項

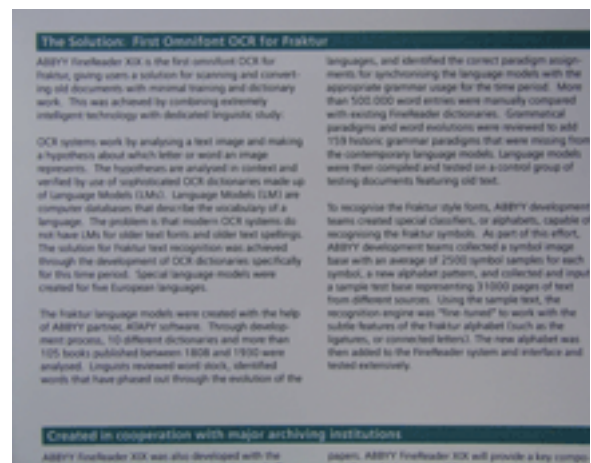
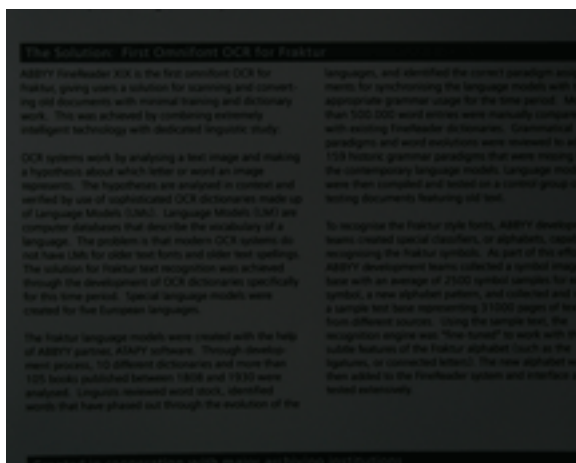
光沢のある紙に印刷された文書の撮影には、フラッシュを使用しないでください。ギラつきのある画像と品質の高い画像を比べてみてください



画像が暗すぎる場合

- 絞り値を小さくして、絞りを開きます。
- ISO 値を高く設定します。
- 照明が不十分な条件下ではオートフォーカスが機能しない可能性があるため、手動フォーカスを使用します。

暗すぎる画像と品質の高い画像を比べてみてください



写真を撮る

品質の高い文書の画像を得るには、カメラを必ず正しい位置に置いて、次に挙げる簡単な推奨事項に従ってください。

- 三脚が使用できる場合は、必ず使用します。
- レンズがページと平行になるようにします。拡大したときにページ全体がフレーム内に収まるように、カメラから文書までの距離を選択する必要があります。ほとんどの場合、この距離は 50~60 cm です。

- 紙文書または本のページを平らにします (特に厚い本の場合)。テキストの行は、20° 以上傾けないでください。傾きすぎていると、テキストが正しく変換されないことがあります。
- 鮮明な画像を得るには、画像の中心にピントを合わせます。



- 光量が不十分な条件下で露光時間が長くなると、画像がぼやける可能性があるため、手ブレ防止機能をオンにします。
- 自動シャッター機能を使用します。これにより、シャッターボタンを押したときに生じるカメラのブレを防ぐことができます。三脚を使用している場合も、自動シャッター機能の利用をお勧めします。

状況に応じて画像を改善する方法

- 画像が暗すぎるか、コントラストが低すぎる。
解決策：照明を明るくします。明るくできない場合は、絞り値を下げてみてください。
- 画像の鮮明さが不十分。
解決策：光量が不十分だったり、至近距離で撮影したりすると、オートフォーカスが正しく機能しないことがあります。明るい照明を使用します。撮影する際にカメラが動かないように三脚と自動シャッターを使用します。
画像のぼやけ方が軽度な場合は、画像エディタに備えられている「**画像修正**」ツールの利用をお試しください。詳細については、「**画像の手動編集**」を参照してください。
- 画像の一部で鮮明さが不十分。
解決策：絞り値を大きくします。光学ズームを最大にして、より離れた位置から撮影します。画像の中心から端までの任意の位置にピントを合わせます。
- フラッシュのためにギラつきが生じる。
解決策：フラッシュをオフにするか、または他の光源を使用し、カメラから文書までの距離を長くします。

画像または PDF ファイルを開く

ABBYY FineReader 12 では PDF

ファイルおよびサポートされている形式の画像ファイルを開くことができます。

PDF ファイルまたは画像ファイルを開くには、以下の手順を行います。

1. メイン ツールバーの [開く] ボタンをクリックするか、[ファイル] メニューで [PDF ファイルまたは画像を開く...] をクリックします。
2. 表示されたダイアログ ボックスで、1 つまたは複数のファイルを選択します。
3. 複数ページのファイルを選択した場合、開くページの範囲を選択できます。
4. 画像の予備処理を自動的に行う場合は [ページが追加されたら自動的に処理] オプションを有効にします。
ヒント: [オプション]
ダイアログでは、どのような欠陥を除去するか、文書を分析するか否かなど、画像の予備処理を行う方法を選択できます。[オプション] ダイアログ ボックスを開くには、[オプション...] ボタンをクリックします。予備処理設定の詳細については、「ファイルを開く場合およびスキャンのオプション」を参照してください。

注意: 新しいページ画像または文書を開く際に FineReader 文書が開いている場合、新しいページはその FineReader 文書の最後に追加されます。FineReader 文書が開いていない場合、新しいページから新規文書が作成されます。

注意: PDF

ファイルによっては、作成者によりアクセスが制限されていることがあります。このような制限にはパスワード保護、文書を開く制限および内容のコピーに関する制限が含まれます。このようなファイルを開く場合は、ABBYY FineReader によりパスワードが求められることがあります。

ファイルを開く場合およびスキャンのオプション

ABBYY FineReader でのスキャン

プロセスおよびページを開くプロセスをカスタマイズするには、以下の方法が利用できます。

- 新しく追加したページの自動的な分析および認識を有効または無効にする
- さまざまな画像の予備処理オプションを選択する
- スキャン インターフェイスを選択する

これらの設定は文書を開いてスキャンするダイアログ ボックス (ABBYY FineReader 12 のスキャン インターフェイスを使用している場合)、および [オプション] ダイアログ ボックス ([ツール]> [オプション...]) の [スキャン/開く] タブで行うことができます。

重要事項 [オプション] ダイアログ

ボックスで行った変更は、新たにスキャンした画像または開いた画像のみに適用されます。

[オプション] ダイアログ ボックスの [スキャン/開く] タブには以下のオプションがあります。

自動分析および認識の設定

既定により、FineReader

文書は自動的に分析と認識が行われますが、この設定は変更することもできます。以下のモードが選択可能です。

- **ページ画像の読み込み（画像処理を含む）**
FineReader 文書に追加された画像は、[画像処理] オプショングループからの設定を使用して予備処理が自動的に行われます。分析と認識も自動的に実行されます。
- **ページ画像の解析（画像処理を含む）**
画像の予備処理および文書分析は自動的に行われますが、認識は手動で起動する必要があります。
- **ページ画像の事前処理**
予備処理のみが自動的に実行されます。分析および認識は手動で開始する必要があります。このモードは、一般的に構造が複雑な文書に使用されます。

FineReader

文書に追加する画像を自動的に処理しない場合は、[ページが追加されたら自動的に処理] の選択を解除します。解除すると、大きな文書を素早く開き、文書内の選択されたページのみを認識して、文書を画像として保存することができます。

画像の予備処理オプション

ABBYY FineReader 12

では、一般的なスキャンとデジタル写真の欠陥を自動的に除去できます。

一般的な修正

- **見開きページを分割する**
このプログラムは見開きページを含む画像を、各ページを含む画像 2 つに自動的に分割します。
- **ページの向きを検出する**
FineReader 文書に追加されたページの向きを自動的に検出し、必要に応じて修正します。
- **画像のデスキュー**
傾きのあるページを自動的に検出し、必要に応じて修正します。
- **台形歪みを修正**
プログラムはデジタル写真および書籍のスキャンデータにある台形歪みや不均等なテキスト行を自動的に検出します。これらの欠陥は適宜修正されます。
- **テキストラインの歪み修正**
プログラムは画像上の不均等なテキスト行を自動的に検出し、台形歪みを修正せずに、テキスト行を直線化します。
- **画像を反転**
必要な場合、ABBYY FineReader 12 では画像の色を反転させて、明るい背景に濃い色のテキストの画像にします。
- **カラーマークを削除**
このプログラムはカラースタンプおよびペンや蛍光ペンでつけられたマークを検出して除去し、そのようなマークにより読み取りにくくなったテキストを認識しやすくします。このツールは白の背景に濃い色のテキストの文書をスキャンすることを目的としたものです。デジタル写真および背景がカラーの文書にはこのオプションを選択しないでください。

- **画像解像度を修正**

ABBYY FineReader 12

は画像の最適な解像度を自動的に決定し、必要に応じて画像の解像度を変更します。

画像修正

- **ページの端を検出**

デジタル写真には有用なデータを含まない境界線が入っている場合があります。プログラムはこのような境界線を検出して削除します。

- **背景を白くする**

ABBYY FineReader は、背景を白くして画像に最適な明るさを選択します。

- **ISO ノイズを低減**

画像からノイズを自動的に除去します。

- **モーション ブラーを削除**

ぼやけたデジタル写真の鮮明さを高めます。

注意：文書をスキャンする際、または開く際にはこれらのオプションをすべて無効にし、画像エディタで必要な予備処理を適用することも可能です。詳細については、「画像の予備処理」を参照してください。

スキャン インターフェイス

既定では、ABBYY FineReader では独自のスキャンインターフェイスを使用します。[スキャン] ダイアログボックスには以下のオプションがあります。

- 解像度、スキャン モード、および明るさ。

- 用紙設定。

- 画像処理。

ヒント：有効にする予備処理機能、除去する欠陥、および文書を自動的に分析して認識するか否かを選択できます。選択を行うには、[ページが追加されたら自動的に処理] オプションを有効にして [オプション...] ボタンをクリックします。

- 複数ページのスキャン：

- a. 自動ドキュメント フィーダ (ADF) を使用する

- b. 両面スキャン

- c. ページ スキャンの遅延時間を秒単位で設定する

ABBYY FineReader 12 のスキャン

インターフェイスに、ご使用のスキヤナとの互換性がない場合、スキヤナのネイティブのインターフェイスを使用できます。スキヤナの付属文書にはこのダイアログボックスおよびその要素に関する説明が記載されているはずです。

画像の予備処理

スキャン画像およびデジタル写真で一般的に見られる歪んだテキスト行、傾き、ノイズ、およびその他の欠陥は、認識の品質を低下させる可能性があります。ABBYY FineReader ではこれらの欠陥を自動的に除去でき、手動で除去することも可能です。

画像の自動予備処理

ABBYY FineReader

は画像の予備処理機能を複数備えています。これらの機能を有効にすると、プログラムは画像の種類に基づいて品質を改善する方法を自動的に決定し、ノイズの除去、傾きの修正、テキスト行の直線化、台形歪みの修正などの必要な処理を適用します。

注意：これらの操作にはかなり時間がかかることがあります。

ABBYY FineReader 12

で開いた画像またはスキャンした画像の予備処理を自動的に実施する場合は、以下の手順を行います。

1. **[オプション]** ダイアログ ボックスを開きます（**[ツール]** > **[オプション…]**）。
2. **[スキャン/開く]** タブをクリックし、**[一般]** グループの **[ページが追加されたら自動的に処理]** オプションが有効になっており、**[画像の予備処理]** グループで必要な操作が選択されていることを確認します。

注意：自動予備処理オプションは、**[画像を開く]** ダイアログ ボックス（**[ファイル]** > **PDF ファイルまたは画像を開く…**）および **[スキャン]** ダイアログ ボックスでも有効または無効にすることができます。

画像の手動編集

自動予備処理を無効にし、画像エディタで画像を手動で編集することができます。

画像を手動で編集するには、以下の説明に従ってください。

1. **[ページ]** メニューで **[画像の編集…]** をクリックして画像エディタを開きます。



画像エディタの左側部分には画像エディタを開いた際に選択されていた FineReader 文書のページが含まれています。右側の部分には画像を編集するためのツールを備えた複数のタブがあります。

2. ツールを選択して必要な変更を加えます。ほとんどのツールは文書内の選択したページまたはすべてのページに適用できます。ページは [選択範囲] ドロップダウン リストまたは [ページ] ウィンドウで選択できます。
3. 画像の編集が完了したら、[画像エディタの終了] ボタンをクリックします。

画像エディタは以下のツールを備えています。

- **推奨される前処理** 画像にどのような調整を行う必要があるかをプログラムが自動的に決定します。適用できる調整には、ノイズおよびぼやけの除去、背景色を明るくするための色反転、傾きの修正、テキスト行の直線化、台形歪みの修正、および画像境界線のトリミングがあります。
- **傾き修正** 画像の傾きを修正します。
- **テキスト行の直線化** 画像上で曲がっているテキスト行を直線化します。
- **画像修正** このグループに含まれているツールではテキスト行の直線化、ノイズおよびぼやけの除去、ならびに文書の背景色の白への変換が可能です。

- **台形歪みの修正**
台形歪みを修正し、有用なデータを含まない画像の端を除去します。このツールを選択すると、青いグリッドが画像上に表示されます。グリッドの隅を画像の隅にドラッグします。この操作を正しく行くと、グリッドの水平線がテキスト行と平行になります。次に **修正** ボタンをクリックします。
- **回転して反転**
このグループのツールを使用すると、画像を回転して垂直または水平に反転させ、画像上のテキストを正しい方向にすることが可能です。
- **分割**
このグループのツールを使用すると、画像を複数の部分に分割できます。これは本をスキャンして見開きページを分割する場合に役立ちます。
- **切り取り** 有用なデータを含まない画像の端を削除します。
- **反転** 画像の色を反転させます。これは標準以外の色のテキスト（濃い色の背景に薄い色のテキスト）を扱う際に役立ちます。
- **解像度** 画像解像度を変更します。
- **明るさとコントラスト** 画像の明るさとコントラストを変更します。
- **レベル** このツールを使用すると、影、光、および中間調の強弱を変更して画像の色彩レベルを調整することができます。
画像のコントラストを上げるには、**入力レベル**
ヒストグラムにある右と左のスライダーを動かします。左のスライダーは画像の中で最も黒いとされる部分の色を設定し、右のスライダーは画像の中で最も白いとされる部分の色を設定します。中央のスライダーを右に動かすと画像が暗くなり、左に動かすと画像が明るくなります。
画像のコントラストを下げるには、出力レベルのスライダーを調節します。
- **消しゴム** 画像の一部を削除します。
- **カラーマークの削除** カラー
スタンプおよびペンや蛍光ペンでつけられたマークを除去し、そのようなマークにより読み取りにくくなったテキストを認識しやすくします。このツールは白の背景に濃い色のテキストの文書をスキャンすることを目的としたものです。デジタル写真および背景がカラーの文書にはこのツールを使用しないでください。

文書の認識

ABBYY FineReader

では、光学式文字認識テクノロジーを使用して、文書画像を編集可能なテキストに変換します。

OCR

を実行する前に、文書全体の構造の分析と、テキスト、バーコード、画像、および表を含むエリアの検出が行われます。OCR 品質は適切な文書の言語、読み取りモード、印刷タイプを認識開始前に選択することで高めることができます。

既定により、ABBYY FineReader

文書は自動的に分析されます。自動認識にはその時点におけるプログラム設定が使用されます。

ヒント：新たに追加した画像の自動分析および自動 OCR は、[オプション] ダイアログボックス ([ツール] > [オプション…]) の [スキャン/開く] タブで無効にできます。

場合によっては、OCR

プロセスを手動で開始できます。例えば、自動認識を無効にし、画像上のエリアを手動で選択するか、または [オプション] ダイアログボックス ([ツール] > [オプション…]) で次の設定を変更した場合です。

- [ドキュメント] タブの認識言語
- [ドキュメント] タブの文書の種類
- [ドキュメント] タブのカラー モード
- 認識オプション ([読み取り] タブにあります)
- 使用するフォント ([読み取り] タブにあります)

OCR プロセスを手動で起動するには

- メイン ツールバーで [読み取り] ボタンをクリックするか、または
- [文書] メニューで [文書の読み取り] をクリックします

ヒント：選択したエリアまたはページを認識するには、[ページ] および [エリア] メニューで適切なオプションを使用するか、またはショートカット メニューを使用します。

FineReader 文書とは何か

プログラムで作業しているときに中間結果を FineReader

文書に保存し、次回、中断したところから作業を再開することができます。FineReader 文書にはソース画像、画像上で認識されたテキスト、ユーザーのプログラム設定、画像上のテキストを認識するためにユーザーが作成したユーザーパターン、言語または言語グループが含まれます。

FineReader 文書での作業

- FineReader 文書を開く
- FineReader 文書への画像の追加

- 文書からのページ削除
- 文書の保存
- 文書を閉じる
- FineReader 文書の分割
- FineReader ドキュメント内のページの順番
- 文書プロパティ
- パターンと言語

FineReader 文書を開く

ABBYY FineReader を起動すると、新しい FineReader 文書が作成されます。この文書を使用するか、または既存の文書を使用することができます。


既存の FineReader 文書を開くには

1. [ファイル] メニューで [FineReader ドキュメントを開く...] をクリックします。
2. 表示されたダイアログ ボックスで必要な文書を選択します。

注意：旧バージョンのプログラムで作成された FineReader 文書を開くと、ABBYY FineReader はそれを FineReader 文書形式の現行バージョンに変換しようとしています。このプロセスは元に戻すことができないため、変換された文書を別の名前で保存するよう求めるメッセージが表示されます。古い文書から認識されたテキストを新しい文書に移すことはできません。

ヒント：ABBYY FineReader を起動する際に、前回作業した文書を開く場合は、[オプション] ダイアログ ボックス ([ツール] > [オプション...] をクリック) の [詳細設定] タブにある [前回使用した FineReader ドキュメントをプログラムの起動時に開く] オプションを選択します。

FineReader 文書を右クリックし、[ABBYY FineReader 12 で開く] をクリックして、Windows Explorer から FineReader

文書を開くこともできます。FineReader 文書には  アイコンが付いています。

FineReader 文書への画像の追加

1. [ファイル] メニューで [PDF ファイルまたは画像を開く...] をクリックします。
2. 表示されたダイアログ ボックスで 1 つまたは複数のファイルを選択し、[開く] をクリックします。開いている FineReader 文書の最後に画像が追加され、そのコピーが文書のフォルダに保存されます。

Windows Explorer から FineReader 文書に画像を追加することもできます。Windows Explorer で画像を右クリックし、ショートカット メニューで [ABBYY FineReaderで開く] をクリックします。この操作を行うときに FineReader 文書がすでに開いている場合、画像はその文書の最後に追加されます。開いていない場合は、新しい FineReader 文書が画像から作成されます。

スキャンを追加することもできます。詳細については、「紙文書のスキャン」を参照してください。

文書からのページ削除

- [ページ] ウィンドウでページを選択して **Delete** キーを押すか、
- [ページ] メニューで [ドキュメントからページを削除] をクリックするか、または
- 選択したページを右クリックして [ドキュメントからページを削除] をクリックします。

[ページ] ウィンドウでは複数のページを選択して削除することができます。

文書の保存

1. [ファイル] メニューで [FineReader ドキュメントを保存...] をクリックします。
2. 表示されたダイアログボックスで文書を保存するフォルダのパスを指定し、文書の名前を入力します。

重要事項 ABBYY FineReader

文書を保存する場合、ページ画像とテキストに加えて、その文書の作業を行っていたときに作成したユーザー パターンおよび言語も保存されます。

文書を閉じる

- 文書のページを閉じるには、[文書] メニューで [現在のページを閉じる] をクリックします。
- 文書全体を閉じるには、[ファイル] メニューで [FineReader ドキュメントを閉じる] をクリックします。

FineReader 文書の分割

複数ページの文書を多数処理する場合、まず文書をすべてスキャンしてから分析と認識を行う方が実用的であることが少なくありません。しかし、それぞれの紙文書の元の書式を保持するために、ABBYY FineReader では各文書を個別の FineReader 文書として処理する必要があります。ABBYY FineReader は、スキャンしたページを個別の文書にグループ分けするツールを備えています。

ABBYY FineReader 文書を複数の文書に分割するには

1. [ファイル] メニューで [FineReader 文書を分割する...] をクリックするか、[ページ] ペインでページを選択し、その選択内容を右クリックして [新しい文書にページを移動する...] をクリックします。
2. 表示されたダイアログボックスで [ドキュメントを追加] ボタンをクリックし、文書を必要な数だけ作成します。
3. 次の 3 つの方法のいずれかを使用して、[ページ] ウィンドウから [新しい文書] ペインに表示されている適切な文書にページを移動します。
 - ページを選択し、マウスでドラッグします。
注意：ドラッグ&ドロップを使用して、文書間でページを移動することもできます。
 - [移動] ボタンをクリックして、選択したページを [新しい文書] ペインにある現在の文書に移動するか、[戻す] ボタンをクリックして [ページ] ウィンドウに戻します。

- キーボード ショートカットを使用して、**Ctrl + 右矢印** を押して選択したページを [ページ] ウィンドウから [新しい文書] ペインにある選択した文書に移動し、戻すには **Ctrl + 左矢印** または **Delete** を使用します。

4. 新しい FineReader 文書へのページの移動が完了したら、[すべて作成] ボタンをクリックしてすべての文書を一度に作成するか、または各文書で個別に [作成] ボタンをクリックします。

ヒント : [ページ] ペインから他の任意の ABBYY FineReader ウィンドウに、選択したページをドラッグ&ドロップすることもできます。これらのページの新しい ABBYY FineReader 文書が作成されます。

FineReader ドキュメント内のページの順番

1. [ページ] ウィンドウでページを 1 つまたは複数選択します。
2. 選択部分を右クリックし、ショートカット メニューで [ページの並び替え...] をクリックします。
3. [ページの並び替え] ダイアログ ボックスで、次のいずれかを選択します。
 - **ページの並び替え (取り消し不可)**
選択したページ以降、すべてのページ番号が連続して変更されます。
 - **両面スキャンの後にページ順を元に戻す**
このオプションでは、自動フィード付きのスキャナを使用して最初に奇数番号のページをすべてスキャンし、次に偶数番号のページをスキャンした場合に、両面ページの文書の元のページ番号付けを復元します。偶数番号のページについては正順と逆順のいずれかを選択できます。

重要事項 このオプションは、連続したページ番号のページが少なくとも 3 ページ以上選択されている場合のみ機能します。

- **ブックのページを差し替える**
このオプションは、左から右方向に書く文字で書かれた本をスキャンして見開きページを分割したものの、言語を正しく指定しなかった場合に役立ちます。

重要事項 このオプションは、少なくとも 2 ページの見開きページを含む、連続したページ番号のページが少なくとも 2 ページ以上ある場合のみ機能します。

注意 : この操作を取り消すには、[直前の処理を元に戻す] を選択します。

4. [OK] をクリックします。

新しい番号付けが反映されて、[ページ] ウィンドウのページの順序が変わります。

注意

1. 特定のページの番号を変更するには、[ページ] ウィンドウでその番号をクリックし、フィールドに新しい番号を入力します。

2. [サムネール]

モードでは、選択したページを文書中の任意の場所にドラッグするだけで、ページの番号付けを変更できます。

文書プロパティ

文書プロパティには、文書に関する情報が含まれています (文書の長いタイトル、作成者、件名、キーワードなど)。文書プロパティは、ファイルの分類に使用できます。また、プロパティで文書を検索したり、文書のプロパティを編集したりできます。

PDF 文書および特定の種類の画像ファイルを認識する場合、ABBYY FineReader ではソース文書のプロパティをエクスポートします。これらのプロパティは編集できます。

文書プロパティを追加または修正するには

- [ツール] > [オプション...] をクリックします。
- [ドキュメント] タブをクリックし、[ドキュメント プロパティ] グループでタイトル、作成者、件名およびキーワードを指定します。

パターンと言語

パターンと言語の設定を保存し、ファイルから設定を読み込むことができます。

パターンと言語を 1 つのファイルに保存するには

1. [オプション] ダイアログ ボックスを開いて ([ツール] > [オプション...])、[読み取り] タブをクリックします。
2. [ユーザー パターンとユーザー言語] の項目で、[ファイルに保存...] ボタンをクリックします。
3. 表示されたダイアログ ボックスで、ファイルの名前を入力して保存場所を指定します。

このファイルには、ユーザー言語、ユーザー言語グループ、ユーザー辞書、およびユーザーパターンが保存されているフォルダへのパスが含まれます。

パターンと言語を読み込むには

1. [オプション] ダイアログ ボックスを開いて ([ツール] > [オプション...])、[読み取り] タブをクリックします。
2. [ユーザー パターンとユーザー言語] の項目で、[ファイルから読み込む...] ボタンをクリックします。
3. [読み込みオプション] ダイアログ ボックスで、必要なユーザーパターンとユーザー言語を含むファイル (*.fbt の拡張子があるもの) を選択し、[開く] をクリックします。

OCR の前に検討すべき文書の特性

画像の品質は認識品質に大きく影響します。このセクションでは、画像を認識する前に考慮すべき要素について説明します。

- 文書の言語

- 印刷タイプ
- 印刷品質
- カラー モード

文書の言語


ABBYY FineReader では、単一言語と多言語（2 つ以上の言語で書かれている場合など）の両方の文書を認識できます。多言語の文書の場合は、複数の認識言語を選択する必要があります。

文書の OCR 言語を指定するには、メイン ツールバーの [文書の言語] ドロップダウン リスト、または [タスク] ウィンドウで次のうち 1 つを選択します。

- **自動選択**
ユーザー定義の言語リストから適切な言語が自動的に選択されます。このリストに変更を加えるには
 1. [その他の言語...] を選択します。
 2. [言語エディタ] ダイアログ ボックスで、[次の一覧からドキュメントの言語を自動選択します] オプションを選択します。
 3. [指定...] ボタンをクリックします。
 4. [言語] ダイアログ ボックスで、必要な言語を選択します。
- **1 つの言語または言語の組み合わせ**
1 つの言語または言語の組み合わせを選択します。言語のリストには、最近使用した認識言語のほか、英語、ドイツ語、フランス語が含まれています。
- **その他の言語...**
必要な言語がリストに見当たらない場合は、このオプションを選択します。

[言語エディタ] ダイアログ ボックスで、[言語を手動で指定する] オプションを選択し、必要な言語のボックスにチェックを付けて、その言語を選択します。特定の言語の組み合わせを頻繁に使用する場合は、その言語の新しいグループを作成できます。

言語がリストに含まれていない場合は次のいずれかが考えられます。

1. その言語は、ABBYY FineReader ではサポートされていません。
2. その言語は、ご使用のソフトウェアではサポートされていません。
 ご使用の製品で利用可能なすべての言語のリストは、[ライセンス] ダイアログ ボックス ([ヘルプ] > [バージョン情報...] > [ライセンス情報]) に記載されています。

組み込まれている言語および言語グループに加えて、独自の言語を作成できます。詳細については、「一部の文字をプログラムが認識できなかった場合」を参照してください。

印刷タイプ

文書はタイプライターや FAX 機などのさまざまな機器で印刷されることがあります。OCR 品質は [オプション] ダイアログ ボックスで正しい [ドキュメント タイプ] を選択することにより高めることができます。

ほとんどの文書の場合、印刷タイプはプログラムによって自動的に検出されます。印刷タイプの自動検出を行うには、[オプション] ダイアログ ボックスの [ドキュメント タイプ] の項目で [自動] オプションを選択する必要があります ([ツール] > [オプション…])。文書は、フルカラーまたはモノクロのモードで処理できます。

また、必要に応じて手動で印刷タイプを選択することもできます。

<p>software</p>	<p>タイプライターで書かれたテキストの例です。文字の幅がすべて等しくなっています (例えば、「w」と「t」を比較してください)。この種のテキストの場合は、[タイプライター (モノクロ モードのみ)] を選択します。</p>
<p>software</p>	<p>FAX 機で作成されたテキストの例です。この例に見られるように、ノイズと歪みに加えて、場所によっては文字が不鮮明です。この種のテキストの場合は、[FAX (モノクロ モードのみ)] を選択します。</p>

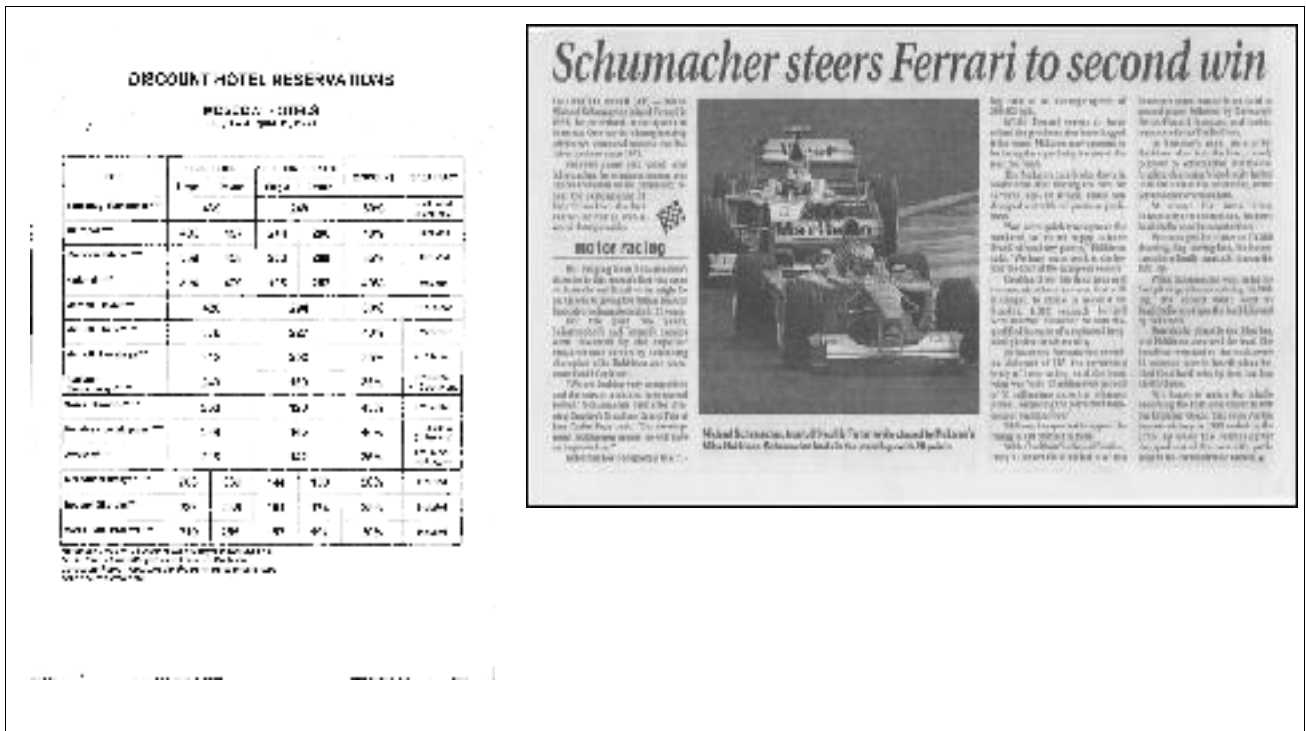
ヒント：タイプライターで作成されたテキストまたは FAX を認識した後、通常の印刷物进行处理する前に、必ず [自動] を選択してください。

印刷品質

「ノイズ」

(すなわち、不均一な黒い点や斑点)、ぼやけてむらのある文字、傾いた行や表の罫線のある低品質の文書は、特定のスキャン設定が必要な場合があります。

<p>FAX</p>	<p>新聞</p>
------------	-----------



低品質の文書は、グレースケールでスキャンするのが最善です。グレースケールでスキャンする場合、プログラムにより最適な明るさの値が自動的に選択されます。

グレースケールのスキャン

モードでは、品質が中レベルから低レベルの文書を認識する場合の OCR 結果を高めるために、スキャンするテキストの文字についてより多くの情報を保持します。また、画像エディタで利用可能な画像編集ツールを使用して、一部の欠陥を手動で修正することもできます。詳細については、「画像の予備処理」を参照してください。

カラー モード

フルカラーの文書の元の色を保持する必要がない場合は、文書をモノクロモードで処理できます。これにより、処理によって作成される ABBYY FineReader 文書のサイズが大幅に小さくなり、OCR 処理も高速になります。ただし、コントラストの低い画像をモノクロで処理すると、OCR 品質が低くなる場合があります。また、写真、雑誌のページ、および中国語、日本語、韓国語のテキストの場合は、モノクロ処理をお勧めしません。

注意： [高速読み取り] オプション ([オプション] ダイアログ ボックスの [読み取り] タブにあります)

を選択し、カラーおよびモノクロの文書の認識を高速化することもできます。認識モードについての詳細は、「OCR オプション」を参照してください。

カラー モードを選択するには

- [タスク] ダイアログ ボックスの [カラー モード] ドロップダウン リストを使用するか、または
- [オプション] ダイアログ ボックス ([ツール] > [オプション…]) の [ドキュメント] タブにある [カラー モード] のオプションのうち 1 つを選択します。

重要事項

文書をモノクロに変換した後で、色を復元することはできません。カラーの文書を取得するには、カラー画像を含むファイルを開くか、または紙文書をカラー モードでスキャンします。

OCR オプション

正確な結果を素早く得るには、適切な OCR

オプションを選択することが大切です。使用するオプションを決める際に、文書の種類と複雑さだけでなく、結果をどのように使用する予定であるかについても考慮してください。以下のオプションのグループが利用可能です。

- 読み取りモード
- 構造要素を検出
- 学習機能
- ユーザー パターンとユーザー言語
- フォント
- バーコード

OCR オプションは、[オプション] ダイアログ ボックス ([ツール] > [オプション…]) の [読み取り] タブにまとめられています。

重要事項 ABBYY FineReader では、FineReader

文書に追加されたページを自動的に認識します。認識には、現在選択されているオプションが使用されます。新たに追加した画像の自動分析および自動 OCR は、[オプション] ダイアログ ボックス ([ツール] > [オプション…]) の [スキャン/開く] タブで無効にできます。

注意： 文書を認識した後で OCR オプションを変更した場合は、OCR プロセスを再度実行し、新しいオプションで文書を認識してください。

読み取りモード

ABBYY FineReader 12 には 2 種類の読み取りモードがあります。

- **綿密な読み取り**
このモードでは、ABBYY FineReader は単純な文書と、複雑なレイアウトの文書の両方の分析と認識を行います。これには、カラーの背景に印刷されたテキストのある文書や、複雑な表（白い格子線のある表、カラーのセルのある表を含む）のある文書が含まれます。
注意：[高速] モードに比べて、[綿密] モードは時間がかかりますが、認識品質は確実に高くなります。
- **高速読み取り**
このモードは、レイアウトがシンプルで、画像の品質が高く、サイズの大きな文書の処理に推奨されます。

構造要素を検出

プログラムに検出させるヘッダー、フッター、目次、リストなどの構造要素を選択します。選択された要素は文書が保存される際にインタラクティブになります。

学習機能

学習機能を伴う認識は、以下の種類のテキストを認識するために使用します。

- 装飾的要素のあるテキスト

- 特殊な記号を含むテキスト（一般的に使用されていない数学記号など）
- 低画質の画像からの大量のテキスト（100 ページ以上）

[調整を伴う読み取り] オプションは、既定により無効になっています。ABBYY FineReader の学習機能を使用するには、テキストを認識する際にこのオプションを有効にします。

認識には組み込みのパターン、またはカスタム パターンを使用できます。[調整] の項目のオプションをいずれか 1 つ選択し、使用するパターンを選択します。

ユーザー パターンとユーザー言語

ユーザー パターンおよびユーザー言語の設定を保存し、読み込むことができます。

フォント

ここでは、認識したテキストを保存する際に使用するフォントを選択できます。

- フォントを選択するには
 1. [フォント...] ボタンをクリックします。
 2. 必要なフォントを選択し、[OK] をクリックします。

バーコード

文書にバーコードが含まれており、画像として保存する代わりに文字と数字の列に変換する場合は、[バーコードを探す] を選択します。この機能は既定により無効になっています。

複合文字の言語での作業

ABBYY FineReader

ではアラビア語、ヘブライ語、イディッシュ語、タイ語、中国語、日本語、および韓国語の文書を認識できます。CJK

と欧州言語の組み合わせが使用される中国語、日本語、または韓国語の文書で作業する場合、留意すべき追加的な検討事項がいくつかあります。

- 言語サポートのインストール
- 推奨されるフォント
- 自動画像処理の無効化
- 複数の言語で書かれた文書の認識
- 非欧文文字が [テキスト] ウィンドウに表示されない場合
- 認識したテキストの向きの変更

言語サポートのインストール

アラビア語、ヘブライ語、イディッシュ語、タイ語、中国語、日本語、韓国語で書かれたテキストを認識するためにはそれぞれの言語のインストールを必要とすることがあります。

Microsoft Windows 8、Windows 7、および Windows Vista では、既定によりこれらの言語をサポートしています。

Microsoft Windows XP で新しい言語をインストールするには

1. タスクバー で [スタート] をクリックします。
2. [コントロール パネル] > [地域と言語のオプション] をクリックします。
3. [言語] タブをクリックし、以下のオプションを選択します。
 - **複合文字や右から左方向に書く言語（タイ語を含む）のファイルをインストールする**
アラビア語、ヘブライ語、イディッシュ語、およびタイ語のサポートを有効にします
 - **東アジア言語のファイルをインストールする**
日本語、中国語、および韓国語のサポートを有効にします
4. [OK] をクリックします。

推奨されるフォント

アラビア語、ヘブライ語、イディッシュ語、タイ語、中国語、日本語、および韓国語のテキストの認識は、Windows への追加フォントのインストールを必要とする場合があります。下記の表は、これらの言語のテキストに推奨されるフォントをまとめたものです。

OCR 言語	推奨されるフォント
アラビア語	Arial™ Unicode™ MS*
ヘブライ語	Arial™ Unicode™ MS*
イディッシュ語	Arial™ Unicode™ MS*
タイ語	Arial™ Unicode™ MS* Aharoni David Levenim mt Miriam Narkisim Rod
中国語（簡体字） 中国語（繁体字） 日本語、韓国語、 韓国語（ハングル）	Arial™ Unicode™ MS* SimSun フォント 例：SimSun (Founder Extended)、SimSun-18030、NSimSun

	Simhei
	YouYuan
	PMingLiU
	MingLiU
	Ming(for-IS010646)
	STSong

* このフォントは、Microsoft Windows XP および Microsoft Office 2000 以降とともにインストールされます。

下記のセクションでは認識精度を高めるためのアドバイスが説明されています。

自動処理の無効化

既定では、ABBYY FineReader 文書に追加したページはすべて自動的に認識されます。

ただし、CJK

言語と欧州言語を組み合わせたテキストが文書に含まれている場合は、ページの向きの自動検出を無効にし、すべてのページ画像が正しい向きになっている

(例えば、上下逆さまにスキャンされていない、など)

場合のみ、見開きページを分割するオプションを使用することをお勧めします。

[ページの向きを検出する] オプションと [見開きページを分割する] オプションは、[オプション] ダイアログ ボックスの [スキャン/開く] タブで有効または無効にできます。

注意：アラビア語、ヘブライ語、イディッシュ語のページを分割するには、必ず対応する認識言語を最初に選択し、その後で [見開きページを分割する]

オプションを選択してください。これにより、ページが必ず正しい順序で並べられるようになります。また、[ブックのページを差し替える]

オプションを選択して、元のページ番号に戻すこともできます。詳細については、「FineReader 文書とは何か」を参照してください。

文書の構造が複雑な場合は、画像の自動分析と自動 OCR を無効にし、これらの操作を手動で行うことをお勧めします。

自動分析と自動 OCR を無効にするには

1. [オプション] ダイアログ ボックスを開きます ([ツール] > [オプション…])。
2. [ページが追加されたら自動的に処理] のオプションを、[スキャン/開く] タブで解除します。
3. [OK] をクリックします。

複数の言語で書かれた文書の認識

下記の説明では、英語と中国語のテキストを両方含む文書が例になっています。

1. メイン ツールバーで、[ドキュメントの言語] ドロップダウン リストから [その他の言語...] を選択します。[言語エディタ] ダイアログ ボックスで [言語を手動で指定する] を選択し、言語リストから中国語と英語を選択します。
2. 画像をスキャンするか、開きます。
3. プログラムが画像上のすべてのエリアを検出できなかった場合

- エリア編集ツールを使用して手動でエリアを指定します。

- 1

つの言語のみを含むエリアを指定します。これを行うには、それらを選択し、[領域のプロパティ] ペインでそれぞれの言語を指定します。

重要事項

言語は同じ種類のエリアのみに指定できます。テキスト、表などの異なる種類のエリアを選択した場合、言語を指定することはできません。

- 必要な場合は、[向き] ドロップダウン リストでテキストの向きを選択します (詳細については、「縦書きのテキストまたは反転したテキストが正しく認識されない場合」を参照してください)。
- CJK 言語のテキストの場合は、[CJK テキストの向き] ドロップダウン リストでテキストの向きを選択できます (詳細については、「縦書きのテキストまたは反転したテキストが正しく認識されない場合」を参照してください)。

4. メイン ツールバーで [読み取り] ボタンをクリックします。

非欧文文字が [テキスト] ウィンドウに表示されない場合

CJK 言語のテキストが [テキスト] ウィンドウで正しく表示されない場合は、[テキストのみ] モードが選択されている可能性があります。

[テキストのみ] モードで使用されるフォントを変更するには

1. [オプション] ダイアログ ボックスを開きます ([ツール] > [オプション...])。
2. [表示] タブをクリックします。
3. [プレーン テキストの表示に使用するフォント] ドロップダウン リストから [Arial Unicode MS] を選択します。
4. [OK] をクリックします。

問題が解消されず、[テキスト]


ウィンドウでテキストが依然として正しく表示されない場合は、「テキスト ウィンドウで一部の文字が「?」または「□」で置き換えられている場合」を参照してください。

認識したテキストの向きの変更

ABBYY FineReader

はテキストの向きを自動的に検出しますが、テキストの向きを手動で指定することもできます。

1. [テキスト] ウィンドウで 1 つまたは複数の段落を選択します。

2. [テキスト] ウィンドウのツールバーにある  ボタンをクリックします。

注意：認識の前に [画像] ウィンドウの [CJK テキストの向き] ドロップダウンリストを使用してテキストの向きを指定することができます。詳細については、「縦書きのテキストまたは反転したテキストが認識されない場合」を参照してください。

OCR 品質を高めるためのヒント

このセクションでは、文書の構造に最も適した OCR オプションと、標準以外の状況に対応する適切な設定を選択するためのアドバイスを提供します。

- 紙文書の複雑な構造が電子文書で再現されない場合
- エリアが正しく検出されない場合
- レイアウトが類似した文書を多数処理する場合
- 表が検出されない場合
- 画像が検出されない場合
- エリア プロパティの調整
- [テキスト] ウィンドウに文字ではなく「?」または「□」が表示される場合
- 印刷した文書に標準以外のフォントが含まれる場合
- テキストに特殊な用語や珍しい用語が多数含まれている場合
- 一部の文字をプログラムが認識できなかった場合
- 縦書きのテキストまたは反転したテキストが認識されない場合
- バーコードが検出されない場合

紙文書の複雑な構造が再現されない場合

文書の認識プロセスを実行する前に、ABBYY FineReader では文書の論理的構造の分析を行い、テキスト、画像、表、およびバーコードを含むエリアを検出します。その後、プログラムはこの分析に基づいてエリアを識別し、認識順序を決定します。この情報は、元の文書の書式を再生する上で役立ちます。

既定により、ABBYY FineReader では文書を自動的に分析します。ただし、書式設定が非常に複雑な場合は一部のエリアが正しく検出されないことがあり、その場合は、それらのエリアを手動で修正できます。

エリアを修正するには、次のツールを使用します。

- [画像] ウィンドウのツールバーにあるエリアの手動調整ツール
- [画像] ウィンドウまたは [ズーム] ウィンドウで選択したエリアを右クリックして使用できるショートカットメニューのコマンド
- [エリア] メニューのコマンド

必要な調整を行った後で OCR プロセスを再起動します。

認識設定、エリア プロパティ、および保存設定も、元の文書のレイアウトが良好に保持される程度に影響を及ぼ

します。詳細については、「OCR オプション」、「エリア プロパティの調整」、および「OCR 結果の保存」のセクションを参照してください。

エリアが正しく検出されない場合

ABBYY FineReader

では、認識の前にページ画像を分析し、テキスト、画像、背景画像、表、バーコードのエリアなど、画像上のさまざまな種類のエリアを検出します。この分析により、認識されるエリアと認識の順序が決まります。ユーザーインターフェイスでは、さまざまなエリアの種類がそれぞれ異なる色の境界線で区別されます。

あるエリアをクリックすると、そのエリアが強調表示されてアクティブになります。また、Tab キーを押してエリアをナビゲートすることもできます。エリアの番号で、Tab キーを押した際に選択される順番が決まります。デフォルトでは、これらのエリア番号はイメージウィンドウでは非表示であり、**エリアの順番**ツールが選択された場合にのみ表示されます。

エリアの描画と編集を手動で行うためのツールは、**[画像]** ウィンドウと、**テキスト**、**画像**、**背景画像**、および**表**のエリアのポップアップツールバーにあります（ポップアップツールバーはアクティブなエリアの横に表示されます）。

重要事項 エリアの編集を終えた後で、OCR プロセスを再度実行します。

エリア編集ツールを使用して以下のことが可能です。

- 新しいエリアを作成する
- エリアの境界線を調整する
- エリアの一部を追加または削除する
- 1 つまたは複数のエリアを選択する
- エリアを移動する
- エリアを並べ替える
- エリアを削除する
- エリア内のテキストの向きを変更する
- エリアの境界線の色を変更する

新しいエリアを作成する

1. **[画像]** ウィンドウでツールをクリックします。



認識エリアを描画します



テキスト エリアを描画します



画像エリアを描画します



背景画像エリアを描画します



表エリアを描画します

2. エリアを描画するには、マウスの左ボタンを押しながらマウス ポインタを動かします。

新しいエリアは、[画像]

ウィンドウのツールバーでツールを選択せずに描画できます。次のキーの組み合わせのいずれかを使って画像にエリアを描画することができます。

- Ctrl + Shift で**テキスト** エリアを描画します
- Alt + Shift で**画像**エリアを描画します
- Ctrl + Alt で**表**エリアを描画します
- Ctrl + Shift + Alt で**バーコード** エリアを描画します

エリアの種類を変更できます。選択したエリアを右クリックし、ショートカット メニューで [エリアの種類変更] をクリックしてから、任意のエリアの種類をクリックします。



エリアの境界線の調整

1. マウスのカーソルをエリアの境界線上に置きます。
2. 左クリックして任意の方向にドラッグします。

注意： マウス

カーソルをエリアの角に置いて、エリアの縦と横の境界線を同時に調整することができます。







エリアの一部の追加/削除

1. **テキスト、画像または背景画像**のエリアのポップアップ ツールバーで  /  ツールを選択します。
2. エリア内にマウスのカーソルを置き、画像の一部を選択します。その部分がエリアに追加されるか、またはエリアから削除されます。
3. 必要に応じて、エリアの境界線を調整します。

注意

4. これらのツールは、**テキスト、画像または背景画像**のエリアのみに適用できます。**表**エリアまたは**バーコード** エリアの一部を追加または削除することはできません。
5. エリアの境界線は、**サイジング** ハンドルを追加して調整することもできます。作成された部分は、マウスを使って任意の方向にドラッグできます。新しいサイジング ハンドルを追加するには、Ctrl + Shift を押しながら (これによりカーソルが矢印から十字に変化)、境界線上の任意の位置にカーソルを置いてクリックします。エリアの境界線に新しいサイジング ハンドルが表示されます。


1 つまたは複数のエリアの選択

- [画像] ウィンドウのツールバーで、、、、、、 または  ツールのいずれかを選択し、Ctrl キーを押しながら、任意のエリアをクリックします。選択を取り消すには、選択したエリアをもう一度クリックします。

エリアの移動

- エリアを選択し、Ctrl キーを押しながら動かします。


エリアの並べ替え

1. ツールバーで  をクリックするか、[エリア] メニューで [領域を並べ替える] をクリックします。
2. 出力文書に必要な順序でエリアを選択します。

注意:

自動ページ認識の際に、画像上のテキストの向きにかかわらず、エリアには左から右方向に自動的に番号が付けられます。

エリアの削除

- 削除するエリアを選択し、Delete キーを押します。
- 削除するエリアを選択してその 1 つを右クリックし、ショートカット メニューで [削除] をクリックします。
-  ツールを選択し、削除するエリアをクリックします。

エリアをすべて削除するには

- 画像のショートカット メニューで [領域とテキストをすべて削除] をクリックします。

重要事項 すでに認識された画像からエリアを削除すると、[テキスト] ウィンドウ内の対応する部分も削除されます。

テキストの向きの変更

- エリアを右クリックし、ショートカット メニューで [プロパティ] をクリックして [領域のプロパティ] ペインを開き、[向き] ドロップダウン リストで任意のテキストの向きを選択します。

テキスト エリアのテキスト プロパティの編集についての詳細は、「テキスト エリア プロパティの調整」を参照してください。

エリアの境界線の色の変更

1. [オプション] ダイアログ ボックス ([ツール] > [オプション…]) を開き、[表示] タブをクリックします。
2. [外観] の項目でエリアの種類を選択し、[カラー] パレットで色を選択します。

レイアウトが類似した文書を多数処理する場合

レイアウトが同じ多数の文書（フォームやアンケート用紙など）を処理する場合、ページごとにレイアウトを分析すると非常に時間がかかります。時間を節約するには、類似した一連の文書のうち 1 部のみを分析し、検出したエリアをテンプレートとして保存することができます。その後、このテンプレートを同じセットの他の文書に使用できます。

エリア テンプレートを作成するには

1. 画像を開き、プログラムでレイアウトを自動的に分析するか、またはエリアを手動で描画します。
2. [エリア] メニューで [領域テンプレートを保存...] をクリックします。保存ダイアログボックスでテンプレートの名前を入力し、[保存] をクリックします。

重要事項 エリア

テンプレートを使用できるようにするには、一連の文書をすべて同じ解像度を使用してスキャンする必要があります。

エリア テンプレートの適用

1. [ページ] ウィンドウで、エリア テンプレートを適用するページを選択します。
2. [エリア] メニューで [領域テンプレートを読み込む...] をクリックします。
3. [領域テンプレートを開く] ダイアログ ボックスで、必要なエリア テンプレートを選択します（エリア テンプレート ファイルには、*.blk の拡張子が付いています）。
4. 同じダイアログ ボックスで、[適用先] の横にある [選択したページ] を選択し、選択したページにテンプレートを適用します。



注意：現在の ABBYY FineReader

文書のすべてのページにテンプレートを適用するには、[すべてのページ] を選択します。

5. [開く] ボタンをクリックします。

表が検出されない場合


表エリアは、表または表形式で配置されたテキストを示します。表が自動的に検出されない場合は、[表] ツールを使用して表を囲む表エリアを描画します。


1. [画像] ウィンドウの上部にあるツールバーで  ツールを選択し、マウスを使って画像にある表を囲む四角形を描画します。
2. 表を右クリックし、ショートカット メニューで [表構造の分析] をクリックするか、表エリアのポップアップ ツールバーで  ボタンをクリックします。
3. ポップアップ ツールバー、表エリアのショートカット メニュー、または [エリア] メニューのコマンドを使用して結果を編集します。
4. OCR プロセスを再度実行します。

すでに認識されたエリアの種類を変更できます。エリアの種類を [表] に変更するには、そのエリアを右クリックし、ショートカットメニューで [エリアの種類を変更] > [表] をクリックします。

ABBYY FineReader

で表の行と列が自動的に正しく検出されなかった場合は、レイアウトを手動で調整して OCR プロセスを再度実行することができます。

- [エリア] メニューのコマンドまたは表エリアのショートカットメニューにあるコマンドを使用し、次の操作を行います。
- 表構造の分析（表の構造を自動的に分析し、縦横の罫線を引く手間を省きます）
- セルの分割、セルの結合 および 行の結合（正しく識別されなかった行または列を修正できます）
- 選択した表のポップアップ ツールバーを使用し、縦または横の罫線の追加、表の罫線の削除、表構造の分析、表のセルの分割、または表のセルもしくは行の結合の操作を行います（[表] エリアをクリックし、ポップアップ ツールバーから適切なツールをクリックします：



ヒント：ポップアップ ツールバーで  ツールをクリックし、オブジェクトを選択します。

注意


1. セル分割のコマンドは、それ以前に結合した表のセルにのみ適用可能です。
2. 表のセルまたは行を結合するには、画像上でセルまたは行を選択してから、適切なツールまたはメニュー コマンドを選択します。
3. 表に縦のテキストセルが含まれている場合は、まずテキストのプロパティを変更しなければならないことがあります。
4. 表のセルに画像のみが含まれている場合は、[領域のプロパティ] ペインで [選択したセルを画像として扱う] オプションを選択します（エリアを右クリックし、ショートカットメニューで [プロパティ] をクリックします）。セルに画像とテキストの組み合わせが含まれている場合は、画像を選択してセル内の専用のエリアに変えます。

画像が検出されない場合

画像エリアは、文書に含まれる画像を示します。テキストの一部の認識を行わない場合は、[画像] エリアを使用することもできます。画像が自動的に検出されない場合は、[画像] ツールを使用して画像を囲む画像エリアを手動で描画します。

1. [画像] ウィンドウの上部にあるツールバーで  ツールを選択し、マウスを使って画像を囲む四角形を描画します。
2. OCR プロセスを再度実行します。

画像に重ねて印刷されたテキストが文書にある場合は、その画像を囲む [背景画像] エリアを描画します。

1. [画像] ウィンドウで、ツールバーにある  を選択し、画像の周囲に枠を描画します。
注意:
このツールがツールバーに表示されていない場合は、追加してください。追加方法の詳細については、「ツールバー」を参照してください。
2. OCR 処理を開始します。

既存のエリアを [画像] または [背景画像] に変更できます。エリアを右クリックして、[エリアの種類を変更] > [画像] または [エリアの種類を変更] > [背景画像] をクリックします。

バーコードが検出されない場合

バーコード

エリアは、文書に含まれるバーコードを示します。文書にバーコードが含まれており、それを画像としてではなく、文字と数字の列として表示する場合は、そのバーコードを選択し、エリアの種類を [バーコード] に変更します。

注意: バーコード認識は、既定では無効になっています。バーコード認識を有効にするには、[ツール] > [オプション...] をクリックし、[読み取り] タブをクリックして [バーコードを探す] オプションを選択します。

バーコード エリアを描画して認識するには

1. [画像] ウィンドウまたは [ズーム] ウィンドウで、**Ctrl + Shift + Alt** を押しながらマウスを使用して、バーコードを選択します。
2. OCR プロセスを実行します。

サポートされているバーコードの種類

- コード 3/9
- チェック コード 3/9
- アスタリスクなしのコード 3/9
- コーダバー
- コード 93
- コード 128
- EAN 8
- EAN 13
- IATA 2/5
- インターリーブド 2/5
- インターリーブド 2/5 のチェック
- マトリックス 2/5

- Postnet
- インダストリアル 2/5
- UCC-128
- UPC-A
- UPC-E
- PDF417
- Aztec コード
- データ マトリクス
- QR コード
- パッチ コード

注意：既定のバーコードの種類は **[自動検出]**

です。これは、バーコードの種類が自動的に検出されることを意味します。しかし、すべてのバーコードが自動的に検出できるわけではないため、時として **領域のプロパティ** ペインで適切な種類を手動で選択する必要があります。

ABBYY FineReader では、コード 3/9、コード 93、コード 128、EAN 8、EAN 13、Postnet、UCC-128、UPC-E、PDF417、UPC-A および QR コードのバーコードを自動的に検出できます。

エリア プロパティの調整

自動文書分析を実行する際に、ABBYY FineReader

では文書のページ上のさまざまな**エリアの種類**（表、画像、テキスト、バーコードなど）を検出します。また、文書構造の分析を行い、見出しのほか、ヘッダーとフッター、画像と図のキャプションなど、その他のレイアウト要素を識別します。

一部の **[テキスト]** エリアおよび **[表]**

エリアで正しく定義されていないプロパティは、手動で変更できます。



1. **[画像]** ウィンドウまたは **[ズーム]** ウィンドウでエリアを選択し、**[画像]** ウィンドウの **[領域のプロパティ]** ペインでプロパティを調整します。

[領域のプロパティ] ペインでは、次のプロパティを設定できます。

- **言語** 詳細については、「OCR の前に検討すべき文書の特性」を参照してください。
- **機能**では、ヘッダーやフッター、注釈などといったようなテキストの機能を表示しています（**テキスト**エリアにのみ適用されます）。
- **向き** 詳細については、「縦書きのテキストまたは反転したテキストが認識されない場合」を参照してください。
- **印刷タイプ** 詳細については、「OCR の前に検討すべき文書の特性」を参照してください。

- **反転**
詳細については、「縦書きのテキストまたは反転したテキストが認識されない場合」を参照してください。
- **CJK テキストの向き**
詳細については、「複合文字の言語での作業」を参照してください。

注意

- α. **[画像]** ウィンドウが狭く、プロパティ ペイン全体を表示できない場合は、 /  ボタンを使用して、プロパティ ペイン内を左右に移動します。
- β. 一部のテキスト プロパティは、**[テキスト]** エリアを右クリックして利用可能になるショートカットメニューを使用して修正できます。

必要な変更を行った後で OCR プロセスを実行します。

正しくないフォントが使用されているか、一部の文字が「？」または「□」で置き換えられている場合

[テキスト]

ウィンドウで、文字が「？」または「□」で置き換えられている場合は、認識したテキストを表示するために選択したフォントに、テキストで使用されている文字がすべて含まれているかどうか確認してください。

OCR プロセスを再起動せずに、認識されたテキストのフォントを変更することができます。

短い文書のフォントを変更するには

1. テキストの中で一部の文字が正しく表示されていない部分を選択します。
2. 選択部分を右クリックし、ショートカット メニューで **[プロパティ]** をクリックします。
3. **[テキストのプロパティ]**
ペインで、必要なフォントを選択します。選択したテキスト部分のフォントが変更されず。

スタイルが使用されている長い文書のフォントを変更するには

1. **[ツール]** メニューで **[スタイル エディタ…]** をクリックします。
2. **[スタイル エディタ]** ダイアログボックスで、必要なスタイルを選択し、フォントを変更します。
3. **[OK]** をクリックします。そのスタイルが使用されているすべてのテキスト部分のフォントが変更されます。

重要事項 ABBYY FineReader

文書が別のコンピュータで認識または編集された場合、ご使用のコンピュータではその文書のテキストが正しく表示されないことがあります。このような場合には、その文書で使用されているすべてのフォントが、ご使用のコンピュータにインストールされていることを確認してください。

印刷した文書に標準以外のフォントが含まれる場合

学習機能モードは、装飾的なフォントのある文書や、特殊文字（数学記号など）を含む文書の OCR 品質を高めめます。

注意：学習機能モードを他の場合に使用した場合は、学習機能に費やされる時間と努力と比較して認識品質の向上が微々たるものであるため、推奨されません。

学習機能モードでは、テキスト全体の OCR を実行する際に使用できるユーザーパターンが作成されます。

- ユーザー パターンの使用
- ユーザー パターンの作成および学習
- ユーザー パターンの選択
- ユーザー パターンの編集

ユーザー パターンの使用

文書の認識にパターンを使用するには

1. [オプション] ダイアログ ボックスを開いて ([ツール] > [オプション…])、[読み取り] タブをクリックします。
2. [調整] の項目で、[ユーザー パターンのみを使用する] オプションを選択します。

注意：[ユーザー パターンとビルトイン パターンを使用する] を選択すると、ABBYY FineReader 12 では ユーザー パターンと、OCR の工場初期設定のパターンの両方が使用されます。

3. [パターン エディタ…] ボタンをクリックします。
4. [パターン エディタ] ダイアログ ボックスで、必要なパターンを選択して [OK] をクリックします。
5. ABBYY FineReader のメイン ウィンドウで、[読み取り] ボタンをクリックします。

ユーザー パターンの作成および学習

ユーザー パターンの学習機能を使用して新しい文字と合字を認識するには

1. [オプション] ダイアログ ボックスを開いて ([ツール] > [オプション…])、[読み取り] タブをクリックします。
2. [調整] の項目で [ユーザー パターンとビルトイン パターンを使用する] または [ユーザー パターンのみを使用する] を選択します。
3. [調整を伴う読み取り] オプションを選択します。
4. [パターン エディタ…] ボタンをクリックします。
注意：アジア言語では、パターン学習機能はサポートされていません。
5. [パターン エディタ] ダイアログ ボックスで、**新規…**をクリックします。
6. [パターンの作成] ダイアログ ボックスが開きます。ユーザー パターンの名前を入力し、[OK] をクリックします。

7. [パターン エディタ] および [オプション] のダイアログ ボックスで[OK] ボタンをクリックして各ダイアログ ボックスを閉じます。
8. [画像] ウィンドウの上部にあるツールバーで、[読み取り] をクリックします。これで、不明な文字が見つかった場合は[パターンの調整中] ダイアログ ボックスにその文字が表示されます。



9. 新しい文字および合字を読むことができるようにプログラムに学習させます。


合字とは、「密着した」2つか3つの文字の組み合わせ (fi、fl、ffi など) で、プログラムにとって見分けることが困難です。実際には、これらの文字を1つの複合文字として取り扱うことによって、よりよい結果が得られます。

注意：テキスト内で太字または斜体で書かれた単語、または上付き文字/下付き文字の単語は、[文字飾り] の項目で対応するオプションを選択することにより、認識したテキストで保持できます。

前に学習した文字に戻るには、[戻る]

ボタンをクリックします。枠が前の位置に移動し、直前に学習した「文字画像とキーボード文字」の組み合わせがパターンから削除されます。[戻る] ボタンは1つの単語の文字の間を移動するためのもので、単語間を移動することはできません。

重要事項

- ABBYY FineReader に読み取りを学習させることができるのは、認識言語の英文字に含まれる文字のみです。キーボードで入力できない文字を読み取るようにプログラムに学習させるには、2つの文字の組み合わせを使用して、存在しないその文字を表すか、または必要な文字を [文字の挿入] ダイアログ ボックスからコピーします (ダイアログ ボックスを開くには  をクリック)。

- 各パターンには新しい文字を 1,000 字まで含めることができます。ただし、OCR 品質を低下させる可能性があるため、合字を多く作りすぎないようにしてください。

ユーザー パターンの選択

ABBYY FineReader では、パターンを使用して OCR 品質を高めることができます。

1. [ツール] メニューで [パターン エディタ...] をクリックします。
2. [パターン エディタ] ダイアログ ボックスで、利用可能なパターンのリストから必要なパターンを選択して [アクティブに設定] をクリックします。

覚えておくべき重要なポイント

1. 類似してはいるものの、異なる一部の文字を区別する代わりに、ABBYY FineReader ではそれらの文字を 1 つの同じ文字として認識します。例えば、直線 (')、左向き (')、および右向き (') の引用符は、1 つの文字 (直線の引用符) としてパターンに保存されます。これは、左向きと右向きの引用符が、たとえユーザーが学習機能の対象にしようとしても、認識されたテキストでは決して使用されないことを意味します。
2. 一部の文字画像の場合、ABBYY FineReader では前後の文脈に基づいて、対応するキーボード文字を選択します。例えば、小さな円の画像は、そのすぐ横に文字があれば文字「0」として認識され、そのすぐ横に数字があれば、数字「0」として認識されます。
3. パターンは、そのパターンの作成に使用された文書と同じフォント、フォント サイズ、および解像度の文書のみで使用できます。
4. パターンを後で使用するためには、ファイルに保存します。詳細については、「FineReader 文書とは何か」を参照してください。
5. 異なるフォントのテキスト セットを認識するには、[ツール] > [オプション...] > [読み取り] で [ビルトイン パターンのみを使用する] オプションを選択し、必ずユーザー パターンを無効にします。

ユーザー パターンの編集

新たに作成したパターンを、OCR

プロセスを起動する前に編集できます。正しく学習が行われなかったパターンは、OCR 品質にマイナスの影響を及ぼすことがあります。パターンには、完全な文字または合字のみを含める必要があります。端が切り取られた文字や、対応関係の正しくない文字は、パターンから削除してください。

1. [ツール] メニューで [パターン エディタ...] をクリックします。
2. [パターン エディタ] ダイアログ ボックスが開きます。任意のパターンを選択して [編集...] ボタンをクリックします。
3. 表示された [ユーザー パターン] ダイアログ ボックスで、文字を選択して [プロパティ...] ボタンをクリックします。

表示されたダイアログ ボックスで

- [文字] フィールドに対応する文字を入力します。

- [文字飾り] フィールドで任意の文字飾り (太字、斜体、上付き文字、または下付き文字) を指定します。

[ユーザー パターン] ダイアログ ボックスで [削除] ボタンをクリックし、正しく学習されなかった文字を削除します。

テキストに特殊な用語や珍しい用語が多数含まれている場合

ABBYY FineReader

は、認識した単語を内蔵の辞書と照らし合わせて確認します。認識するテキストに特殊な用語、略語、名称が多数含まれている場合、それらを辞書に追加することにより、認識精度を高めることができます。

1. [ツール] メニューで [辞書を表示...] をクリックします。
2. [ユーザー辞書] ダイアログ ボックスで任意の言語を選択し、[表示...] をクリックします。
3. [辞書] ダイアログ ボックスが開きます。このダイアログ ボックスで、単語を入力して [追加] をクリックするか、単語を選択して [削除] をクリックします。

追加しようとしている単語が辞書にすでに含まれている場合、その単語がすでに辞書に含まれていることを通知するメッセージが表示されます。

ABBYY FineReader の以前のバージョン (9.0、10 および 11) で作成されたユーザー辞書をインポートできます。

1. [ツール] メニューで、[辞書を表示...] をクリックして任意の言語を選択し、[表示...] をクリックします。
2. [辞書] ダイアログ ボックスが開きます。このダイアログ ボックスで [インポート...] ボタンをクリックし、インポートする辞書ファイルを選択します (ファイルの拡張子は、*.pmd、*.txt、または *.dic である必要があります)。

一部の文字をプログラムが認識できなかった場合

ABBYY FineReader


はテキストを認識する際に文書の言語に関するデータを使用します。文書に含まれている文字の中で一般的ではない要素 (コード番号など) を持つものは、文書の言語にそれらの文字が含まれていない可能性があるため、プログラムで認識できないことがあります。このような文書を認識するために、必要な文字をすべて含むカスタム言語を作成できます。また、複数言語を言語グループに割り当てて、そのグループを認識に使用することもできます。

ユーザー言語の作成

1. [ツール] メニューで [言語エディタ...] をクリックします。
2. [言語エディタ] ダイアログ ボックスで、[新規...] をクリックします。
3. 表示されたダイアログ ボックスで、[既存の言語に基づいて新しい言語を作成する] オプションを選択し、新しい言語の基礎となる言語を選択してから [OK] をクリックします。
4. [言語のプロパティ] ダイアログ ボックスが開きます。このダイアログ ボックスで

- a. 新しい言語の名前を入力します。
- b. 以前選択した基本言語が [ソース言語] ドロップダウンリストに表示されます。ソース言語は変更できます。

c. アルファベット

には基本言語の英文字が含まれています。英文字を編集する場合は  ボタンをクリックします。

- d. テキストを認識してその結果を確認する際にプログラムが使用する辞書に関して、いくつかのオプションがあります。

- なし
言語に辞書はありません。
- 組み込み辞書
プログラムの組み込み辞書が使用されます。
- ユーザー辞書
辞書の用語を指定する場合、または既存のカスタム辞書または Windows-1252 エンコーディング (用語はスペースまたはその他の英文字に含まれていない文字で区切られている必要があります) のテキスト ファイルをインポートする場合は [編集...] ボタンをクリックします。

注意：ユーザー辞書からの単語は、認識したテキストのスペルチェックの際に誤りとはマークされません。これらの単語はすべて大文字またはすべて小文字でつづることができ、最初の文字を大文字にすることもできます。

辞書にある単語	スペル チェックの際に誤りとみなされない単語
abc	abc、Abc、ABC
Abc	abc、Abc、ABC
ABC	abc、Abc、ABC
aBc	aBc、abc、Abc、ABC

- 正規表現
正規表現を使用してカスタム言語の辞書を作成できます。
- e. 言語にはいくつかのプロパティを追加できます。これらのプロパティを変更するには、[詳細...] ボタンをクリックします。
[言語の詳細プロパティ] ダイアログボックスが開きます。ここでは次の項目を指定できます。
 - 単語の始めまたは終わりに使用できる文字

- 単語とは別に表示される文字以外の記号
- 単語の中で現れる可能性がある文字で無視すべき文字
- この辞書を使用して認識されるテキストで現れることがない文字 (禁止文字)
- 言語で認識可能なすべての文字
- [テキストにアラビア数字、ローマ数字、略語が含まれている可能性がある] オプションを有効にすることもできます

5. これで、文書の言語を選択する際に、新たに作成した言語を選択できます。

既定では、ユーザー言語は FineReader 文書フォルダに保存されます。また、すべてのユーザー言語およびユーザー パターンを 1 つのファイルに保存することもできます。これを行うには、[ツール] メニューで [オプション...] をクリックして [オプション] ダイアログ ボックスを開き、[読み取り] タブをクリックして [ファイルに保存...] ボタンをクリックします。

言語グループの作成

特定の言語の組み合わせを定期的に使用する場合は、便宜のためにその言語をグループにまとめることができます。

1. [ツール] メニューで [言語エディタ...] をクリックします。
2. [言語エディタ] ダイアログ ボックスで、[新規...] をクリックします。
3. [新しい言語またはグループ] ダイアログ ボックスで、[新しい言語グループを作成する] を選択し、[OK] をクリックします。
4. [言語グループのプロパティ] ダイアログ ボックスで、新しいグループの名前を入力し、必要な言語を選択します。

注意：テキストに特定の文字が含まれていないことが分かっている場合は、それらの文字を禁止文字として明確に指定できます。禁止文字を指定することにより、認識の速度と品質を高めることができます。禁止文字を指定するには、[言語グループのプロパティ] ダイアログ ボックスで [詳細...] ボタンをクリックします。[言語グループの詳細プロパティ] ダイアログ ボックスで、[禁止文字] フィールドに禁止文字を入力します。

5. [OK] をクリックします。

新たに作成したグループが、メイン ツールバーの [ドキュメントの言語] ドロップダウン リストに追加されます。

既定では、ユーザー言語グループは FineReader 文書フォルダに保存されます。また、すべてのユーザー言語およびユーザー パターンを 1 つのファイルに保存することもできます。これを行うには、[ツール] メニューで [オプション...] をクリックして [オプション] ダイアログ ボックスを開き、[読み取り] タブをクリックして [ファイルに保存...] ボタンをクリックします。

ヒント：ある文書のために特定の言語の組み合わせが必要な場合は、その言語のグループを作成せずに、必要な言語を直接選択することもできます。

1. [ドキュメントの言語] ドロップダウン リストで、[その他の言語...] を選択します。

2. [言語エディタ] ダイアログ ボックスで、[言語を手動で指定する] を選択します。
3. 必要な言語を選択し、[キャンセル] をクリックします。

縦書きのテキストまたは反転したテキストが認識されない場合

認識されたテキストの一部について、テキストの向きが正しく検出されなかった場合、またはテキストが反転している（すなわち、濃い色の背景に薄い色のテキストが印刷されている）場合、そのテキストには多数のエラーが含まれている可能性があります。

この問題を解決するには

1. [画像]
ウィンドウで、縦書きまたは反転したテキストを含むエリアまたは表のセルを選択します。
。
2. [領域のプロパティ] ペインで
(ペインを表示するには、エリアを右クリックし、ショートカット メニューで [プロパティ] をクリックします)
 - [CJK テキストの向き] ドロップダウン リストからテキストの方向を選択します

または

- [反転済み] ドロップダウン リストで [反転] を選択します。
3. OCR プロセスを再度実行します。

テキストの確認と編集

OCR プロセスが完了すると、認識されたテキストは [テキスト] ウィンドウに表示されます。ユーザーが OCR エラーを簡単に見つけて修正できるように、信頼性が低いと認識された文字は強調表示されません。

認識したテキストは、[テキスト] ウィンドウで直接、または [検証] ダイアログボックスで変更できます (ダイアログボックスを開くには [ツール] > [検証...] をクリックします)。[検証] ダイアログボックスでは、信頼性が低い単語の見直し、スペルミスの修正、およびユーザー辞書への新しい単語の追加を行うことができます。

ABBYY FineReader

では、出力文書の書式を変更することもできます。認識されたテキストの書式設定を行うには、[テキスト] ウィンドウのメイン ツールバーにあるボタン、または [テキストのプロパティ] ペインのボタンを使用します (ペインを表示するには、[テキスト] ウィンドウ内の任意の場所を右クリックし、ショートカットメニューで [プロパティ] をクリックします)。

注意: テキストを読み込む際、ABBYY FineReader

はテキストで使用されているスタイルを識別します。識別されたすべてのスタイルは、[テキストのプロパティ]

ペインに表示されます。スタイルを編集し、テキスト全体の書式を素早く変更することができます。認識したテキストを DOCX、ODT または RTF の形式で保存すると、既存のすべてのスタイルが保持できます。

[テキスト] ウィンドウでのテキストの確認

認識したテキストは、[テキスト] ウィンドウで直接、または [検証] ダイアログボックスで編集できます (ダイアログボックスを開くには [ツール] > [検証...] をクリックします)。[検証] ダイアログボックスでは、信頼性が低い単語の見直し、スペルミスの修正、およびユーザー辞書への新しい単語の追加を行うことができます。


[テキスト] ウィンドウでのテキストの確認

[テキスト] ウィンドウで、認識結果の確認、編集、および書式設定を行うことができます。

ウィンドウ左側のセクションにある [テキスト] ウィンドウのツールバーには、スペルチェックを行うボタンが含まれています。次または前の信頼性が低い単語または文字に移動する

には、 / 


ボタンを使用します。信頼性が低い文字が強調表示されていない場合は、[テキスト]

ウィンドウのツールバーにある  ボタンをクリックします。

[テキスト] ウィンドウで信頼性が低い単語を確認するには

1. [テキスト] ウィンドウでその単語をクリックします。[画像] ウィンドウでその単語が強調表示されます。同時に、[ズーム] ウィンドウにその単語の拡大画像が表示されます。

- 必要に応じて、[テキスト] ウィンドウで単語を修正します。

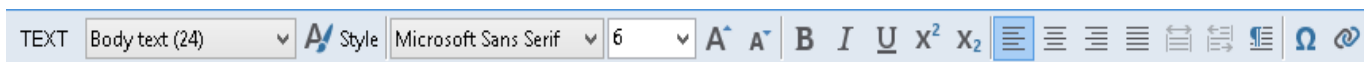
ヒント: 

ボタンをクリックすると、キーボードにない記号を挿入できます。また、[検証] ダイアログ ボックスを使用することもできます。



この方法は、ソース文書と出力文書を比較する必要がある場合に便利です。

テキストの書式設定ツールは、

- [テキスト] ウィンドウのツールバーにあります。




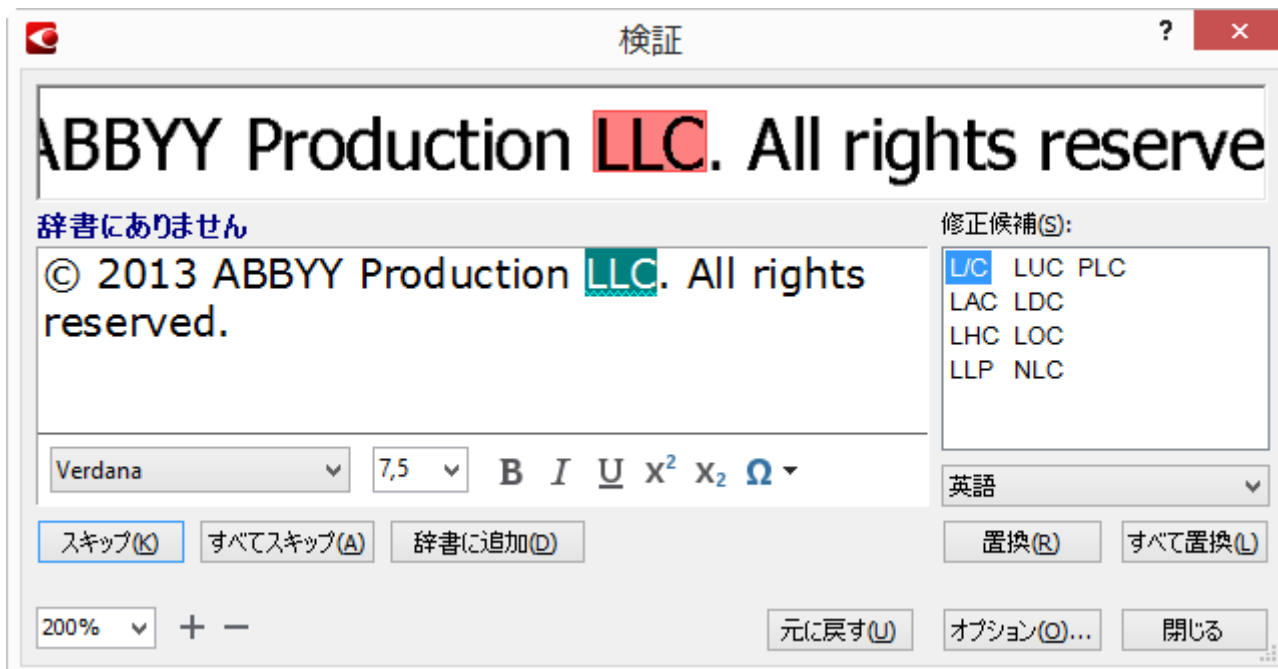
- [テキストのプロパティ] ペイン (このペインを表示するには、[テキスト] ウィンドウ内の任意の場所を右クリックし、ショートカット メニューで [プロパティ] をクリックします)

注意: [テキスト] ウィンドウが狭く、ペイン全体を表示できない場合は、 ボタンおよび  ボタンを使って [プロパティ] ペインを動かします。

[検証] ダイアログ ボックスでの認識済みテキストの確認


ABBYY FineReader は、信頼性が低い文字を含む単語を確認して修正できる [検証] ダイアログ ボックスを備えています。[検証] ダイアログ ボックスを開くには、メイン

ツールバーで  テキストの検証 をクリックするか、[ツール] > [検証...] をクリックします。



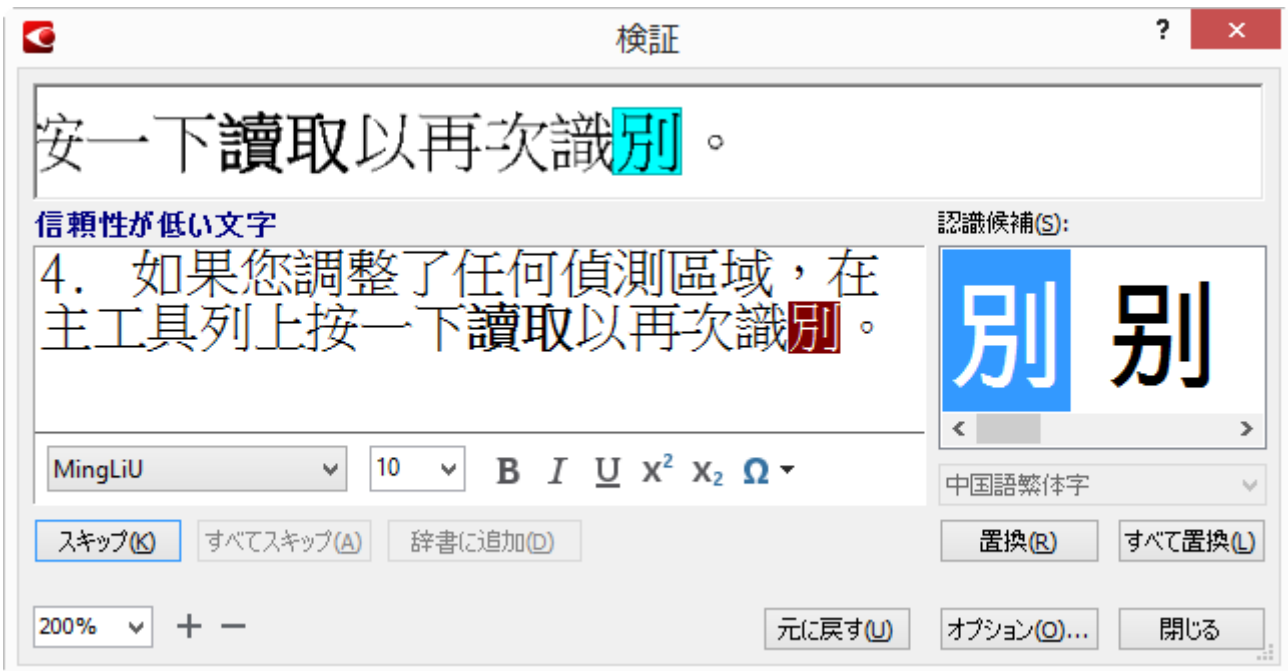
[検証] ダイアログ ボックスでは次の操作が可能です。

- 強調表示された単語を変更せずにスキップする [スキップ] をクリックすると、強調表示が解除されます。

- 強調表示された単語を修正候補の 1 つで置き換えます。右側のボックスにある修正候補を選択し、[置換] をクリックします。
- 強調表示された単語を辞書に追加するには、[辞書に追加] ボタンをクリックします。今後プログラムがこの言葉を検出した場合に、エラーとして扱うことはありません。
- フォントを変更し、文字飾りを適用します。
- キーボードにない文字をテキストに挿入します。キーボードにない文字を選択するには、 ボタンをクリックしてから [その他の記号...] をクリックします。[記号] ダイアログ ボックスで、[サブセット] ドロップダウン リスト (基本的なギリシャ文字または通貨記号など) から必要なサブセットを選択します。次に、挿入する文字をダブルクリックします。代わりに、[文字コード] ボックスでその文字の Unicode のコードを指定することもできます。

ヒント：確認オプションを変更するには、[オプション...] をクリックします。

中国語、日本語、韓国語で書かれたテキストを確認する際、プログラムは信頼性が低い文字として認識された文字と外観が類似した文字について提案を行います。



ユーザー辞書での作業

テキストを読み込む際、ABBYY FineReader

は認識した単語を辞書と照らし合わせて確認します。テキストに特殊な用語、略語や固有名詞が多数含まれている場合、ユーザー辞書にそれらを追加することにより、OCR の品質を高めることができます。

注意： サポートされている言語の一部についてはユーザー辞書が使用できないことがあります。

ユーザー辞書に単語を追加するには、以下のいずれかの操作を行います。

- [ツール] メニューで [検証...] をクリックしてから、[検証] ダイアログ ボックスで [辞書に追加] をクリックします。

- [テキスト] ウィンドウで、追加する単語を右クリックし、ショートカットメニューで [辞書に追加] をクリックします。

注意：単語を辞書に追加する際、正しい言語が選択されていることを確認してください。

スタイルの使用

テキストを認識する際、ABBYY FineReader

は元の文書で使用されているスタイルと書式を検出します。これらのスタイルと書式は出力文書で再現されます。[テキスト]

ウィンドウで文書のスタイルの見直しおよび編集を行い、新しいスタイルを作成して、認識したテキストの書式を設定できます。

テキストの一部にスタイルを適用するには

1. [テキスト] ウィンドウでテキストの任意の部分を選択します。
2. ショートカットメニューで [プロパティ] をクリックします。
3. [テキストのプロパティ] ペインの [スタイル] リストから必要なスタイルを選択します。

注意：認識したテキストを DOCX、ODT または RTF の形式で保存すると、既存のすべてのスタイルが保持できます。詳細については、「編集可能な文書の保存」を参照してください。

スタイルの変更、作成、および結合

1. [ツール] メニューで [スタイル エディタ...] をクリックします。
2. [スタイル エディタ] ダイアログボックスで任意のスタイルを選択し、名前、フォント、フォントサイズ、文字ピッチ、縮尺を調整します。
3. 新しいスタイルを作成するには、[新規] をクリックします。新たに作成されたスタイルが既存のスタイルのリストに追加され、調整を行うことができます。
4. 複数のスタイルを 1 つに結合するには、結合するスタイルを選択し、[結合...] をクリックします。[スタイルの置換] ダイアログボックスで、選択したスタイルと結合するスタイルを指定します。
5. [保存] をクリックし、変更内容を保存します。

同じスタイルで印刷されたテキストの一部から別の一部に移動できます。[スタイル エディタ] で任意のスタイルを選択し、[前の部分] または [次の部分] をクリックします。

ハイパーリンクの編集

ABBYY FineReader


ではハイパーリンクを検出し、そのリンク先アドレスを出力文書で再生します。検出したハイパーリンクは下線が引かれ、青で表示されます。

認識した文書を [テキスト] ウィンドウで表示しているとき、ハイパーリンクの上にマウスポインタを置くと、そのアドレスが表示されます。ハイパーリンクのリンク先に移動するには

、ショートカット メニューで [ハイパーリンクを開く] をクリックするか、Ctrl キーを押しながらハイパーリンクをクリックします。

ハイパーリンクのテキストまたはアドレスを追加、削除、または変更するには

1. [テキスト] ウィンドウで、必要なハイパーリンクのテキストを選択します。
2. ハイパーリンクを削除するには、そのハイパーリンクを右クリックし、ショートカットメニューで [ハイパーリンクを削除] をクリックします。
3. ハイパーリンクを追加または変更するには、リンクのショートカット メニューで [ハイパーリンク...] をクリックするか、または [テキスト]

ウィンドウの上部にあるメイン ツールバーで  をクリックします。[ハイパーリンクの編集] ダイアログボックスでは次の操作が可能です。

- a. [表示するテキスト] フィールドでリンクのテキストを編集します。
- b. [リンク先] グループでハイパーリンクの種類を選択または変更します。
 - インターネットのページにリンクするには、[Web ページ] を選択します。[アドレス] フィールドで、ページのプロトコルと URL (*http://www.abbyy.com* など) を指定します。
 - ファイルにリンクするには、[ローカル ファイル] を選択します。[参照...] をクリックし、ハイパーリンクのリンク先のファイル (例: *file://D:/MyDocuments/ABBYY FineReaderGuide.pdf*) を参照します。
 - ユーザーがハイパーリンクをクリックするだけで、ハイパーリンクに含まれるアドレスに電子メールメッセージを送信できるようにするには、[電子メール アドレス] を選択します。[アドレス] フィールドで、プロトコルと電子メール アドレス (例: *mailto:office@abbyy.com*) を指定します。

表の編集

ABBYY FineReader では、認識した表を [テキスト] ウィンドウで編集できます。以下のコマンドが使用できます。

- 表のセルを結合する

マウスを使用して、結合する表のセルを選択し、[編集] メニューで [表のセルを結合] をクリックします。

- 表のセルを分割する

分割する表のセルをクリックし、[編集] メニューで [表のセルを分割] をクリックします。

重要事項 このコマンドは、以前に結合した表のセルのみに適用できます。

- 表の行を結合する

マウスを使用して結合する表の行を選択し、[編集] メニューで [表の行を結合] をクリックします。

- セルの内容を削除する

削除する内容のあるセルを選択し、[削除] ボタンを押します。

注意：既定では、表の編集ツールはツールバーに表示されません。[ツールバーとショートカットのカスタマイズ] ダイアログ ボックスで、表の編集ツールをツールバーに追加できます (ダイアログ ボックスを開くには、[ツール] > [カスタマイズ...] をクリックします)。

機密情報の削除

ABBYY FineReader 12 では、認識したテキストから機密情報を簡単に削除できます。

1. [ツール] メニューで [編集モード] をクリックするか、またはメイン ツールバーで



ボタンをクリックします。

2. [テキスト] ウィンドウで、マーカーを使用して隠すテキストを黒く塗りつぶします。

注意：誤って文字を黒く塗りつぶした場合は、**Ctrl+Z** を押すか、またはメイン ツールバーで [元に戻す]

ボタンをクリックして、直前に行った編集を元に戻すことができます。

3. 文書を保存します。

編集されたテキストは、出力文書ではドットとして表示されます。選択した保存形式がテキストや背景色に対応している場合、文字が黒色の長方形で表示されます。

編集モードをオフにするには、

- [ツール] メニューで [編集モード] をもう一度クリックするか、






- メイン ツールバーで  ボタンをクリックします。

文書からの内容のコピー

ABBYY FineReader

では文書からテキスト、画像、図表をコピーして他のアプリケーションに貼り付けることができます。文書全体を認識したり、編集可能な形式に変換したりせずに、スキャンしたページおよび画像の内容をコピーすることができます。選択した内容はクリップボードにコピーされ、クリップボードをサポートしているあらゆるアプリケーションで貼り付けることができます。

内容をコピーするには

1. [画像] ウィンドウで 、、 または  ツールを使用し、コピーする文書の部分を選択します。
2. ポップアップ ツールバーの  ボタンをクリックするか、選択したエリアを右クリックし、ショートカット メニューで [読み取ってクリップボードにコピーする] をクリックします。
3. 内容を他のアプリケーションに貼り付けます。

複数のページをコピーするには

1. [ページ] ペインでコピーするページを選択します。
2. 選択したページを右クリックし、[選択したページに名前を付けて保存] をクリックするか、ショートカット メニューで [選択したページの送り先...] をクリックして、ページを挿入するアプリケーションを選択します。

認識結果の保存

認識結果は、ファイルへの保存、他のアプリケーションへの送信、クリップボードへのコピー、電子メールでの送信を行うことができます。また、OCR 結果を Kindle.com に送信することもできます。Kindle.com に送信された結果は Kindle 形式に変換され、ご使用の Kindle 機器にダウンロードできるようになります。文書全体、または選択したページのみを保存できます。

重要事項 [保存] をクリックする前に、必ず適切な保存オプションを選択してください。

認識したテキストを保存するには

1. メイン ツールバーで、**文書レイアウト** ドロップダウン リストから文書のレイアウト保存モードを選択します。
注意：利用可能なファイル形式が各モードの下に挙げられています。

形式保存モード

- a. **同一コピー**
元の文書の書式に対応する書式を持つ文書を作成できます。販売促進用パンフレットなどの複雑な書式を持つ文書に推奨されます。ただし、このオプションでは出力文書のテキストと書式を変更する機能が制限されることにご注意ください。
 - b. **編集可能コピー**
元の文書と書式がわずかに異なる文書が作成されます。このモードで作成した文書は、簡単に編集できます。
 - c. **フォーマットテキスト**
フォント、フォントサイズ、および段落は保持されますが、正確なピッチやページ上のオブジェクトの位置は保持されません。作成されたテキストは左揃えとなります。右から左に記述するテキストは右揃えとなります。
注意：このモードでは、縦書きのテキストは横書きに変更されます。
 - d. **プレーンテキスト**
このモードでは、テキストの書式は保持されません。
 - e. **柔軟なレイアウト**
オブジェクトの位置が、元の文書での位置に技術的に最も近くなるようにした HTML 文書が作成されます。
2. [オプション] ダイアログ ボックスの [保存] タブで、必要な保存オプションを選択し、[OK] をクリックします。
 3. メイン ツールバーの [保存] ボタンの右側にある矢印をクリックして適切なオプションを選択するか、または [ファイル] メニューのコマンドを使用します。

注意：ABBYY FineReader

では、ページを画像として保存できます。詳細については、「ページの画像の保存」を参照してください。

サポートされているアプリケーション

- Microsoft Word 2003 (11.0)、2007 (12.0)、2010 (14.0)、および 2013 (15.0)
- Microsoft Excel 2003 (11.0)、2007 (12.0)、2010 (14.0)、および 2013 (15.0)
- Microsoft PowerPoint 2003 (11.0) (Word、Excel、および PowerPoint ファイル形式用 Microsoft Office Compatibility Pack 付属)、2007 (12.0)、2010 (14.0)、および 2013 (15.0)
- Apache OpenOffice Writer 3.4、4.0
- Corel WordPerfect X5、X6
- Adobe Acrobat/Reader (8.0 以降)

注意 : ABBYY FineReader

と上記アプリケーションとの最高の互換性を確保するために、これらのアプリケーションの最新版をインストールしてください。

ABBYY FineReader

では、認識された画像のデータを編集可能な形式で保存できます。形式を選択する際は、文書の用途を考慮に入れます。

- DOCX/ODT/RTF 形式での文書の保存
- PPTX 形式での文書の保存
- プレーンテキスト (TXT) の保存

DOCX/ODT/RTF 形式での保存

テキストを DOCX/DOC/RTF/ODT 形式で保存するには

- メイン ツールバーの [保存] ボタンの横にある矢印をクリックし、使用する形式をクリックします。必要な形式がリストに表示されていない場合は、[他の形式で保存...] をクリックして [保存形式の種類] ドロップダウン リストから必要な形式を選択します。あるいは、[ファイル] メニューで [名前を付けて文書を保存] をクリックし、使用する保存形式をクリックします。

ヒント : その他の保存オプションは、[オプション] ダイアログ

ボックスで選択できます。[ツール] > [オプション...] をクリックし、[保存] タブをクリックして、次に [RTF/DOC/DOCX] タブをクリックします。

このタブにある保存オプションは、次のカテゴリーに分けられています。

文書のレイアウト

予定している電子文書の利用方法に合わせて、以下のオプションのいずれかを選択します。

- a. **正確なコピー**
元の文書の書式を持つ文書が作成されます。このモードは、販売促進用パンフレットなどのようにレイアウトが複雑な文書に推奨されます。ただし、このオプションでは出力文書のテキストと書式を変更する機能が制限されることにご注意ください。
- b. **編集可能なコピー**
元の書式とテキストの方向をほぼ保持し、かつ編集が容易な文書が作成されます。

c. **書式付きテキスト**

フォント、フォント

サイズ、および段落は保持されますが、ページ上のオブジェクトの正確な位置や行ピッチは保持されません。作成されたテキストは左揃えとなります（右から左に記述するテキストは右揃えとなります）。

注意：このモードでは、縦書きのテキストは横書きに変更されます。

d. **テキストのみ**

このモードでは書式は保持されません。[プレーンテキストに太字、斜体、下線の文字スタイルを保持] オプションが有効になっている場合はフォント スタイルが保持されます。

既定の用紙サイズ

RTF、DOC、DOCX または ODT 形式での保存に使用する用紙サイズは、[既定の用紙サイズ] ドロップダウン リストで選択できます。

テキスト設定

- **改行およびハイフンを維持する**
出力テキストで欄外見出し（ヘッダーとフッター）を保持します。
- **ページ区切りを維持する**
元のページの配置を保持します。
- **行番号を維持する**
元の行番号を保持します（ある場合）。行番号は別個のフィールドに保存され、テキストの編集時に変更されることはありません。
注意：この機能は、[正確なコピー] または [編集可能なコピー] を選択した場合のみ利用可能です。
- **ヘッダー、フッター、ページ番号を維持する**
出力テキストでヘッダー、フッター、およびページ区切りを保持します。
- **プレーンテキストに太字、斜体、下線の文字スタイルを保持**
テキストのみ モードで保存する場合にテキスト スタイルを保持します。
- **テキストと背景の色を保持する**
文字の元の色を保持します。

注意：構造要素（ヘッダー、フッター、脚注、目次、および番号付きリスト）の検出が無効になっている場合、これらの要素は本文テキストとして保存されます。これらの設定は、**オプション** ダイアログ ボックス（[ツール] > [オプション…]）の [読み取り] タブにまとめられています。

画像設定

多数の画像を含む文書は、サイズが非常に大きくなります。ファイルのサイズを小さくするには、[画像設定] グループで必要なオプションを選択します。

ヒント

- 画像保存パラメータを変更するには、[カスタム…] をクリックします。[カスタム設定] ダイアログ ボックスで必要なパラメータを選択し、[OK] をクリックします。
- 認識したテキストの中の画像を保持しない場合は、[画像を保持する] オプションが選択されていないことを確認します。

詳細設定

認識したテキストを ABBYY FineReader の [テキスト] ウィンドウではなく、Microsoft Word で編集する場合は [信頼性が低い文字を強調表示する] オプションを選択します。このオプションが選択されていると、信頼性が低い文字はすべて Microsoft Word 文書で強調表示されます。

ヒント：不明確な文字の色は、[オプション] ダイアログ ボックス ([ツール] > [オプション…]) の [表示] タブで変更できます。

PPTX 形式での保存

テキストを PPTX 形式で保存するには

- [ファイル] メニューで [名前を付けて文書を保存] をクリックし、[Microsoft PowerPoint プレゼンテーション] をクリックします。あるいは、メイン ツールバーの [保存] ボタンの横にある矢印をクリックし、[PPTX として保存] をクリックします。必要な形式がリストに表示されていない場合は、[他の形式で保存…] をクリックして [保存形式の種類] ドロップダウン リストから必要な形式を選択します。

ヒント：その他の保存オプションは、[オプション] ダイアログ ボックスで選択できます。[ツール] > [オプション…] をクリックし、[保存] タブをクリックして、次に [PPTX] タブをクリックします。

このタブにある保存オプションは、次のカテゴリに分けられています。

テキスト設定

- **行区切りを維持する**
元の行の配置を保持します。
- **テキストを折り返す**
認識したすべてのテキストがスライドのテキスト ブロックの内部に完全に収まります。
- **ヘッダーとフッターを維持する**
出力文書でヘッダーとフッターを保持します。

画像設定

多数の画像を含む文書は、サイズが非常に大きくなります。ファイルのサイズを小さくするには、[画像品質] グループで必要なオプションを選択します。

ヒント

- 画像保存パラメータを変更するには、[カスタム…] をクリックします。[カスタム設定] ダイアログ ボックスで必要なパラメータを選択し、[OK] をクリックします。
- 認識したテキストの中の画像を保持しない場合は、[画像を保持する] オプションが選択されていないことを確認します。

TXT 形式での保存

テキストを TXT 形式で保存するには

- [ファイル] メニューで [名前を付けて文書を保存] をクリックし、[テキスト ドキュメント] をクリックします。あるいは、メイン ツールバーの [保存] ボタンの横にある矢印をクリックし、[TXT として保存]

をクリックします。必要な形式がリストに表示されていない場合は、[他の形式で保存…] をクリックして [保存形式の種類] ドロップダウン リストから必要な形式を選択します。

ヒント： その他の保存オプションは、[オプション] ダイアログボックスで選択できます。[ツール] > [オプション…] をクリックし、[保存] タブをクリックして、次に [TXT] タブをクリックします。

このタブにある保存オプションは、次のカテゴリーに分けられています。

文書のレイアウト

予定している電子文書の利用方法に合わせて、以下のオプションのいずれかを選択します。

a. **書式付きテキスト**

段落は保持されますが、行間隔とオブジェクトの正確な位置は保持されません。また、段落のインデントと表を再現するために空白スペースが使用されます。作成されたテキストは左揃えとなります（右から左に記述するテキストは右揃えとなります）。

注意： このモードでは、縦書きのテキストは横書きに変更されます。

b. **テキストのみ**

このモードでは書式は保持されません。

テキスト設定

- **行区切りを維持する**
元の行の配置を保持します。このオプションを選択しない場合、テキストが 1 行に保存されます。
- **ページ区切りとしてページ区切り文字 (#12) を挿入する**
元のページの配置を保存します。
- **段落区切りとして改行を使用する**
改行を使用して段落を区切ります。
- **ヘッダーとフッターを維持する**
出力文書でヘッダーとフッターを保持します。

エンコーディング

ABBYY FineReader ではコード ページを自動的に検出します。コード ページを変更するには、[エンコーディング] の項目のドロップダウン リストから必要なコード ページを選択します。

ABBYY FineReader では XLS、XLSX、および CSV 形式で表を保存できます。

XLS および XLSX

テキストを XLS/XLSX 形式で保存するには

- メイン ツールバーの [保存] ボタンの横にある矢印をクリックし、[Microsoft Excel ワークブックとして保存…]。または [Microsoft Excel 97-2003 ワークブックとして保存…] をクリックします。必要な形式がリストに表示されていない場合は、[他の形式で保存…] をクリックして [保存形式の種類] ドロップダウン リストから必要な形式を選択します。あるいは、[ファイル] メニューで [名前を付けて文書を保存] をクリックし、[Microsoft Excel 97-2003 ワークブック] をクリックします。

ヒント: その他の保存オプションは、[オプション] ダイアログボックスで選択できます。[ツール] > [オプション...] をクリックし、[保存] タブをクリックして、次に [XLSX] タブをクリックします。

以下のオプションが利用可能です。

文書のレイアウト

文書の使用目的に基づいて、このドロップダウン リストから以下のオプションのうち 1 つを選択します。

a. **書式付きテキスト**

フォント、フォント

サイズおよび段落は保持されますが、オブジェクトの正確な位置と行間隔は保持されません。テキストは連続して左揃えになります (右から左方向に書かれているテキストは右揃えになります)。

注意: このオプションを選択すると、縦書きのテキストはすべて横向きに表示されます。

b. **テキストのみ**

テキストの書式は保持されません。

テキスト設定

- **表の外側のテキストを無視する**
表のみを保存し、他の部分は無視します。
- **数値を数字に変換する**
数字を XLS ファイルの「数値」形式に変換します。Microsoft Excel では、この形式のセルで算術演算を実行できます。
- **ヘッダーとフッターを維持する**
出力文書でヘッダーとフッターを保持します。
- **各ページの個別ワークシートを作成 (XLSX のみ)**
ソース
文書のページを個別のワークシートとして保存するには、このオプションを選択します。

画像設定

画像を XLSX

文書に保存できます。多数の画像を含む文書は、サイズが非常に大きくなります。ファイルのサイズを小さくするには、[画像設定] グループのドロップダウン リストから必要なオプションを選択します。

ヒント

- より広い範囲の画像品質パラメータを指定する場合は、[カスタム...] を選択して [カスタム設定] ダイアログ ボックスで設定を変更します。
- 認識したテキストの中の画像を保持しない場合は、[画像を保持 (XLSX のみ)] オプションが選択されていないことを確認します。

CSV

テキストを CSV 形式で保存するには

- [ファイル] メニューで [名前を付けて文書を保存] をクリックし、[CSV ドキュメント] をクリックします。あるいは、メイン ツールバーの [保存]

ボタンの横にある矢印をクリックし、**[CSV として保存]** をクリックします。必要な形式がリストに表示されていない場合は、**[他の形式で保存…]** をクリックして **[保存形式の種類]** ドロップダウン リストから必要な形式を選択します。

ヒント：その他の保存オプションは、**[オプション]** ダイアログボックスで選択できます。**[ツール]** > **[オプション…]** を選択し、**[保存]** タブをクリックして、次に **[CSV]** タブをクリックします。

このタブにある保存オプションは、次のカテゴリーに分けられています。

テキスト設定

- **表の外側のテキストを無視する**
表のみを保存し、他の部分は無視します。
- **ページ区切りとしてページ区切り文字 (#12) を挿入する**
元のページの配置を保存します。
- **フィールド区切り**
CSV ファイルのデータ列を区切る文字を選択します。

エンコーディング

ABBYY FineReader ではコード ページを自動的に検出します。コード ページを変更するには、**[エンコーディング]** の項目のドロップダウン リストから必要なコード ページを選択します。

PDF は幅広く使用されている文書形式です。PDF 文書は異なるコンピュータでも同じように表示され、パスワードで保護することができ、電子アーカイブでの保管に適しています。

テキストを PDF 形式で保存するには

- **メイン ツールバーの [保存] ボタンの横にある矢印をクリックし、[PDF ドキュメントとして保存…]** をクリックします。必要な形式がリストに表示されていない場合は、**[他の形式で保存…]** をクリックして **[保存形式の種類]** ドロップダウン リストから必要な形式を選択します。あるいは、**[ファイル]** メニューで **[名前を付けて文書を保存]** をクリックし、**[PDF ドキュメント]** をクリックします。

ヒント：その他の保存オプションは、**[オプション]** ダイアログボックスで選択できます。**[ツール]** > **[オプション…]** をクリックし、**[保存]** タブをクリックして、次に **[PDF]** タブをクリックします。

このタブにある保存オプションは、次のカテゴリーに分けられています。

既定の用紙サイズ

PDF 形式で保存する際に使用する用紙サイズをドロップダウン リストで選択します。

保存モード

予定している電子文書の利用方法に合わせて、以下のオプションのいずれかを選択します。

- **テキストと画像のみ**
このオプションでは、認識したテキストと関連する画像のみが保存されます。ページは完全に検索可能で、PDF

ファイルのサイズは小さくなります。作成される文書の外観は、元の文書とわずかに異なります

- **ページ画像の上にテキスト**
このオプションでは、元の文書の背景と画像が保存され、その上に認識したテキストが配置されます。通常、この種類の PDF には [テキストと画像のみ] の PDF より大きなディスク領域が必要となります。作成される PDF 文書は、完全に検索可能です。場合によって、作成される文書の外観は、元の文書とわずかに異なります。
- **ページ画像の下にテキスト**
このオプションでは、ページ画像全体が画像として保存され、その下に認識したテキストが配置されます。外見が元の文書とほぼ同じで、完全に検索可能な文書を作成するには、このオプションを使用します。
- **ページ画像のみ**
このオプションでは、ページの正確な画像が保存されます。この種類の PDF 文書は、元の文書とほとんど見分けがつかませんが、検索可能なファイルにはなりません。

選択した保存モードによって、次のオプションのうちいくつかが使用できるようになります。

- **テキストと背景の色を保持する**
PDF を保存する際に文字色と背景を保持するには、このオプションを選択します。
- **ヘッダーとフッターを維持する**
出力文書でヘッダーとフッターを保持します。
- **輪郭を作成する**
文書の見出しから目次を作成する場合は、このオプションを選択します。
- **タグ付き PDF の有効化**

出力される PDF 文書に PDF タグを付加するには、このオプションを選択します。

この PDF

ファイルには、テキストと画像のほかに、論理的部分、画像、表などの文書構造に関する情報を含めることができます。この情報は、PDF タグの中に符号化されます。PDF タグを備えた PDF

ファイルは、さまざまな画像サイズに合わせてテキストのレイアウトを変更できるため、携帯用機器でも適切に表示されます。

- **MRC を使用して画像を圧縮**
高率で圧縮された文書でテキストと画像の表示品位を保持するには、このオプションを選択します。
- **ABBYY PreciseScan を適用して画像上の文字を滑らかにする**
ABBYY PreciseScan
テクノロジーを使用して文書の文字の輪郭を滑らかにし、画素化を抑えるには、このオプションを選択します。

画像設定

テキストに多数の画像が含まれている場合や、認識したテキストと共にページ画像を保存する場合、作成されるファイルは非常に大きくなります。作成されるファイルのサイズと画像の品

質を調整するには、[画像設定] ドロップダウン リストでいずれかのオプションを選択します。

- **高品質 (印刷用)**
画像またはページ画像の品質を保持するには、このオプションを選択します。ソース画像の解像度が保持されます。
- **バランス保持**
PDF
ファイルのサイズを小さくすると同時に、画像またはページ画像の品質をある程度高いレベルに維持するには、このオプションを選択します。
- **コンパクトなサイズ**
サイズの小さな PDF
ファイルを得るには、このオプションを選択します。画像とページ画像の解像度が 150 dpi に下げられ、品質に影響が及びます。
- **カスタム...**
[カスタム設定] ダイアログ
ボックスで、画像とページ画像についてユーザー独自の設定を行うには、このオプションを選択します。

ヒント：認識したテキストの中の画像を保持しない場合は、[画像を保持する] オプションが選択されていないことを確認します。

フォント設定

テキストを PDF 形式で保存する場合は、ご使用のシステムにインストールされている Adobe フォントまたは Windows フォントが使用できます。使用するフォント セットを指定するには、ドロップダウン リストから次の項目のいずれかを選択します。

- **定義済みフォントを使用**
PDF ファイルには Times New Roman、Arial、Courier New などの Adobe フォントが使用されます。
- **Windows フォントを使用**
ファイルには、ご使用のコンピュータにインストールされている Windows フォントが使用されます。

PDF 文書にフォントを埋め込むには、[フォントを埋め込む]

オプションを選択します。これにより、文書のフォントはすべてのコンピュータで同じように表示されますが、結果として得られるファイルのサイズは大きくなります。[フォントを埋め込む] オプションは、[テキストと画像のみ] または [ページ画像の上にテキスト] のオプションが選択されている場合のみ選択できます。

PDF のセキュリティ設定


パスワードを使用して、PDF

文書が不正に開かれたり、印刷、編集されたりしないように保護することができます。PDF セキュリティ設定を変更するには、[PDF のセキュリティ設定...]

ボタンをクリックし、表示されたダイアログ ボックスで文書を保護する方法を選択します。

- **文書を開くパスワード**
このパスワードにより、PDF 文書が不正に開かれることがないよう保護されます。ユーザーは、作成者が指定したパスワードを入力した後でのみ、文書を開くことができます。


文書にパスワードを設定するには

1. [ドキュメントを開くパスワードを要求する] オプションを選択します。
2.  ボタンをクリックします。
3. [ドキュメントを開くパスワードの入力] ダイアログボックスでパスワードを入力し、確認します。

指定したパスワードは、[PDF のセキュリティ設定] ダイアログ ボックスの [ドキュメントを開くパスワード] フィールドにドットとして表示されます。

- **アクセス許可パスワード**

このパスワードにより、不正な編集および印刷のほか、他のアプリケーションへの情報のコピーが行われないう PDF 文書が保護されます。ユーザーは、作成者が指定したパスワードを入力した後でのみ、上記の操作を行うことができます。

1. [ドキュメントおよびそのセキュリティ設定の印刷と編集を制限する] オプションを選択します。
2.  ボタンをクリックします。
3. [アクセス許可パスワードの入力] ダイアログボックスで、パスワードを入力し、確認します。

指定したパスワードは、[PDF のセキュリティ設定] ダイアログ ボックスの [アクセス許可パスワード] フィールドにドットとして表示されます。

次に、PDF

文書で行う操作のうち、ユーザーに許可するものを選択します。これらの制限は、[アクセス許可設定] オプション グループで設定します。

- [印刷を許可する] ドロップダウン リストの項目を使用すると、文書の印刷を許可または禁止できます。
- [変更を許可する] ドロップダウン リストの項目を使用すると、文書の編集を許可または禁止できます。
- [テキスト、画像、その他の内容のコピーを可能にする] オプションを選択すると、ユーザーが PDF 文書の内容（テキストと画像）をクリップボードにコピーできるようになります。このような操作を禁止する場合は、このオプションの選択が解除されていることを確認します。
- [画面リーダーによるテキストの読み取りを可能にする] オプションを選択すると、ユーザーが PDF 文書の内容（テキストと画像）をクリップボードにコピーできるようになります。このような操作を禁止する場合は、このオプションの選択が解除されていることを確認します。

暗号化レベル

[暗号化レベル] ドロップダウン リストの項目を使用すると、パスワードで保護された PDF 文書の暗号化の種類を設定できます。

- **低 (40 ビット) - Adobe Acrobat 3.0 以上と互換** RC4 標準に基づいて 40 ビットの低い暗号化レベルを設定します。

- **高 (128 ビット) - Adobe Acrobat 5.0 以上と互換 RC4 標準に基づいて 128 ビットの高い暗号化レベルを設定します。**ただし、Adobe Acrobat の以前のバージョンのユーザーは、この種の暗号化が施された PDF 文書を開くことはできません。
- **高 (128 ビット AES) - Adobe Acrobat 7.0 以上と互換 AES 標準に基づいて 128 ビットの高い暗号化レベルを設定します。**ただし、Adobe Acrobat の以前のバージョンのユーザーは、この種の暗号化が施された PDF 文書を開くことはできません。

紙文書の大規模なアーカイブを管理し、維持していくことは困難なため、これらのアーカイブからデータをデジタル化して保存する方が実際的であることが少なくありません。デジタルアーカイブには多くの利点があります。文書へのアクセスが容易になり、検索にかかる時間も少なくなると、アーカイブが占めるスペースも小さくなるうえ、時間が経過しても文書の劣化は発生しません。デジタルアーカイブの文書はしばしば PDF/A 形式で保存されます。

PDF/A は PDF 形式のバージョンの 1 つで、暗号化、ビデオコンテンツ、外部ソースへのリンクなど、いくつかの機能が省かれています。PDF/A ファイルには、異なるプラットフォームでも同じように表示するために必要となるすべてのデータが含まれています。

注意 : DjVu

はまた別の文書アーカイブ形式です。この形式は一般的に画像や図表、公式などを多く含む文書の保存に使用されます。DjVu 形式での文書の保存に関する詳細は、「Eブックの保存」を参照してください。

PDF/A 形式での保存

原本と外見が類似し、検索可能な PDF 文書を作成する場合、または文書をアーカイブに格納する必要がある場合は PDF/A 保存形式を選択します。

テキストを PDF/A 形式で保存するには

- [ファイル] メニューで [名前を付けて文書を保存] をクリックし、[PDF/A ドキュメント] をクリックします。あるいは、メイン ツールバーの [保存] ボタンの横にある矢印をクリックし、[PDF/A ドキュメントとして保存...] をクリックします。必要な形式がリストに表示されていない場合は、[他の形式で保存...] をクリックして [保存形式の種類] ドロップダウン リストから必要な形式を選択します。

ヒント : その他の保存オプションは、[オプション] ダイアログボックスで選択できます。[ツール] > [オプション...] をクリックし、[保存] タブをクリックして、次に [PDF/A] タブをクリックします。

このタブにある保存オプションは、次のカテゴリーに分けられています。

既定の用紙サイズ

PDF 形式で文書を保存する際に使用する用紙サイズをドロップダウン リストで選択します。

保存モード

予定している電子文書の利用方法に合わせて、以下のオプションのいずれかを選択します。

- **テキストと画像のみ**
このオプションでは、認識したテキストと関連する画像のみが保存されます。ページは完全に検索可能で、PDF

ファイルのサイズは小さくなります。作成される文書の外観は、元の文書とわずかに異なります。

- **ページ画像の上にテキスト**

このオプションでは、元の文書の背景と画像が保存され、その上に認識したテキストが配置されます。通常、この種類の PDF には [テキストと画像のみ] の PDF より大きなディスク領域が必要となります。作成される PDF 文書は、完全に検索可能です。場合によって、作成される文書の外観は、元の文書とわずかに異なります。

- **ページ画像の下にテキスト**

このオプションでは、ページ画像全体が画像として保存され、その下に認識したテキストが配置されます。外見が元の文書とほぼ同じで、完全に検索可能な文書を作成するには、このオプションを使用します。

- **ページ画像のみ**

このオプションでは、ページの正確な画像が保存されます。この種類の PDF 文書は、元の文書とほとんど見分けがつかいませんが、検索可能なファイルにはなりません。

選択した保存モードによって、次のオプションのうちいくつかを使用できるようになります。

- **テキストと背景の色を保持する**

PDF を保存する際に文字色と背景を保持するには、このオプションを選択します。

- **ヘッダーとフッターを維持する**

出力文書でヘッダーとフッターを保持します。

- **輪郭を作成する**

文書の見出しから目次を作成する場合は、このオプションを選択します。

- **MRC を使用して画像を圧縮**

高率で圧縮された文書でテキストと画像の表示品位を保持するには、このオプションを選択します。

- **タグ付き PDF の有効化**

出力される PDF 文書に PDF タグを付加するには、このオプションを選択します。

この PDF

ファイルには、テキストと画像のほかに、論理的部分、画像、表などの文書構造に関する情報を含めることができます。この情報は、PDF タグの中に符号化されます。PDF

タグを備えた PDF

ファイルは、さまざまな画像サイズに合わせてテキストのレイアウトを変更できるため、携帯用機器でも適切に表示されます。

- **ABBYY PreciseScan を適用して画像上の文字を滑らかにする**

ABBYY PreciseScan

テクノロジーを使用して文書の文字の輪郭を滑らかにし、画素化を抑えるには、このオプションを選択します。

画像設定

テキストに多数の画像が含まれている場合や、認識したテキストと共にページ画像を保存する場合、作成されるファイルは非常に大きくなります。作成されるファイルのサイズと画像の品質を調整するには、[画像設定] ドロップダウン

リストでいずれかのオプションを選択します。

- **高品質（印刷用）**
画像またはページ画像の品質を保持するには、このオプションを選択します。ソース画像の解像度が保持されます。
- **バランス保持**
PDF
ファイルのサイズを小さくすると同時に、画像またはページ画像の品質をある程度高いレベルに維持するには、このオプションを選択します。
- **コンパクトなサイズ**
サイズの小さな PDF
ファイルを得るには、このオプションを選択します。画像とページ画像の解像度が 150 dpi に下げられ、品質に影響が及びます。
- **カスタム…**
[カスタム設定] ダイアログ
ボックスで、画像とページ画像についてユーザー独自の設定を行うには、このオプションを選択します。

ヒント： 認識したテキストの中の画像を保持しない場合は、[画像を保持する] オプションが選択されていないことを確認します。

ABBYY FineReader では、紙の書籍をスキャンして EPUB、FB2、および DjVu の形式に変換することができます。結果として得られる E ブックは iPad を含むタブレットや、その他の携帯用機器で読んだり、Kindle.com アカウントにアップロードしたりできます。

注意： E ブックを HTML 形式で保存することもできます。詳細については、「HTML 形式での保存」を参照してください。

FB2 または EPUB 形式での保存

FB2 形式または EPUB 形式でテキストを保存するには

- メイン ツールバーの [保存] ボタンの横にある矢印をクリックし、[FB2 として保存...] または [Electronic Publication (EPUB) として保存...] をクリックします。必要な形式がリストに表示されていない場合は、[他の形式で保存...] をクリックして [保存形式の種類] ドロップダウン リストから必要な形式を選択します。あるいは、[ファイル] メニューで [名前を付けて文書を保存] をクリックし、[FictionBook (FB2)] または [Electronic Publication (EPUB)] をクリックします。

追加の保存オプションは、[保存] > [FB2/EPUB] タブで選択できます。これは、[オプション] ダイアログ ボックス ([ツール] > [オプション...]) > [保存] > [FB2/EPUB]) のタブです。

このタブでは次のオプションが選択できます。

画像設定

テキストに多数の画像が含まれている場合、作成されるファイルはかなり大きくなります。画像の品質と作成されるファイルのサイズは、[画像設定] ドロップダウン リストのオプションを使用して微調整できます。

ヒント

- 独自の画像設定を指定するには、[カスタム…] を選択します。[カスタム設定] ダイアログ ボックスで必要な設定を行い、[OK] をクリックします。
- 認識したテキストの中の画像を保持しない場合は、[画像を保持する] オプションが選択されていないことを確認します。

文書レイアウト

予定している電子文書の利用方法に合わせて、以下のオプションのいずれかを選択します。

- **書式付きテキスト**
段落は保持されますが、オブジェクトの正確な位置と行間隔は保持されません。テキストは連続して左揃えになります (右から左方向に書かれているテキストは右揃えになります)。
注意: このオプションを選択すると、縦書きのテキストはすべて横向きに表示されます。
- **テキストのみ**
テキストの書式は保持されません。

最初のページを表紙として使用する

このオプションを選択すると、文書の最初のページが E ブックの表紙に配置されます。

EPUB 設定

使用する EPUB 形式のバージョンを選択できます。

EPUB 形式で保存する場合は [フォントとフォント サイズを保存する] を選択し、フォントとフォント サイズを保存することもできます。[フォントを埋め込む] オプションを選択し、結果として得られる E ブックに文書のフォントを埋め込みます。

DjVu 形式での保存

テキストを DjVu 形式で保存するには

- [ファイル] メニューで [名前を付けて文書を保存] をクリックし、[DjVu ドキュメント] をクリックします。あるいは、メイン ツールバーの [保存] ボタンの横にある矢印をクリックし、[DjVu として保存] をクリックします。必要な形式がリストに表示されていない場合は、[他の形式で保存…] をクリックして [保存形式の種類] ドロップダウン リストから必要な形式を選択します。

ヒント: [オプション] ダイアログ ボックスの [DjVu] タブで、追加の保存オプションを選択できます ([ツール] > [オプション…] > [保存] > [DjVu])。

このタブでは次のオプションが選択できます。

保存モード

予定している電子文書の利用方法に合わせて、以下のオプションのいずれかを選択します。

- **ページ画像の下にテキスト**
ページの画像を保存し、画像の下の目に見えない別個のレイヤーに、認識したテキストを配置します。この方法により、外観が原稿とほとんど同じで、検索可能な DjVu 文書が得られます。
- **ページ画像のみ**
ページの画像を保存します。出力文書の外観は原稿とほとんど同じになりますが、文書中のテキストは検索できません。

複数のレイヤー

DjVu

形式では特別な圧縮技術を使用し、ページ画像を複数のレイヤーに分けて、それぞれのレイヤーを異なる方法で圧縮します。既定では、ページに複数レイヤー圧縮を使用する必要があるかどうか自動的に決定されます。文書の複数レイヤー圧縮を有効または無効にするには、[複数のレイヤー] ドロップダウン リストで [自動] オプションを選択または選択解除します。

画像設定

テキストに多数の画像が含まれている場合、作成されるファイルはかなり大きくなります。画像の品質と作成されるファイルのサイズは、[画像設定] ドロップダウン リストのオプションを使用して微調整できます。

ヒント：独自の画像設定を指定するには、[カスタム...] を選択します。[カスタム設定] ダイアログ ボックスで必要な設定を行い、[OK] をクリックします

テキストを HTML 形式で保存するには

- メイン ツールバー の [保存] ボタンの横にある矢印をクリックし、[HTML として保存...]
をクリックします。必要な形式がリストに表示されていない場合は、[他の形式で保存...] をクリックし、[保存形式の種類] ドロップダウン リストから必要な形式を選択します。あるいは、[ファイル] メニューで [名前を付けて文書を保存] をクリックし、[HTML ドキュメント] をクリックします。

ヒント：その他の保存オプションは、[オプション] ダイアログ ボックスで選択できます。[ツール] > [オプション...] を選択し、[保存] タブをクリックして、次に [HTML] タブをクリックします。

このタブにある保存オプションは、次のカテゴリーに分けられています。

文書レイアウト

予定している電子文書の利用方法に合わせて、以下のオプションのいずれかを選択します。

- **柔軟なレイアウト**
元の文書の書式を持つ文書が作成されます。出力文書は簡単に編集できます。
- **書式付きテキスト**
フォント、フォント
サイズ、および段落は保持されますが、ページ上のオブジェクトの正確な位置やピッチは保持されません。作成されたテキストは左揃えとなります。(右から左に記述するテキストは右揃えとなります。)

注意：このモードでは、縦書きのテキストは横書きに変更されます。

- **テキストのみ**
このモードでは書式は保持されません。

CSS を使用する

ファイルを HTML 4 形式で保存するには、このオプションを選択します。この形式では、HTML ファイルに組み込まれたスタイル表を使用して、文書レイアウトを維持することができます。

テキスト設定

- **行区切りを維持する**
元の行の配置を保持します。このオプションが有効になっていない場合、認識されたテキストは HTML 文書の 1 行として保存されます。
- **テキストと背景の色を保持する**
文字の元の色を保持します。
- **ヘッダーとフッターを維持する**
出力文書でヘッダーとフッターを保持します。

画像設定

多数の画像を含む文書は、サイズが非常に大きくなります。ファイルのサイズを小さくするには、ドロップダウン リストから必要なオプションを選択します。

ヒント

- 画像保存パラメータを変更するには、[カスタム...] をクリックします。[カスタム設定] ダイアログ ボックスで必要なパラメータを選択し、[OK] をクリックします。
- 認識したテキストの中の画像を保持しない場合は、[画像を保持する] オプションが選択されていないことを確認します。

エンコーディング

ABBYY FineReader ではコード ページを自動的に検出します。コード ページまたはその種類を変更するには、[エンコーディング] の項目のドロップダウン リストから必要なコード ページまたはコード ページの種類を選択します。

ブック設定

印刷物を電子的な形式に変換する場合は、[目次を生成し、目次を使用してブックをファイルに分割] オプションを選択します。ABBYY FineReader では、本の章を個別の HTML ファイルに自動的に保存し、目次から各章へのリンクを作成することができます。また、レベル 1 またはレベル 2 の見出しに基づいて文書を個別の HTML ファイルに分割することもできます。

ページの画像の保存

ABBYY FineReader では、スキャンを含むページ画像を保存できます。

1 つまたは複数の画像を保存するには

1. [ページ] ウィンドウでページを選択します。
2. [ファイル] メニューで、[ページを画像として保存...] をクリックします。
3. 表示されたダイアログ ボックスで、ファイルを保存するディスクとフォルダを選択します。
4. 画像を保存するグラフィック形式を選択します。

重要事項 複数のページを 1 つのファイルに保存する場合は、TIF 形式を選択し、[複数ページの画像ファイルとして保存する] を選択します。

5. ファイル名を指定し、[保存] をクリックします。

ヒント：保存の際に、画像形式と圧縮方法を選択できます。画像圧縮を行うと、ファイルサイズを縮小できます。画像圧縮に使用される方法は、圧縮率とデータ

ロスがそれぞれ異なります。圧縮方法を選択する際の 2 つの重要な要因は、圧縮後の画像品質とファイル サイズです。

ABBYY FineReader では、次の圧縮方法が使用できます。

- **ZIP**
データ
ロスがなく、大きな単色部分を含む画像に使用されます。例えば、スクリーンショットやモノクロ画像に使用されます。
- **JPEG**
写真などの、グレースケールおよびカラーの画像に使用します。この方法では高密度の圧縮が可能ですが、データ ロスと画像品質の低下（不鮮明な輪郭と色彩の劣化）が生じます。
- **CCITT グループ 4**
データ
ロスは発生しません。画像プログラムまたはスキャナで取り込んだ画像で作成されるモノクロ画像に一般的に使用されます。**CCITT グループ 4** による圧縮は広く普及しており、ほぼすべての画像に適用されています。
- **パックビット**
データ ロスは発生しません。スキャナで取り込んだモノクロ画像に使用します。
- **LZW**
データ ロスは発生しません。グラフィックスおよびグレースケール画像に使用します。

[オプション] ダイアログ ボックス ([ツール] > [オプション]) の [保存] > [PDF] タブでの設定は、ページ画像を画像のみの PDF 形式で保存する場合に使用します。

OCR 結果のメール送信

ABBYY FineReader を利用すると、HTML を除くサポートされているいずれかの形式で認識結果をメール送信できます。

文書をメール送信するには

1. [ファイル] メニューで [電子メール] > [ドキュメント...] をクリックします。
2. 表示されたダイアログ ボックスで以下を選択します。
 - 文書を保存する形式
 - 次の保存オプションのうちいずれか 1 つ。すべてのページを 1 つのファイルに保存する、各ページを個別のファイルに保存する、または空白ページに基づいて文書をファイルに分割する
3. [OK] をクリックします。添付ファイルのある電子メール メッセージが作成されます。受信者を指定して、メッセージを送信します。

また、文書ページの画像を電子メールで送信することもできます。

ページ画像を送信するには

1. [ファイル] メニューで [電子メール] > [画像...] をクリックします。

2. 表示されたダイアログ ボックスで以下を選択します。
 - 文書を保存する形式
 - 複数ページのファイルとして画像を送信する必要がある場合は、**[複数ページの画像ファイルとして送信する]** を選択します。
3. **[OK]** をクリックします。ファイルが添付された電子メールメッセージが作成されます。受信者を指定して、メッセージを送信します。

ABBYY FineReader では、認識結果を Kindle.com のサーバーに電子メールで送信できます。Kindle.com に送信された結果は Kindle 形式に変換され、ご使用の Kindle 機器にダウンロードできるようになります。

重要事項 この機能を使用するには、Kindle.com の Kindle アカウントが必要です。

1. メイン ツールバーの **[保存]** ボタンの横にある矢印をクリックし、**[Kindle に送る…]** をクリックします。
2. 次の項目を指定します。
 - Kindle アカウントのアドレス
 - 次の保存オプションのうちいずれか 1 つ。すべてのページを 1 つのファイルに保存する、各ページを個別のファイルに保存する、または空白ページに基づいて文書をファイルに分割する
 - ファイル名
3. **[OK]** をクリックします。
添付書類付きの電子メール メッセージが作成されます。この電子メール メッセージを Kindle.com に送信すると、まもなく変換済みのファイルが作成されて、ご使用の Kindle 機器にダウンロードできるようになります。

オンライン ストレージ サービスおよび Microsoft SharePoint での作業

オンライン ストレージ

サービスは、ハードディスクの使用率を減らし、データの安全性を保ち、必要な時にいつでもファイルにアクセスできるようにするための優れた方法です。ABBYY FineReader では、認識したドキュメントから Dropbox、SkyDrive、Google Drive などのオンライン ストレージ サービスにデータをアップロードできます。ABBYY FineReader の「開く」ダイアログ ボックスおよび「保存」ダイアログ ボックスからオンライン ストレージ ロケーションに簡単にアクセスできます。

また、認識したデータを Web サイトおよび電子ライブラリにアップロードすることもできます。

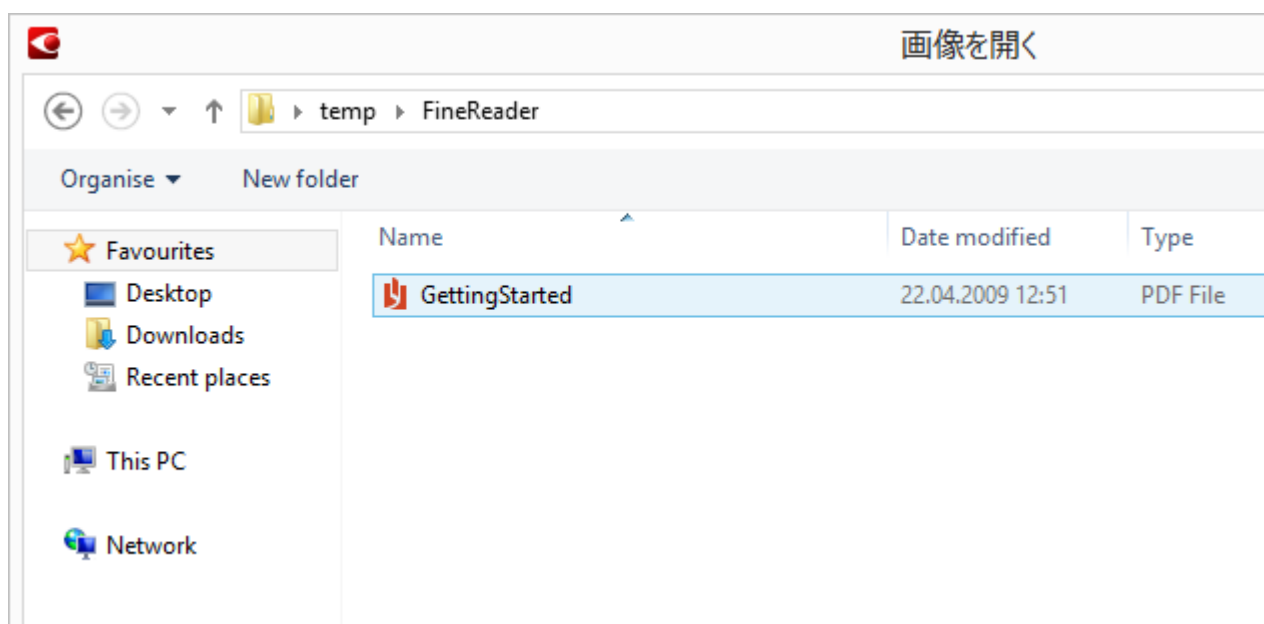
オンライン ストレージ サービスでの作業

ABBYY FineReader では、Dropbox、SkyDrive、Google Drive などのオンライン ストレージ サービスから画像や PDF

ファイルを開いたり、認識したテキストをこれらのサービスに保存したりできます。ABBYY FineReader の「開く」ダイアログ ボックスおよび「保存」ダイアログ ボックスからオンライン ストレージ ロケーションに簡単にアクセスできます。

オンライン ストレージ ロケーションから画像または PDF ファイルを開くには

1. ABBYY FineReader で、[開く] をクリックするか、[ファイル] メニューで [PDF ファイルまたは画像を開く...] をクリックします。
2. [画像を開く] ダイアログ ボックスで、[お気に入り] タブまたは [最近の場所] タブをクリックし、使用するストレージ サービスを選択します。



3. 1 つまたは複数の画像ファイルを選択します。
4. 複数ページの文書の場合は、ページ範囲を指定します。

5. 必要に応じて、[ページが追加されたら自動的に処理] を有効にします。
ヒント：処理または予備処理のオプションを選択する場合は、[オプション…] をクリックします。例えば、特定の画像の欠陥の修正、画像の分析、または画像の追加時の画像読み込みを指定できます。詳細については、「ファイルを開く場合およびスキャンのオプション」を参照してください。

注意： ABBYY FineReader

文書が現在開いている場合、ページ画像は文書の最後に加えられます。それ以外の場合は、新しい ABBYY FineReader 文書が作成されます。

同様の方法で、認識したテキストをオンライン ストレージ サービスに保存できます。

Microsoft SharePointへ結果を保存

ABBYY

FineReaderを使うと、認識したテキストをネットワークリソース（ウェブサイト、オンラインライブラリなど）に保存できます。

Microsoft SharePointへの認識済みテキストの保存方法：

1. 希望の形式でドキュメントを保存するメニューアイテムまたはツールバーボタンをクリックします。
2. 開いたダイアログで、ファイル名と保存したいネットワークフォルダを指定します。
ヒント：
ファイルの保存オプションを変更したい場合、**形式のオプション…**をクリックします。
3. 複数のページがあるファイルの場合、希望する保存オプションを**ファイルオプション**ドロップダウンリストから選択します。
4. 保存後にドキュメントを開きたければ、**ドキュメントを保存した後で開く**を選択します。
5. **保存**をクリックします。

重要！

- ブラウザからネットワークフォルダのアドレスをコピーした場合、下記のようにになっているか確認して下さい：
http://Server/share. 希望のフォルダを右クリックし、ショートカットメニューの**リンクアドレスをコピー…**をクリックして適切なアドレスを取得します。
- また、ネットワークフォルダのアドレスをWindows Explorerからコピーすることもできます。この場合、アドレスは下記のようになります：
\\Server\share

ローカル エリア ネットワークでのグループ作業

ABBYY FineReader

は、ネットワーク上で他のユーザーと共に文書进行处理するツールと機能を備えています。複数のユーザーが同じユーザー言語およびその言語の辞書を共有できます。

ユーザー辞書とユーザー言語を複数のユーザーが使用できるようにするには

1. ABBYY FineReader 文書を作成するか、または開いて、その文書に必要なスキャンオプションと OCR オプションを選択します。
2. ユーザー辞書を保存するフォルダを指定します。このフォルダは、すべてのネットワークユーザーがアクセスできる必要があります。

注意: 既定では、ユーザー辞書は

[%Userprofile%\AppData\Roaming\ABBYY\FineReader\12.00\UserDictionaries]

に保存されています。

ご使用のコンピュータが Windows XP で稼働している場合、既定のパスは

[%Userprofile%\Application Data\ABBYY\FineReader\12.00\UserDictionaries] です。

フォルダを指定するには

1. [ツール] メニューで [オプション...] をクリックして [オプション] ダイアログボックスを開き、[詳細設定] タブをクリックしてから [ユーザー辞書...] ボタンをクリックします。
2. 開いたダイアログボックスで [参照...] をクリックし、フォルダを選択します。
3. *. fbt ファイル形式でユーザー パターンとユーザー言語を保存します。
 1. [ツール] メニューで [オプション...] をクリックしてから [オプション] ダイアログボックスの [読み取り] タブをクリックします。
 2. [ユーザー パターンとユーザー言語] の項目で [ファイルに保存...] ボタンをクリックします。
 3. [保存オプション] ダイアログボックスで、*. fbt ファイルの名前と、ファイルを保存するフォルダを指定します。このフォルダは、すべてのネットワークユーザーがアクセスできる必要があります。
4. これで他のユーザーがユーザー言語と辞書にアクセスできます。アクセスするには、手順 3 で作成した *. fbt 形式のファイルを読み込んで、手順 2 で作成したカスタム辞書のあるフォルダへのパスを指定する必要があります。

重要事項 ユーザー辞書、ユーザー

パターン、およびユーザー言語にアクセスできるようにするには、それらが保存されているフォルダの読み書き権限を持っている必要があります。

利用可能なユーザー言語のリストを表示するには、[ツール] メニューで [言語エディタ] をクリックして [言語エディタ...] ダイアログボックスを開きます。言語は [ユーザー言語] の項目にリスト表示されます。

あるユーザー言語を複数のユーザーが使用している場合、その言語は「読み取り専用」としてのみ使用でき、ユーザーがそのプロパティを変更することはできません。ただし、ユーザー辞書への単語の追加と削除は可能です。

ある辞書があるユーザーが編集している場合、他のユーザーはその辞書を「読み取り専用」としてのみ使用できます。すなわち、他のユーザーはこの辞書を使用して OCR を実行し、スペルチェックを行うことはできますが、単語の追加または削除はできません。

ユーザーがユーザー辞書に加えたあらゆる変更は、その辞書が保存されているフォルダを選択したすべてのユーザーが利用可能です。変更内容を有効にするには、ユーザーが ABBYY FineReader を再起動する必要があります。

OCR の自動化およびスケジューリング

- 自動文書処理**
 複数の文書を処理する場合、同じ動作を複数回繰り返すことが少なくありません。ABBYY FineReader
 には、共通した操作をワンクリックで実行できるようにする自動タスクが組み込まれています。さらに柔軟な対応が必要な場合は、利用可能な幅広い処理手順で自動タスクをカスタマイズできます。
- スケジュールされた処理**
 ABBYY FineReader には **ABBYY Hot Folder** というスケジューリングアプリケーションが含まれており、コンピュータが使用されていない夜間などに文書を処理できます。スケジュールされたタスクは特定のフォルダを対象に作成でき、必要な画像を開く、認識する、保存するという設定をすべて備えています。

自動タスク

(ABBYY FineReader Corporate のみ)

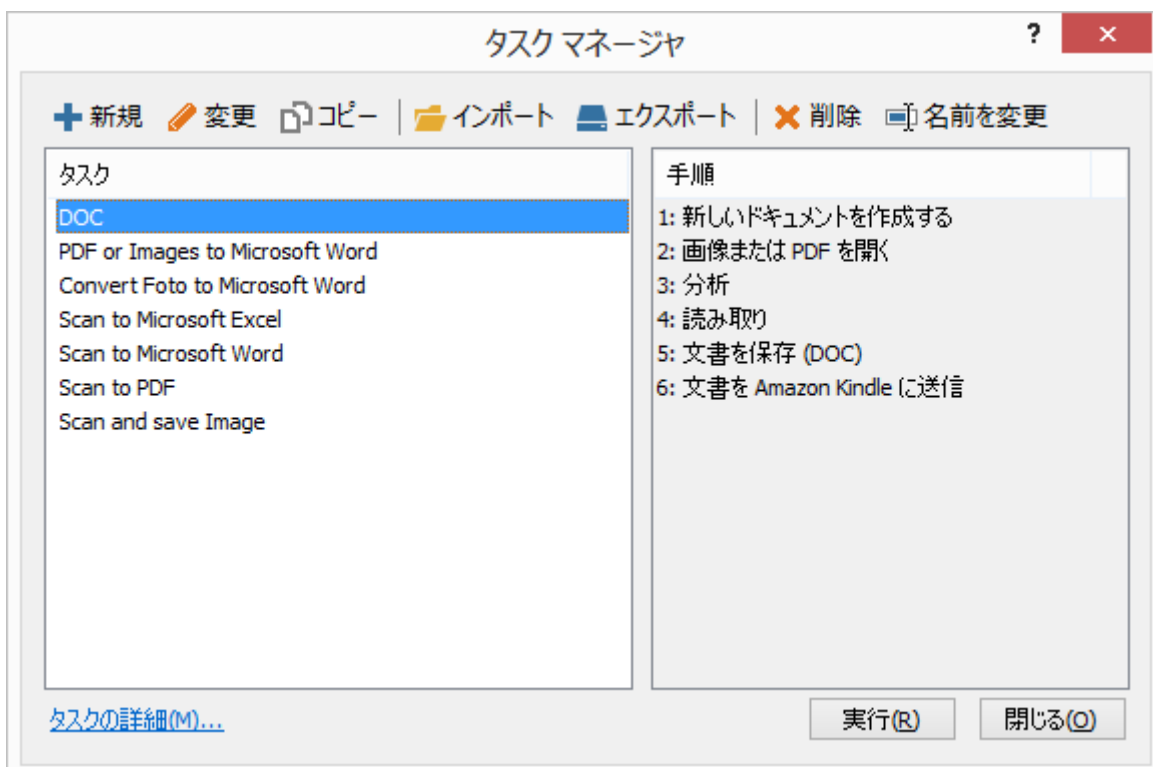
ABBYY FineReader

では、組み込みの自動タスクおよびカスタマイズされた自動タスクを使用して文書を処理することができます。タスクは [タスク マネージャ...] ダイアログ ボックスで整理できます。

- [タスク マネージャ] を開くには、[ツール] > [タスク マネージャ...] を選択するか、Ctrl+T を押します。

[タスク マネージャ]

の上部にあるツールバーには、タスクの作成、修正、コピー、削除、インポート、およびエクスポートのためのボタンがあります。



特定の自動タスクで文書进行处理するには、[タスク] ウィンドウの [マイ タスク] タブでタスクを開始します。

ABBYY Hot Folder

(ABBYY FineReader Corporate のみ)

ABBYY FineReader には、スケジューリング エージェント プログラム、ABBYY Hot Folder が含まれています。このプログラムを使用すると、画像のフォルダを選択し、そのフォルダにある画像を ABBYY FineReader で処理する時間を設定することができます。たとえば、コンピュータが夜間に画像を認識するようにスケジュールできます。

フォルダ内の画像を自動的に処理するには、そのフォルダの処理タスクを作成し、画像を開くオプション、OCR および保存を行うオプションを指定します。また、ABBYY FineReader がそのフォルダに新しい画像があるかどうか確認する頻度（一定の間隔または 1 回のみ）を指定し、そのタスクの開始時刻を設定する必要もあります。

重要事項

タスクの開始予定時刻には、ご使用のコンピュータの電源が入っており、ユーザーがログオンしている必要があります。

ABBYY Hot Folder のインストールと起動

既定では、ABBYY Hot Folder は ABBYY FineReader 12

とともにご使用のコンピュータにインストールされます。カスタム インストールの際に ABBYY Hot Folder

をインストールしないことを選択した場合は、後で次の手順に従ってアプリケーションをインストールできます。

1. Windows のタスクバーで [スタート] をクリックし、次に [コントロール パネル] をクリックします。
2. [プログラムと機能] をクリックします。
注意: Windows XP を使用している場合は、[プログラムの追加と削除] をクリックします。
3. インストールされているプログラムのリストから [ABBYY FineReader 12] を選択し、[変更] をクリックします。
4. [カスタム セットアップ] ダイアログ ボックスで、[ABBYY Hot Folder] を選択します。
5. セットアップ プログラムによって表示される指示に従います。

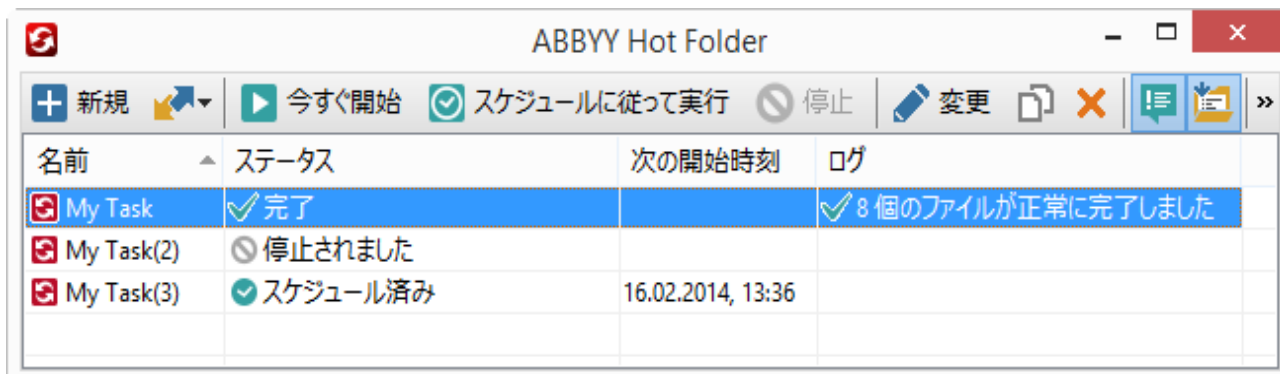
ABBYY Hot Folder の起動

ABBYY Hot Folder を起動するには、次の複数の方法があります。

- [スタート] > [すべてのプログラム] > [ABBYY FineReader 12] の順でクリックしてから、[ABBYY Hot Folder] をクリックするか、または
- [ABBYY FineReader 12] メイン ウィンドウで、[ツール] > [Hot Folder...] をクリックするか、または
- Windows のタスクバーで [ABBYY Hot Folder] アイコンをダブルクリックします（このアイコンは、ホット フォルダを少なくとも 1 つセットアップすると表示されます）

ABBYY Hot Folder を起動すると、メイン

ウィンドウが開きます。セットアップ、コピー、削除を行ったり、フォルダ処理タスクを開始したりするには、ツールバーのボタンを使用します。また、各フォルダの詳細なレポートを表示することもできます。




ABBYY Hot Folder のメイン ウィンドウには、セットアップ

タスクのリストが表示されます。各タスクについて、タスクの現在のステータスと予定されている処理時刻とともに、対応するホット フォルダへのフル パスが表示されます。


タスクのステータスには次の種類があります。

ステータス	説明	
	実行しています...	フォルダ内の画像は現在処理されています。
	スケジュール済み	ホット フォルダに画像があるかどうかの確認を、開始時刻に 1 回のみ行うことを選択しました。開始時刻は 次の開始時刻 列に表示されています。
	停止されました	処理はユーザーによって中止されました。
	完了	このフォルダの画像処理は完了しました。
	エラー (ログを参照)	このフォルダの画像の処理中にエラーが発生しました。処理タスクは完了しませんでした。エラーの原因を確認するには、エラーが発生したフォルダを選択し、ツールバーで [ログを表示] ボタンをクリックします。

後日使用するためにタスクを保存することができます。

1. ツールバーの  ボタンをクリックして [エクスポート...] を選択します。
2. タスクの名前とタスクへのパスを指定します。
3. [保存] をクリックします。

以前、保存したタスクを読み込むには

1. ツールバーの  ボタンをクリックして [インポート...] をクリックします。
2. 必要なタスクを選択し、[開く] をクリックします。

フォルダのタスクの新規作成

1. ABBYY Hot Folder ツールバーにある [新規] ボタンをクリックします。
2. [タスク名] フィールドにタスクの名前を入力します。
3. [ホット フォルダ] ダイアログ ボックスで、タスクを開始する頻度を選択します。
 - 1 回実行する (タスクは指定した時刻に 1 回開始されます)
 - 反復 (タスクは複数回、開始されます)
4. 処理する画像が含まれているフォルダまたは文書を指定します。
 - フォルダからのファイル ローカル フォルダおよびネットワークフォルダにある画像を処理できます。
 - FTP からのファイル FTP サーバーにあるフォルダ内の画像を処理できます。
FTP
フォルダにアクセスするためにログイン名とパスワードが必要な場合は、[ユーザー名] および [パスワード]
のフィールドにそれぞれ入力します。ログイン名とパスワードが不要な場合は、[匿名のユーザー] オプションを選択します。
 - Outlook からのファイル メール ボックスにある画像を処理できます。
 - FineReader 文書 FineReader 文書に保存されている画像を開きます。

元の色を保持する必要がない場合は、画像をモノクロモードで処理するように、プログラムを設定できます。これを行うには、[画像をモノクロに変換する] の項目で [カラー モード] オプションを選択します。

[元のファイル]

の項目で、元のファイルの保持、削除または移動を行うか否かを指定します。

5. [分析して読み取り] の手順では、文書分析と認識のオプションを設定します。
 - α. [文書の言語] ドロップダウン
リストで、認識するテキストの言語を選択します。

注意: 複数の言語を選択できます。

β. [文書処理設定]

の項目で、文書の認識または分析を行うか否か、あるいは文書のページ画像の予備

処理を行うか否かを指定します。必要な場合は、[認識オプション…] および [予備処理オプション…] をクリックして、追加の認識オプションや画像の予備処理オプションを指定できます。

- χ. プログラムで自動的にエリアを検出するか、または目的に応じたエリア テンプレートを使用するかを指定します。

[保存して共有] ドロップダウン リストで、文書を保存する方法を選択します。

- α. [名前を付けて保存] ドロップダウン リストで、保存先の形式を選択します。

ヒント: 追加の保存オプションを指定する場合は [オプション…] をクリックします。

- β. [フォルダ] フィールドで、処理後に文書を保存するフォルダを指定します。

- χ. [出力] ドロップダウン リストで、保存方法を選択します。

各ファイルのドキュメントを個別に作成する 各ファイルについて文書を個別に作成します

各フォルダに個別のドキュメントを作成する
各フォルダに保存されているすべてのファイルについて 1 つの文書を作成します

すべてのファイルのために 1 つのドキュメントを作成する すべてのファイルについて 1 つの文書を作成します

- δ. [ファイル名] フィールドに、処理後に文書に割り当てられる名前を入力します。

ヒント: 処理結果を複数の形式で保存するために、1 つのフォルダについて複数の保存手順を指定できます。


[OK] をクリックします。

設定されたタスクが ABBYY Hot Folder メイン ウィンドウに表示されます。

注意 タスク ファイルは %Userprofile%\AppData\Local\ABBYY\HotFolder¥12.00 に保存されます。(Microsoft Windows XP では %Userprofile%\Local Settings\Application Data\ABBYY\HotFolder¥12.00 に保存されます)。

重要事項

タスクが開始されるためには、ご使用のコンピュータの電源が入っており、ユーザーがログオンしている必要があります。

タスクが完了したときに毎回通知メッセージを表示するには、 をクリックします。Windows のタスクバーの上にポップアップ ウィンドウが開き、通知メッセージが表示されます。

タスク プロパティの変更

既存のタスクのプロパティを変更することができます。

1. プロパティを変更するタスクを中止します。
2. [ABBYY Hot Folder] ツールバーで、[変更] ボタンをクリックします。

3. 必要な変更を行い、[OK] をクリックします。


処理ログ

ホット フォルダ内の画像は、指定された設定に従って処理されます。ABBYY Hot Folder では、すべての処理の詳細なログを記録します。

ログ ファイルには、次の情報が含まれます。

- タスクの名前と設定
- エラーおよび警告（ある場合）
- 統計データ（処理したページ数、エラーと警告の件数、不明瞭な文字の数）

ログ記録を有効にするには

- [ABBYY Hot Folder] ツールバーで、 をクリックします。

ログは、認識したテキストのファイルが入っているフォルダに、テキストファイルとして保存されます。

ログを表示するには

1. ABBYY Hot Folder のメイン ウィンドウで、ログを確認するタスクを選択します。
2. ツールバーの [ログ] ボタンをクリックします。

注意： タスクの進捗度に関する情報を表示するには、マウスポインタをタスクのステータスに重ねます。

ABBYY FineReader のカスタマイズ

ABBYY FineReader

のインターフェイスは使い方が分かりやすく、直感的で結果重視型のため、追加的なトレーニングなしでプログラムを簡単に使用できます。このため、新しいユーザーが主な機能をマスターするのにほとんど時間がかかりません。

プログラムのインターフェイスは簡単にカスタマイズできます。

ユーザーは以下の設定を行うことができます。

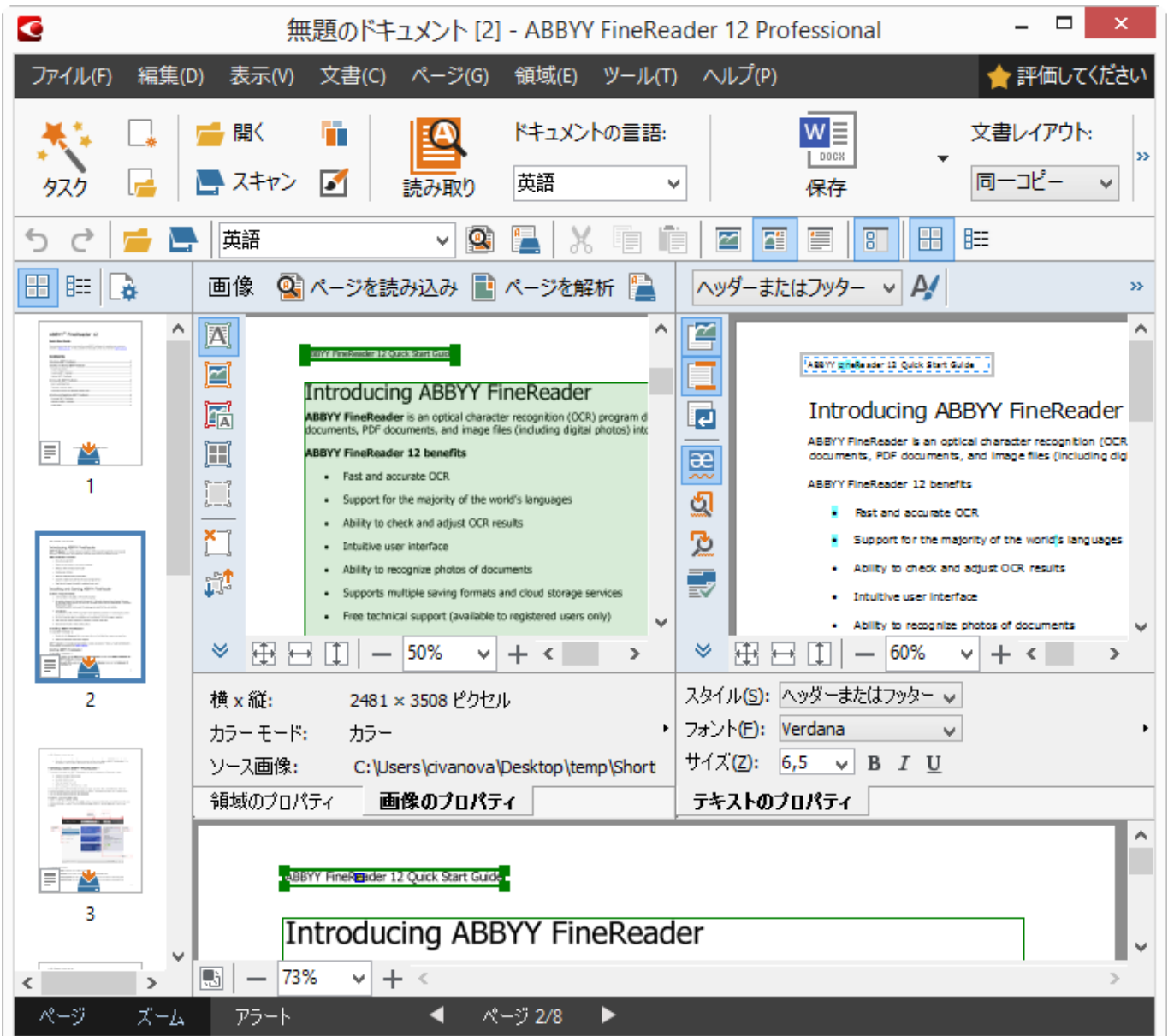
- ウィンドウの位置とサイズを変更する
- 最も頻繁に使用するコマンドにアクセスするクイック アクセス バーを設定する
- 既存のキーの組み合わせを変更するか、ユーザー独自のキーの組み合わせを追加して、ショートカット キーを設定する
- メニューとコマンドの言語を変更する

その他

メイン ウィンドウ

ABBYY FineReader を起動すると、**メイン ウィンドウ**が開きます。同時に [タスク] ウィンドウが表示され、ここから組み込みの自動タスクとカスタムの自動タスクを起動できます。

メイン ウィンドウには、現在開いている ABBYY FineReader 文書が表示されます。詳細については、「FineReader 文書とは何か」を参照してください。



- **[ページ]** ウィンドウでは、現在の FineReader 文書のページを表示できます。ページの表示モードは、小さな画像を表示する「サムネイル」、および文書ページとそのプロパティを一覧表示する「詳細」の 2 種類があります。表示モードは、ウィンドウのショートカットメニュー、**[表示]**メニューを使用するか、**[ツール]** > **[オプション…]** > **[表示]** を選択して切り替えることができます。
- **[画像]**
ウィンドウには、現在のページの画像が表示されます。ここでエリア、ページ画像、テキスト プロパティを編集できます。
- **[テキスト]**
ウィンドウには認識したテキストが表示されます。ここでは、認識したテキストのスペルを確認したり、編集したりできます。
- **[ズーム]**
ウィンドウには、現在編集している行または画像エリアの拡大画像が表示されます。**[画像]** ウィンドウには全般的なページ ビューが表示されますが、**[ズーム]** ウィンドウには画像の一部が詳細に表示されるため、エリアの種類や位置を調整したり、

信頼性の低い文字を拡大画像と比較したりできます。画像の縮尺は [ズーム]

ウィンドウの下部にある  セクションで変更できます。

ヒント：スペース バーを押しながらマウスを使用して、[画像] ウィンドウおよび [ズーム] ウィンドウ内の画像を移動できます。

ウィンドウの切り替え

- あるウィンドウから別のウィンドウに切り替えるには **Ctrl + Tab** を押します。
- [ページ] ウィンドウをアクティブにするには **Alt + 1** を押します。
- [画像] ウィンドウをアクティブにするには **Alt + 2** を押します。
- [テキスト] ウィンドウをアクティブにするには **Alt + 3** を押します。

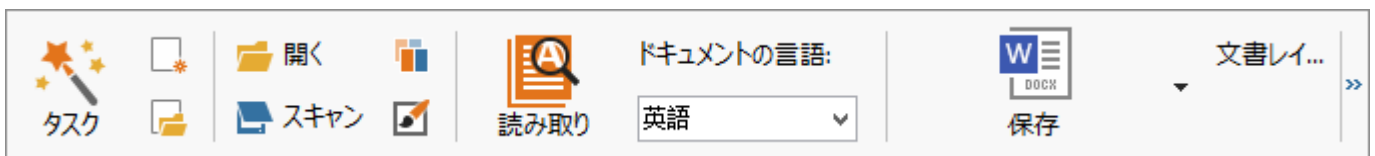
その他のキーボード ショートカットについては、[ショートカット キー] を参照してください。

ツールバー

ABBYY FineReader のメイン ウィンドウは、複数のツールバーを備えています。ツールバー ボタンを使用すると、プログラムのコマンドに簡単にアクセスできます。プログラム メニューからでも、ショートカット キーを使用しても、同じコマンドを実行できます。

[メイン

ツールバー] には、すべての基本操作のための、固定された一連のボタンがあります。これらのボタンでの操作は、文書を開く、画像を開く、ページのスキャン、ページの認識、結果の保存などです。



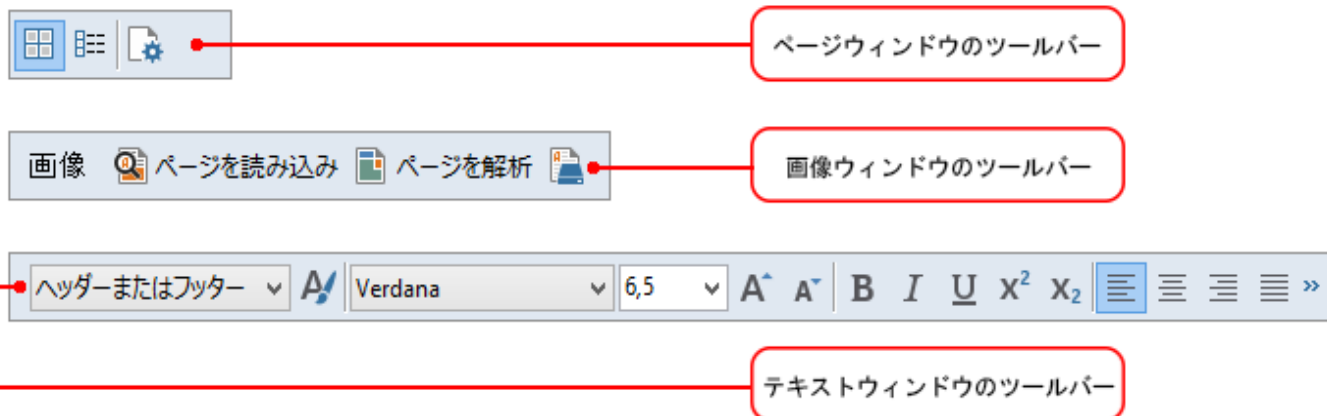
[クイック アクセス バー] は、メイン

メニューにあるほぼすべてのコマンドの代わりになる特別なボタンを追加してカスタマイズできます。既定では、このバーはメイン ウィンドウに表示されません。表示するには、[表示] > [ツールバー] > [クイック アクセス バー] の順にクリックします。あるいは、メイン ツールバーの任意の場所を右クリックし、[クイック アクセス バー] をクリックします。



[ページ]、[画像]、[テキスト]

ウィンドウでは、ツールバーは左側および上部に配置されています。[ページ] ウィンドウにあるツールバーのボタンは変更できません。[画像] および [テキスト] ウィンドウにあるツールバーは、すべてカスタマイズ可能です。



ツールバー ボタンを追加または削除するには

1. [ツール] メニューで、[カスタマイズ...] をクリックして [ツールバーとショートカットのカスタマイズ] ダイアログ ボックスを開きます。
2. [ツールバー] タブをクリックし、[カテゴリー] フィールドでカテゴリーを選択します。

注意： 新しいカテゴリーを選択すると、メインメニューの一連のコマンドに応じて、[コマンド] リストのコマンドが変わります。

3. [ツールバー] フィールドで、コマンドを追加または削除するツールバーを選択します。
4. [コマンド] でコマンドを選択し、[>>] または [<<] をクリックしてコマンドを追加または削除します。
5. [OK] をクリックして変更内容を保存します。
6. クイック アクセス バーを既定の表示にリセットする場合は、[すべてリセット] をクリックします。

[アラート]


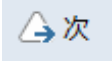
ウィンドウには、プログラムの実行中に発生するエラーと警告のメッセージが表示されます。





[アラート] ウィンドウを表示するには、[表示] > [アラート ウィンドウの表示] を順にクリックします。

[ページ]



ウィンドウで現在選択されているページに関するエラーと警告が表示されます。警告とエラー

をスクロールするには、[] ボタンと [] ボタンを使用します。

ワークスペースのカスタマイズ

- 使用しないペインを一時的に非表示にできます。ペインを表示または非表示にするには、**[表示]** メニューのオプションまたはショートカット キーを使用します。
 - F5 で **[ページ]** ウィンドウを表示
 - F6 で **[画像]** ウィンドウを表示
 - F7 で **[画像]** ウィンドウと **[テキスト]** ウィンドウを表示
 - F8 で **[テキスト]** ウィンドウを表示
 - Ctrl+F5 で **[ズーム]** ウィンドウを表示
- ウィンドウ スペーサーをマウスでドラッグして、ウィンドウのサイズを変更できます。
- **[ページ]** ウィンドウと **[ズーム]** ウィンドウの位置を変更することもできます。**[表示]** メニューまたはウィンドウのショートカット メニューのコマンドを使用します。
- プログラムを実行中に警告とエラーのメッセージを表示する方法をカスタマイズできます。**[表示]** メニューの **[アラート ウィンドウの表示]** コマンドを使用すると、警告とエラー ウィンドウのオン・オフを切り替えることができます。
- **[画像]** ウィンドウまたは **[テキスト]** ウィンドウで **[プロパティ]** ペインを表示または非表示にするには、ウィンドウ内の任意の場所を右クリックし、ショートカット メニューで **[プロパティ]** を選択します。あるいは、これらのウィンドウの下部にある  または  をクリックすることもできます。
- 一部のウィンドウ設定は、**[オプション]** ダイアログ ボックスの **[表示]** タブでカスタマイズできます。

文書のページはすべて **[ページ]** ウィンドウに表示されます。使用できるページ ビューは 2 種類あります。現在のページ ビューを変更するには、次のいずれかを行います。

- **[ページ]** ウィンドウで、ツールバーにある  または  ボタンをクリックします。
- **[表示]** メニューで **[ページ ウィンドウ]** をクリックし、**[サムネール]** または **[詳細]** のいずれかをクリックします。
- **[ページ]** ウィンドウ内の任意の場所を右クリックし、ショートカット メニューの **[ページ ウィンドウ...]** をクリックした後、**[サムネール]** または **[詳細]** のいずれかをクリックします。
- **[ツール]** > **[オプション...]** を順にクリックして **[オプション]** ダイアログ ボックスを開き、**[表示]** タブをクリックしてから、**[ページ ウィンドウ]** の項目で **[サムネール]** または **[詳細]** のいずれかをクリックします。

ページを開くには、**[ページ]** ウィンドウでページのサムネールをクリックするか (**[サムネール]** モードで)、またはページの番号をダブルクリックします (**[詳細]** モードで)。**[画像]** ウィンドウにはページ画像が表示され、**[テキスト]** ウィンドウには認識結果が表示されます (文書がすでに認識されている場合)。

[オプション] ダイアログ ボックス

[オプション] ダイアログ

ボックスでは、文書の処理オプションを選択し、プログラムの外観をカスタマイズすることができます。

重要事項 [オプション] ダイアログ ボックスを開くには、[ツール] > [オプション...] を順にクリックします。このダイアログ ボックスは、ツールバーにあるレンチ ボタンをクリックするか、ツールバーを右クリックして [オプション...] をクリックするか、または保存ダイアログ ボックスあるいは開くダイアログ ボックスの [オプション] ボタンをクリックして開くこともできます。

[オプション] ダイアログ ボックスにはタブが 6 つあり、それぞれのタブに ABBYY FineReader 機能の特定の分野の設定が含まれています。

ドキュメント

このタブでは、次の選択を行うことができます。

- 文書の言語（すなわち認識されるテキストの言語）
- 文書の種類
- カラー モード
- 文書プロパティ（名前、作成者、キーワード）

このタブには、現在の ABBYY FineReader 文書へのパスも表示されます。

スキャン/開く

このタブでは、新たに追加したページの自動処理を有効または無効にできます。自動処理が有効である場合、画像をスキャンして開く際に、使用する全般的な文書処理オプションと画像の予備処理オプションを選択できます。

- **ページ画像の読み取り**
このオプションを有効にすると、プログラムによりテキストが自動的に認識されます。
- **ページ画像の分析**
このオプションを有効にすると、プログラムによりエリアとその種類が自動的に検出されます。
- **ページ画像の予備処理**
このオプションを有効にすると、プログラムによりページ画像の予備処理が自動的に行われます。予備処理の際にどのツールを使用するか指定できます。

このタブでは、スキャナのドライバおよびスキャンのインターフェイスも選択できます。

読み取り

このタブでは認識オプションを選択できます。

- **綿密な読み取りまたは高速読み取り**
- **構造要素を検出** (Microsoft Word に結果をエクスポートする場合にどの要素を保持するか選択できます)
- **学習機能** (テキストの認識時にユーザー パターンを使用できます)

- ユーザー パターンとユーザー言語
- フォント（認識したテキストで使用するフォントを選択できます）
- バーコードを探す

保存

このタブでは、認識結果を保存する出力形式を選択できます。詳細については、「OCR 結果の保存」を参照してください。

表示

このタブでは、次の操作を行うことができます。

- [サムネール] ビューまたは [詳細] ビューを選択して [ページ] ウィンドウの外観をカスタマイズする
- [テキスト] ウィンドウをカスタマイズする。このウィンドウでは、認識された文字のうち信頼性の低いものをユーザーが設定した色で強調表示したり、印刷不可能な文字を表示/非表示にしたり、プレーン テキストに使用されるフォントを選択したりできます。
- [画像] ウィンドウに表示されるエリアを囲む枠の色と幅、信頼性の低い文字を強調表示する色などを選択する

詳細設定

このタブでは、次の操作を行うことができます。

- 信頼性の低い文字の検証オプションを選択する
- 句読点の前後のスペースを修正するかどうかを指定する
- ユーザー辞書を表示して編集する
- ABBYY FineReader で更新を自動的に確認してインストールするかどうか指定する
- ユーザー インターフェイス言語を選択する
- プログラムの起動時に前回使用した ABBYY FineReader 文書を開くかどうかを指定する
- ABBYY のソフトウェア改善プログラムに参加するかどうかを選択する

既定の設定に戻す場合は、ダイアログ ボックス下部の [既定にリセット...] をクリックします。

ユーザー インターフェイス言語の変更

インターフェイス言語は、ABBYY FineReader のインストール時に選択されます。この言語はすべてのメッセージ、ダイアログ ボックス、ボタン、およびメニュー項目に使用されます。インターフェイス言語を変更するには、以下の指示に従ってください。

1. [ツール] メニューで [オプション...] をクリックし、[詳細設定] タブをクリックします。
2. [インターフェイス言語] ドロップダウン リストから言語を選択し、[OK] をクリックします。

3. ABBYY FineReader を再起動します。

ABBYY FineReader のインストール、アクティベーションおよび登録

トピック

- ABBYY FineReader のインストールと起動
- ABBYY FineReader のアクティベーション
- ABBYY FineReader の登録
- プライバシー ポリシー

ABBYY FineReader のインストールと起動

- スタンドアロン コンピュータへの ABBYY FineReader のインストール
- LAN での ABBYY FineReader の展開
- ABBYY FineReader の起動
- ABBYY FineReader の以前のバージョンの設定の使用
- システム要件

スタンドアロン コンピュータへの ABBYY FineReader のインストール

1. インストール ディスクまたはその他の配布媒体にある **Setup.exe** ファイルをダブルクリックします。
2. **アクティベーション ウィザード**の画面に表示される手順に従います。

LAN での ABBYY FineReader 12 の展開

ABBYY FineReader 12 はローカル エリア

ネットワークでインストールを行い、使用することができます。 ABBYY FineReader 12 Corporate Edition をローカル エリア ネットワークにインストールする場合、自動インストールを利用すると、個別のワークステーションにプログラムを手動でインストールする必要がないため、迅速かつ柔軟に作業できます。

インストールは 2

段階で行います。まず、プログラムをサーバーにインストールします。次に、以下のいずれかの方法を用いて、サーバーからワークステーションにプログラムをインストールします。

- アクティブ ディレクトリ
- Microsoft System Center Configuration Manager (SCCM)
- コマンド ラインから

- インタラクティブ モードで手動により

ワークステーションへの ABBYY FineReader のインストール、License Manager
での作業、およびローカル エリア

ネットワークでのプログラムでの作業の詳細については、『システム管理者ガイド』を参照し
てください。

ABBYY FineReader の起動

ABBYY FineReader 12 を起動するには

- タスクバー上で [スタート] ボタン、[すべてのプログラム]、[ABBYY FineReader 12]
([ABBYY FineReader 12 Corporate]) を順にクリックします。
ヒント:Microsoft Windows 8では、WIN + Qを押し、検索ボックスに「ABBYY
FineReader」と入力します。
- Microsoft Office アプリケーションで、リボンの [FineReader 12] タブにある [ABBYY
FineReader 12] ボタンをクリックします。
- Windows Explorer で画像ファイルを右クリックし、ショートカット メニューで [ABBYY
FineReader 12] > [ABBYY FineReader 12 で開く] を順にクリックします。

ABBYY FineReader の以前のバージョンの設定の使用

ABBYY FineReader 12

では、プログラムの以前のバージョンで作成したファイルからユーザー辞書とプログラム設定
をインポートできます。

ABBYY FineReader 9.0、10、11 で作成したユーザー辞書をインポートするには

1. ABBYY FineReader 12 を起動します。
2. [ツール] メニューで [辞書を表示...] をクリックします。
3. [ユーザー辞書] ダイアログ
ボックスで、以前の辞書から単語を追加する辞書を選択し、[表示...]
ボタンをクリックします。
4. 表示されたダイアログ ボックスで [インポート...]
ボタンをクリックし、以前のユーザー辞書へのパスを指定します。
5. 必要な辞書を選択し、[開く] をクリックします。

FineReader 文書設定でファイルをインポートする方法については、「FineReader
文書とは何か」をご覧ください。

システム要件

1. 1 GHz 以上の 32 ビット (x86) または 64 ビット (x64) プロセッサ

2. Microsoft® Windows® 10、Microsoft® Windows® 8、Microsoft® Windows® 7、Microsoft Windows Vista、Microsoft Windows Server 2012、Microsoft Windows Server 2008、Microsoft Windows Server 2008 R2、Microsoft Windows Server 2003 または Microsoft Windows XP
ユーザー インターフェイスに選択した言語を、オペレーティング システムがサポートしている必要があります。
3. 1024 MB の RAM
マルチプロセッサ システムでは、追加プロセッサ 1 基につき 512 MB の RAM を追加する必要があります。
4. インストールには 700 MB、プログラム実行用に追加で 700 MB の空き容量
5. 1024×768 の最小解像度に対応するビデオ カードおよびモニタ
6. キーボード、マウスまたはその他のポインティング デバイス

注意 : Microsoft Word、Microsoft Excel、および Microsoft Outlook から PDF ファイルまたは画像を開くには、対応する Microsoft Office アプリケーションがご使用のシステムにインストールされている必要があります。

ABBYY FineReader のアクティベーション

ABBYY FineReader 12 をインストールした後、フル

モードで実行するには、アクティベーションを行う必要があります。制限付きモードでは、ご使用のバージョンおよび地域によって一部の機能が無効になります。

アクティベーションにかかる時間は、わずか数分ほどです。アクティベーション ウィザードが、ご使用の製品のアクティベーションを行うために必要なデータを ABBYY に送信するお手伝いをし、その返信でアクティベーション コードがユーザーに届きます。

重要事項

製品のエディションによっては、アクティベーションがインターネットを介して自動的に行われ、ユーザーによる追加的な確認を必要としません。

FineReader のアクティベーションを行うには

1. [ヘルプ] メニューで [ABBYY FineReader をライセンス認証する...] をクリックします。
2. アクティベーション ウィザードに表示される手順に従います。

電話または電子メールでアクティベーションを行う場合は、アクティベーション ウィザードの該当するダイアログ ボックスでアクティベーション コードを入力するか、またはアクティベーション ファイルへのパスを入力する必要があります。

アクティベーションが完了すると、ABBYY FineReader はフル モードで実行されます。

アクティベーションの方法

- **インターネット経由**
アクティベーションは自動的に処理され、数秒間で完了します。この方法でアクティベーションを行うには、インターネット接続が必要です。
- **電子メールを使用する**
プログラムにより、ABBYY FineReader

のアクティベーションに必要な情報が記載された電子メールメッセージが自動生成され、ABBYY 宛に送信するよう指示されます。この電子メールメッセージは、自動生成されます。返信メールでアクティベーション コードが届きます。

重要事項 電子メール

ロボットから迅速に返信を受信できるようにするために、生成された電子メールメッセージの件名と本文は変更しないでください。

- **Web サイトで**

アクティベーション ウィザードにより、インターネットアドレス、シリアル番号、**Product ID** が表示されます。アクティベーション ウィザードで示されたアドレスにアクセスし、シリアル番号と **Product ID** をページの該当するフィールドに入力します。ファイルをダウンロードするよう指示されます。そのファイルをハードディスクに保存し、アクティベーション ウィザードでファイルへのパスを指定します。

アクティベーション ウィザードにより固有の **Product ID** が生成されます。このパラメータは、アクティベーション時におけるご使用のコンピュータの設定データに基づいて作成されます。パラメータには、個人情報、コンピュータのモデル、インストールされているソフトウェア、ユーザー設定、保存データに関する情報は含まれません。アクティベーション時に ABBYY のサーバーに送信されるデータは、**Product ID**、シリアル番号、製品名とバージョン、ABBYY FineReader のインターフェイス言語のみです。この情報は、アクティベーション返信メッセージの言語と内容を適切に選択するために必要となるもので、その他の目的に使用されることはありません。

- **電話を使用する**

アクティベーション ウィザードの該当するダイアログボックスで、お住まいの国を選択します。お住まいの地域の最寄りの ABBYY オフィスまたは ABBYY パートナーの電話番号がウィザードに表示されます。アクティベーション ウィザードに表示されたシリアル番号と **Product ID** を ABBYY テクニカルサポートの担当者にお伝えください。

重要事項

製品のエディションによっては、電話でアクティベーションができないものもあります。

ABBYY FineReader

は、アクティベーションを実行したコンピュータであれば何度でも再インストールでき、再度アクティベーションを行っていただく必要はありません。ただし、システム的大幅なアップグレードを行った場合

(コンピュータのハードウェア構成の変更、ハードディスクの初期化、オペレーティングシステムの再インストールなどを行った場合) は、新しいアクティベーションコードを取得し、ABBYY FineReader のアクティベーションを再度行う必要が生じることがあります。

ABBYY FineReader 12 Corporate のアクティベーションを行うと、ABBYY Business Card Reader も使用できるようになります。ABBYY Business Card Reader

は、名刺をスキャンし、連絡先データを取り込んで、その連絡先をさまざまな電子的な形式でエクスポートできる便利なアプリケーションです。

ABBYY FineReader の登録

ご使用の ABBYY FineReader 12 を登録することをお勧めします。

注意：登録は任意です。ただし、無料で配布される、プログラムの一部のエディションは、登録しなければ使用できません。

ご使用の ABBYY FineReader を登録するには、複数の方法があります。

- ご使用の製品のアクティベーションを行う際に登録手順を完了します。アクティベーションの際に登録を行わなかった場合も、後からいつでも登録を行うことができます。
- [ヘルプ] メニューで [今すぐ登録...] をクリックし、必要事項を入力します。
- ABBYY Web サイトで登録フォームに必要事項を記入します。
- 最寄りの ABBYY オフィスに連絡します。

登録ユーザーには次のような特典があります。

1. 無料のテクニカル サポート
2. ABBYY 製品の限定特別提供
3. スクリーンショットを認識するボーナス アプリケーション、ABBYY Screenshot Reader を提供。*

* ABBYY Screenshot Reader にアクセスするには、ABBYY FineReader 12 Professional のユーザーはご使用のプログラムを登録する必要があります。

データプライバシー

当社はおお客様のプライバシーを尊重し、お客様の情報に関しては細心の注意を払います。当社は機密保持を条件として、またこの[プライバシーポリシー](#)に基づいてお客様から受け取ったデータを収集、処理、使用いたします。

当社は製品に関するニュース、価格情報、特別なプロモーション、およびその他の企業情報や製品情報が記載された電子メールメッセージをお客様にしますが、メッセージの送信は、製品の登録の際にお客様が該当するオプションを選択して、このような情報を当社から受け取ることに同意した場合に限られます。お客様はいつでもメーリングリストからご自身のメールアドレスを削除するよう[当社に依頼する](#)ことができます。

ABBYY Screenshot Reader

ABBYY Screenshot Reader は、画面上の任意の領域から、画像とテキストという 2 つのタイプのスクリーンショットを取り込むことができるスマートで使いやすいアプリケーションです。

ABBYY Screenshot Reader の機能:

- 画像のスクリーンショットを作成します。
- スクリーンショットを編集可能なテキストに戻します。
- 付属の ABBYY OCR テクノロジーを利用できます。

ABBYY Screenshot Reader


のインターフェイスは、簡単で直感的です。つまり、スクリーンショットを作成したり、そこからテキストを認識したりするために専門的な知識は一切必要ありません。アプリケーションのウィンドウを開き、スクリーンショットを撮るコンピュータ画面のセクションを選択するだけです。

注: ABBYY Screenshot Reader は、特定の ABBYY 製品の登録ユーザーにのみ使用権限が与えられます。 ABBYY Screenshot Reader の登録方法の詳細についてはの“ABBYY FineReader の登録”を参照してください。

- ABBYY Screenshot Reader のインストールと起動
- スクリーンショットの作成とテキストの認識
- 追加オプション
- ヒント

ABBYY Screenshot Reader のインストールと起動

既定では、ABBYY Screenshot Reader は ABBYY FineReader 12 と共にコンピュータにインストールされます。

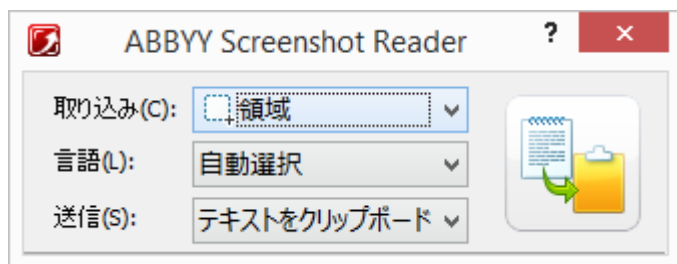
ABBYY Screenshot Reader を起動するには、タスクバーの ABBYY Screenshot Reader のアイコン  をクリックします。

スクリーンショットの作成とテキストの認識

ABBYY Screenshot Reader

は、コンピュータ画面上の選択されている領域のスクリーンショットを作成し、これをファイルに保存したり、クリップボードにコピーしたり、ABBYY FineReader に送信したりできます。

ABBYY Screenshot Reader を起動すると、コンピュータ画面に [ABBYY Screenshot Reader] ウィンドウが表示されます。



[ABBYY Screenshot Reader]

ウィンドウには、コンピュータ画面上のテキストとテーブルを認識するツールが含まれています。これらのツールで、選択されている画面領域のスクリーンショットを作成したり、アプリケーションをセットアップしたりできます。

スクリーンショットを作成したり、テキストフラグメントを認識するには、次の手順を実行します。

1. [ABBYY Screenshot Reader] の [スクリーンショット] リストから、画面取り込み方法を選択します。

- **領域**
選択されている領域を取り込みます。
- **ウィンドウ**
画面上のある部分（ウィンドウ、ウィンドウ フラグメント、ツール バーなど）を取り込みます。
- **画面**
画面全体を取り込みます。
- **スケジュールされた画面**
5 秒間の遅延後、画面全体を取り込みます。

2. [言語] リストで、認識言語を選択します。

3. [送信]
リストで、認識されたスクリーンショットまたはテキストの送信先アプリケーションを選択します。
選択されたテキストまたはスクリーンショットの送信先は次のいずれかになります。

- クリップボード

(テキストをクリップボードにコピー、テーブルをクリップボードにコピー、または画像をクリップボードにコピー)。

- 新しいドキュメント (テキストを Microsoft Word に^[1] または テーブルを Microsoft Excel に^[2])。

- ファイル

(テキストをファイルに、テーブルをファイルに、または画像をファイルに)。**[名前を付けて保存]** ダイアログ ボックスに、ファイル名を入力し、形式を選択します。

- ABBYY FineReader 12 (画像を ABBYY FineReader に^[3])。画面領域にテキストと画像の両方が含まれている場合、この項目を選択します。

- *.bmp ファイル、新しく作成される電子メール メッセージに添付 (画像を電子メールに)。

重要事項:

この項目には次のアプリケーションが必要です。

[1] Microsoft Word

[2] Microsoft Excel

[3] ABBYY FineReader 12

これらのアプリケーションがマシンにインストールされている必要があります。




4.  をクリックします。

[スクリーンショット]

リストで選択した項目に応じて、スクリーンショットが自動的に作成されるか、目的の領域を選択できる取り込みツールが表示されます。

- [領域] オプションが選択されている場合は、画面上で領域を選択します。必要に応じて領域の位置と境界線を調整し、[取り込む] をクリックします。領域の境界線を調整するには、境界線上にマウスポインタを置き、マウスの左ボタンを押しながらポインタをドラッグします。領域を移動するには、領域を選択し、マウスの左ボタンを押しながら移動します。




- [ウィンドウ] を選択した場合、カーソルが  に変わります。マウスのカーソルを目的の領域上に移動すると、カラーフレームが現れます。ここで、マウスの左ボタンを押します。
- [画面] または [スケジュールされた画面] を選択した場合、スクリーンショットが自動的に作成されます。

注:

1. 画面の取り込みをキャンセルするには、Esc キーを押すか、マウスの右ボタンをクリックします。
2. 認識操作をキャンセルするには、[停止] をクリックするか、Esc キーを押します。

追加オプション

追加オプションを選択するには、タスクバーの ABBYY Screenshot Reader  アイコンを右クリックし、[オプション] を選択します。次のオプションを使用できます。

- **常に前面に表示**
表示するアプリケーションを切り替えても、ウィンドウの上に必ず ABBYY Screenshot Reader ツールバーが表示されます。
- **起動時に実行**
コンピュータを起動するたびに ABBYY Screenshot Reader が起動します。

- **サウンドを有効にする**
ABBYY Screenshot Reader
によりクリップボードに画像領域がコピーされると、通知音が鳴ります。
- **ABBYY ヒントの表示**
ヒントを表示しない場合は、このオプションをオフにします。

ヒント

1. **複数の言語で記述されているテキストを扱っています。**

1 つの言語でのみ記述されているテキスト

フラグメントを選択します。認識操作を開始する前に、[言語] ドロップダウン リストで選択されている言語が、テキストの言語と同じであることを確認します。必要に応じて、別の認識言語を選択します。

2. **リストに必要な言語がありません。**

[ABBYY Screenshot Reader] ウィンドウの [言語] ドロップダウン リストから [(その他の言語の選択…)] を選択します。

使用可能な言語一覧の中には必要な言語がない場合：

- a. 本プログラムはこの言語をサポートしていません。サポートされているすべての言語の一覧を
<http://www.abbyy.com>で確認できます。尚、サポートされている言語一覧はバージョンにより異なります。
- b. カスタムインストール中に本言語は無効になった可能性があります：
 1. Windowsのタスクバーでスタートボタンを押して、[設定]→[コントロールパネル]を選択してください。
 2. [プログラムの追加と削除]をダブルクリックしてください。
 3. インストールされているプログラム一覧でABBYY FineReader 12を選択して、[変更]を押してください。
 4. [カスタム設定]のウインドで必要な言語を選択してください。
 5. インストールウィザードによってインストールを続けてください。

3. **選択した領域にテキストと画像の両方が含まれています。**

[送信] リストから、[画像を ABBYY FineReader に]*

を選択します。選択した領域のイメージが ABBYY FineReader 12

バッチに追加されます。ABBYY FineReader

が使用コンピュータ上で実行している場合、イメージは現在のバッチに追加されます。ABBYY FineReader

が実行していない場合、新しいバッチが作成され、イメージはこの新しいバッチに追加されません。

*重要事項:

この項目を選択するには、ABBYY FineReader 12

が使用マシン上にインストールされていることが必要です。

付録

トピック

- 用語集
- サポートされている画像形式
- サポートされている保存形式
- 必要なフォント
- 正規表現
- ショートカット キー

用語集

A

ABBYY Business Card Reader

は、名刺をスキャンし、連絡先データを取り込んで、その連絡先をさまざまな電子的な形式でエクスポートできる便利なアプリケーションです。このアプリケーションでは、ユーザーのコンピュータに保存された名刺のスキャン データや画像も取り扱うことができます。

ABBYY FineReader 文書は、紙の文書进行处理するために ABBYY FineReader

によって作成されたオブジェクトです。これには、文書ページの画像、認識されたテキスト（ある場合） およびプログラム設定が含まれています。

ABBYY Hot Folder は、スケジューリング エージェント

プログラムで、ユーザーは画像のフォルダを選択し、そのフォルダにある画像进行处理する時間を指定することができます。選択されたフォルダにある画像は ABBYY FineReader により自動的に処理されます。

ABBYY Screenshot Reader

は、ユーザーがスクリーンショットを作成し、その中のテキストを認識することができるアプリケーションです。

ADRT® (Adaptive Document Recognition Technology)

は、複数ページの文書の変換の品質を高めるテクノロジーです。例えば、見出し、ヘッダーとフッター、脚注、ページ番号、署名などの要素を認識できます。

L

License Manager は、ABBYY FineReader のライセンスの管理と ABBYY FineReader 12 Corporate のアクティベーションに使用するユーティリティです。

P

PDF セキュリティ設定とは、PDF

文書を開いたり、編集、コピー、印刷を行ったりできないようにする制限です。これらの設定には、「文書を開くパスワード」、「アクセス許可パスワード」、暗号化レベルなどがあります。

Product ID は、コンピュータ上で ABBYY FineReader のアクティベーションを行う際にハードウェア構成に基づいて自動的に生成されます。

U

Unicode は、ユニコード コンソーシアム (Unicode, Inc.) によって開発された標準で、テキスト処理のための 16 ビットの国際的エンコーディングシステムです。

あ行

明るさは画像パラメータで、画像内で白色が占める量を反映しています。明るさが増すと、画像が「より白く」なります。適切な明るさ値を指定すると、認識品質が増します。

アクセス許可パスワードとは、作成者が指定したパスワードを入力しなければ、他のユーザーが PDF 文書の印刷および編集をできないようにするパスワードです。PDF 文書に特定のセキュリティ設定を指定すると、他のユーザーはアクセス許可パスワードを入力するまで、その設定を変更できません。

アクティブなエリアとは、画像上で現在選択されているエリアで、削除、移動または修正を行うことができます。エリアをアクティブにするには、そのエリアをクリックします。アクティブなエリアを囲む枠は太線で示され、小さな四角形が付いており、この四角形をドラッグしてエリアの大きさを変更できます。

アクティベーション コードとは、アクティベーションの際に ABBYY が ABBYY FineReader 12 の各ユーザーに発行するコードです。アクティベーション コードは、**Product ID** を生成したコンピュータで ABBYY FineReader のアクティベーションを行うために使用します。

アクティベーションとは、ABBYY から特別なコードを取得するプロセスで、ユーザーはこのコードを用いて、所定のコンピュータで製品をフル モードで使用できます。

エリア

テンプレートとは、外観が類似した文書内のエリアのサイズと位置に関する情報を含むテンプレートです。

エリアとは、枠で囲まれた画像の一部で、特定の種類のデータを含みます。ABBYY FineReader では、OCR を実行する前に、画像のどの部分をどのような順序で認識するか決定するために、テキスト、画像、表、およびバーコードのエリアを検出します。

オムニフォント

システムとは、あらかじめ学習機能を使用せずに、あらゆるフォントの文字セットを認識する認識システムです。

か行

解像度とは、インチあたりのドット数 (dpi) で表されるスキャン パラメータです。10 pt 以上のフォント サイズに設定されたテキストには 300 dpi

の解像度を使用し、これより小さいフォント サイズ (9 pt 以下) のテキストには、400~600 dpi が適しています。

学習機能は、文字画像と文字そのものとの間の対応を確立するプロセスです。(「学習機能を伴う認識」を参照してください。)

画像エリアとは、画像を含む画像エリアです。この種類のエリアは、実際の画像、または画像として表示する必要のあるその他のオブジェクト (テキスト フラグメントなど) を含みます。

カラー

モードは、文書の色を保持するか否かを決定します。モノクロ画像からはサイズの小さな ABBYY FineReader 文書が作成され、処理がより高速になります。

禁止文字とは、認識されるテキストの中には現れないと考えられる文字です。禁止文字を指定すると、OCR の速度と品質が向上します。

区切りとは、単語を区切ることができ

(/, ¥, ダッシュなど)、単語そのものからはスペースで区別される記号です。

合字とは、2 つ以上の「密着」した文字の組み合わせです (fi、fl、ffi など)。これらの文字を ABBYY FineReader が分割するのは困難です。これらの文字を 1 つの文字として扱うと OCR の精度が向上します。

コード ページとは、文字と文字コードの対応を確立する表です。ユーザーは、コード ページにある使用可能な文字から、必要な文字を選択できます。

さ行

サポート ID

はシリアル番号の固有の識別子で、ライセンスと使用するコンピュータに関する情報を含んでいます。サポート ID は追加的な保護を提供し、テクニカルサポートが提供される前に担当者によって確認が行われます。

自動タスクとは、一連の文書処理手順です。ABBYY FineReader 12 には、あらかじめ設定された多数の自動タスクが用意されており、[タスク] ウィンドウからアクセスできます。ユーザーが独自の自動タスクを作成することもできます。

自動ドキュメント フィーダ (ADF)とは、スキャナに原稿を自動的に送り込む装置です。ADF を備えたスキャナでは、手動操作なしに複数ページをスキャンできます。ABBYY FineReader は複数ページの文書を扱うことができます。

省略可能なハイフンとは、単語または単語の組み合わせが行末にきた場合に分割すべき正しい位置を示すハイフン (～) です

(例えば、「autoformat」は「auto」と「format」に分割します)。ABBYY FineReader では、辞書の単語にあるすべてのハイフンを、省略可能なハイフンで置き換えます。

信頼性が低い単語とは、1 つまたは複数の不明確な文字を含む単語です。

信頼性が低い文字とは、プログラムにより正確に認識されなかった可能性がある文字です。

スキャナとは、画像をコンピュータに入力するための機器です。

スキャン

モードとは、モノクロ、グレースケール、カラーのいずれで画像をスキャンするかを決定するスキャン パラメータです。

た行

タグ付き PDF とは、論理的部分、画像、表などの文書構造に関する情報を含む PDF 文書です。文書の構造は、PDF タグの中に符号化されています。このようなタグを持つ PDF ファイルは、さまざまな画像サイズに合わせてレイアウトを変更できるため、携帯用機器でも適切に表示されます。

タスク

マネージャは、自動タスクの実行、自動タスクの作成と変更、カスタムの自動タスクの削除を行うことができる ABBYY FineReader の機能です。

テキスト エリアとは、テキストを含む画像エリアです。テキスト エリアには、単一カラムのテキストのみ含めることができます。

等幅フォントとは、すべての文字の幅が等しいフォント (Courier New など) です。等幅フォントでより良い OCR 結果を得るためには、[ツール] > [オプション...] を選択し、[文書] タブをクリックして [文書の種類] の項目で [タイプライター] を選択します。

ドット数/インチ (dpi) とは画像解像度の単位です。

ドライバとは、コンピュータの周辺装置 (スキャナ、モニタなど) を制御するソフトウェアプログラムです。

な行

認識エリアとは、ABBYY FineReader が自動的に分析を行う画像エリアです。

は行

バーコード エリアとは、バーコードを含む画像エリアです。

背景画像エリアとは、テキストが重ねて印刷されている画像を含む画像エリアです。

パターンとは、平均化された文字画像とそれぞれの名前の一連の関連付けです。特定のテキストについて ABBYY FineReader の学習機能を使用すると、パターンが作成されます。

パラダイムとは、単語のすべての文法的な形式のセットです。

反転画像とは、濃い色の背景に白い文字で印刷された画像です。

表エリアとは、表形式のデータを含む画像エリアです。プログラムがこの種類のエリアを読み取る際には、エリア内に垂直と水平の罫線を引いて表を形成します。このエリアは、出力テキストでは表として表示されます。

複合語とは、2 語以上の既存の単語により構成される単語です。ABBYY FineReader では、複合語はプログラムが辞書内に見つけることはできないものの、辞書内の 2 語以上の単語から作成できる単語です。

プライマリ形式とは、単語の「辞書」形式です
(辞書の項目の見出し語は通常プライマリ形式で記載されます)。

文書オプションとは、[オプション] ダイアログ ボックス ([ツール] > [オプション])
で選択できる一連のオプションです。文書オプションには、ユーザー言語とユーザー
パターンも含まれています。文書オプションは、保存して別の ABBYY FineReader
文書で使用することができます。

文書の種類とは、元のテキストがどのように印刷されたかをプログラムに伝えるパラメータで
す (レーザー プリンタ、タイプライターなど)。レーザー
プリンタで印刷されたテキストの場合は、[自動]
を選択し、タイプライターで作成されたテキストの場合は [タイプライター] を、FAX
の場合は [FAX] を選択します。

文書分析とは、文書の論理的構造、およびさまざまな種類のデータを含むエリアを識別するプ
ロセスです。文書分析は自動または手動で実行できます。

文書を開くパスワードとは、作成者が指定したパスワードを入力しなければ、ユーザーが PDF
文書を開くことができないようにするパスワードです。

ページ

レイアウトとは、ページ上のテキスト、表、画像、段落、列の配置です。フォント、フォント
サイズ、フォントの色、テキスト背景、テキストの方向もページ レイアウトの一部です。

ま行

無視される文字とは、単語に使われている、文字以外の記号
(音節記号、アクセント符号など)
です。これらの記号は、スペルチェックの際には無視されます。

文字飾りとは、フォントの外観
(太字、斜体、下線、取り消し線、下付き文字、上付き文字、スモール キャピタルなど)
です。

ら行

略語とは、単語または語句を短縮したものです (例えば、MS-DOS は Microsoft Disk
Operating System の略、UN は United Nations の略など)。

ショートカット キー

ABBYY FineReader 12 では、最も一般的に使用されるコマンドのために以下のキーボード
ショートカットを備えています。ユーザー独自のキーボード
ショートカットを作成することもできます。

ショートカットを作成するには

1. [ツール] メニューで、[カスタマイズ...] をクリックして
[ツールバーとショートカットのカスタマイズ] ダイアログ ボックスを開きます。
2. [キーボード ショートカット] タブにある [カテゴリー]
フィールドで、カテゴリーを選択します。

3. [コマンド] フィールドで、キーボードショートカットを作成するコマンド、またはショートカットを変更するコマンドを選択します。
4. [新しいショートカット キーを押す] フィールド内をクリックし、キーボード上で、選択したコマンドのショートカットとして使用するキーを押します。
5. [割り当てる] をクリックします。指定したキーが [現在のショートカット] ボックスに追加されます。
6. [OK] をクリックして変更内容を保存します。
7. ショートカットを既定値に戻すには、[リセット] (選択したコマンド カテゴリが対象) または [すべてリセット] (すべてのショートカット キーが対象) をクリックします。
 - [ファイル] メニュー
 - [編集] メニュー
 - [表示] メニュー
 - [文書] メニュー
 - [ページ] メニュー
 - [エリア] メニュー
 - [ツール] メニュー
 - [ヘルプ] メニュー
 - 全般

[ファイル] メニュー

コマンド	ショートカット キー
ページのスキャン…	Ctrl + K
PDF ファイルまたは画像を開く…	Ctrl + O
新しい FineReader ドキュメント	Ctrl + N
FineReader ドキュメントを開く…	Ctrl + Shift + N
名前を付けて文書を保存する	Ctrl + S

ページを画像として保存…	Ctrl + Alt + S
文書を電子メールで送信する	Ctrl + M
画像を電子メールで送信する	Ctrl + Alt + M
テキストの印刷	Ctrl + P
画像の印刷	Ctrl + Alt + P

[編集] メニュー

コマンド	ショートカット キー
元に戻す	Ctrl + Z
やり直し	Ctrl + Enter
切り取り	Ctrl + X
コピー	Ctrl + C Ctrl + Insert
貼り付け	Ctrl + V Shift + Insert
クリア	削除
すべて選択	Ctrl + A
検索…	Ctrl + F
次を検索	F3

置換…	Ctrl + H
-----	----------

[表示] メニュー

コマンド	ショートカット キー
ページ ウィンドウを表示	F5
画像ウィンドウのみを表示	F6
画像ウィンドウとテキスト ウィンドウを表示	F7
テキスト ウィンドウのみを表示	F8
ズーム ウィンドウを表示	Ctrl + F5
次のウィンドウ	Ctrl + Tab
前のウィンドウ	Ctrl + Shift + Tab

[文書] メニュー

コマンド	ショートカット キー
文書の読み取り	Ctrl + Shift + R
文書の分析	Ctrl + Shift + E
次のページに進む	Alt + 下矢印 (↓) Page Up
前のページに戻る	Alt + 上矢印 (↑)

	Page Down
ページに移動…	Ctrl + G
現在のページを閉じる	Ctrl + F4

[ページ] メニュー

コマンド	ショートカット キー
ページの読み取り	Ctrl + R
ページの分析	Ctrl + E
画像の編集…	Ctrl + Shift + C
領域とテキストをすべて削除	Ctrl + Delete
テキストを削除	Ctrl + Shift + Delete
ページのプロパティ…	Alt + Enter

[エリア] メニュー

コマンド	ショートカット キー
領域の読み取り	Ctrl + Shift + B
エリアの種類をテキストに変更する	Ctrl + 2
エリアの種類を表に変更する	Ctrl + 3
エリアの種類を画像に変更する	Ctrl + 4

エリアの種類を背景画像に変更する	Ctrl + 6
エリアの種類をバーコードに変更する	Ctrl + 5
エリアの種類を認識エリアに変更する	Ctrl + 1

[ツール] メニュー

コマンド	ショートカット キー
タスク マネージャ…	Ctrl + T
Hot Folder…	Ctrl + Shift + H
辞書を表示…	Ctrl + Alt + D
言語エディタ…	Ctrl + Shift + L
パターン エディタ…	Ctrl + Shift + A
検証…	Ctrl + F7
次のエラー	Shift + F4
前のエラー	Shift + F5
オプション…	Ctrl + Shift + 0

[ヘルプ] メニュー

コマンド	ショートカット キー

ヘルプ	F1
-----	----

全般

コマンド	ショートカットキー
テキストの選択部分を 太字 にする	Ctrl + B
テキストの選択部分を 斜体 にする	Ctrl + I
テキストの選択部分に <u>下線</u> を引く	Ctrl + U
表のセルに移動	矢印キー
[ページ] ウィンドウに切り替える	Alt + 1
[画像] ウィンドウに切り替える	Alt + 2
[テキスト] ウィンドウに切り替える	Alt + 3
[ズーム] ウィンドウに切り替える	Alt + 4

サポートされている画像形式

次の表は、ABBYY FineReader 12によりサポートされている画像形式を一覧にしたものです。

形式	ファイル拡張子	開く	保存
ビットマップ	bmp, dib, rle	+	+
ビットマップ、モノクロ	bmp, dib, rle	+	+

ビットマップ、グレー	bmp, dib, rle	+	+
ビットマップ、カラー	bmp, dib, rle	+	+
DCX	dcx	+	+
DCX、モノクロ	dcx	+	+
DCX、グレー	dcx	+	+
DCX、カラー	dcx	+	+
JPEG 2000	jp2, j2k	+	+
JPEG 2000、グレー	jp2, j2k	+	+
JPEG 2000、カラー	jp2, j2k	+	+
JPEG	jpg, jpeg	+	+
JPEG、グレー	jpg, jpeg	+	+
JPEG、カラー	jpg, jpeg	+	+
JBIG2	jb2, jbig2	+	+
PCX	pcx	+	+
PCX、モノクロ	pcx	+	+
PCX、グレー	pcx	+	+

PCX、カラー	pcx	+	+
PNG	png	+	+
PNG、モノクロ	png	+	+
PNG、グレー	png	+	+
PNG、カラー	png	+	+
TIFF	tif, tiff	+	+
TIFF、モノクロ、圧縮なし	tif, tiff	+	+
TIFF、モノクロ、パックビット圧縮	tif, tiff	+	+
TIFF、モノクロ、CCITT グループ 4 圧縮	tif, tiff	+	+
TIFF、モノクロ、ZIP 圧縮	tif, tiff	+	+
TIFF、モノクロ、LZW 圧縮	tif, tiff	+	+
TIFF、グレー、圧縮なし	tif, tiff	+	+
TIFF、グレー、パックビット圧縮	tif, tiff	+	+
TIFF、グレー、JPEG 圧縮	tif, tiff	+	+
TIFF、グレー、ZIP 圧縮	tif, tiff	+	+
TIFF、グレー、LZW 圧縮	tif, tiff	+	+
TIFF、カラー、圧縮なし	tif, tiff	+	+

TIFF、カラー、パックビット圧縮	tif, tiff	+	+
TIFF、カラー、JPEG 圧縮	tif, tiff	+	+
TIFF、カラー、ZIP 圧縮	tif, tiff	+	+
TIFF、カラー、LZW 圧縮	tif, tiff	+	+
PDF	pdf	+	+
PDF v. 1.7 以前	pdf	+	+
DjVu	djvu, djv	+	+
GIF	gif	+	-
XPS (Microsoft .NET Framework 3.0 が必要)	xps	+	-
Windows Media Photo	wdp	+	-

サポートされている保存形式

ABBYY FineReader では、認識したテキストを次の形式で保存できます。

- Microsoft Word 文書 (*.doc)
- Microsoft Office Word 2007 文書 (*.docx)
- リッチ テキスト形式 (*.rtf)
- OpenDocument Text (*.odt)
- Adobe Acrobat 文書 (*.pdf)
- HTML 文書 (*.htm)
- FB2 文書 (*.fb2)
- EPUB 文書 (*.epub)
- Microsoft PowerPoint 2007 プレゼンテーション (*.pptx)

- Microsoft Office Excel コンマ区切りファイル (*.csv)
- テキスト 文書 (*.txt)
ABBYY FineReader では、Windows、DOS、Mac、ISO のコード ページと Unicode のエンコーディングをサポートしています。
- Microsoft Excel ワークシート (*.xls)
- Microsoft Office Excel 2007 ワークブック (*.xlsx)
- PDF/A (*.pdf)
- DjVu 文書 (*.djvu)

必要なフォント

言語	フォント
アブハズ語	Arial Unicode MS ^(*)
アディゲ語	Arial Unicode MS ^(*) 、Lucida Sans Unicode
アグール語	Arial Unicode MS ^(*) 、Lucida Sans Unicode
アルタイ語	Arial Unicode MS ^(*) 、Lucida Sans Unicode
アラビア語	Arial Unicode MS ^(*)
アルメニア語 (イースタン、ウェスタン、グラバール)	Arial Unicode MS ^(*)
アバル語	Arial Unicode MS ^(*) 、Lucida Sans Unicode
バシキール語	Arial Unicode MS ^(*) 、Palatino Linotype
チェチェン語	Arial Unicode MS ^(*) 、Lucida Sans Unicode
中国語 (簡体字)、中国語 (繁体字)	Arial Unicode MS ^(*) 、SimSun フォント 例: SimSun (Founder Extended)、SimSun-18030、NSimSun Simhei、YouYuan、PMingLiU、MingLiU、Ming(for

	-IS010646)、STSong
チュバシュ語	Arial Unicode MS ^(*)
チュクチ語	Arial Unicode MS ^(*) 、Lucida Sans Unicode
ダルグワ語	Arial Unicode MS ^(*) 、Lucida Sans Unicode
イングーシ語	Arial Unicode MS ^(*) 、Lucida Sans Unicode
ガガウズ語	Arial Unicode MS ^(*)
ハウサ語	Arial Unicode MS ^(*) 、Lucida Sans Unicode
ヘブライ語	Arial Unicode MS ^(*)
日本語	Arial Unicode MS ^(*) 、SimSun フォント 例: SimSun (Founder Extended)、SimSun-18030、NSimSun Simhei、YouYuan、PMingLiU、MingLiU、Ming (for -IS010646)、STSong
カバルダ語	Arial Unicode MS ^(*) 、Lucida Sans Unicode
ハカス語	Arial Unicode MS ^(*)
ハンティ語	Arial Unicode MS ^(*)
韓国語、韓国語 (ハングル)	Arial Unicode MS ^(*) 、SimSun フォント 例: SimSun (Founder Extended)、SimSun-18030、NSimSun Simhei、YouYuan、PMingLiU、MingLiU、Ming (for -IS010646)、STSong
コリアク語	Arial Unicode MS ^(*) 、Lucida Sans Unicode
ラク語	Arial Unicode MS ^(*) 、Lucida Sans Unicode

レジン語	Arial Unicode MS ^(*) 、Lucida Sans Unicode
マンシ語	Arial Unicode MS ^(*) 、Lucida Sans Unicode
マリ語	Arial Unicode MS ^(*)
オセット語	Arial Unicode MS ^(*)
ロシア語 (旧スペル)	Arial Unicode MS ^(*) 、Palatino Linotype
タバサラ語	Arial Unicode MS ^(*) 、Lucida Sans Unicode
タジク語	Arial Unicode MS ^(*) 、Palatino Linotype
タイ語	Arial Unicode MS ^(*) 、Aharoni、David、Levenim mt、Miriam、Narkisim、Rod
ウドムルト語	Arial Unicode MS ^(*)
ベトナム語	Arial Unicode MS ^(*)
ズールー語	Arial Unicode MS ^(*) 、Lucida Sans Unicode
ヤクート語	Arial Unicode MS ^(*)
イディッシュ語	Arial Unicode MS ^(*)

入手先/付属製品

(*) Microsoft Office 2000 以降

正規表現

下の表はカスタムの言語の辞書を作成するために使用できる正規表現を一覧にしたものです。

アイテム名	従来の正規表現記号	使用例と説明
-------	-----------	--------

任意の文字	.	c.t - 「cat」、 「cot」などを表す
グループ内の文字	[]	[b-d]ell - 「bell」、 「cell」、 「dell」などを表す [ty]ell - 「tell」および「yell」を表す
グループ内にはない文字	[^]	[^y]ell - 「dell」、 「cell」、 「tell」を表すが、「yell」は禁止 [^n-s]ell - 「bell」、 「cell」を表すが、「nell」、 「oell」、 「pell」、 「qell」、 「rell」および「sell」は禁止
または		c(a u)t - 「cat」および「cut」を表す
0 以上の一致	*	10* - 1、10、100、1000 などの数を表す
1 以上の一致	+	10+ - 10、100、1000 などは許可するが、1 は禁止
文字または数字	[0-9a-zA-Z a-я A-Я]	[0-9a-zA-Z a-я A-Я] - 任意の 1 文字を許可 [0-9a-zA-Z a-я A-Я]+ - 任意の単語を許可
大文字のラテン文字	[A-Z]	
小文字のラテン文字	[a-z]	
大文字のキリル文字	[A-Я]	
小文字のキリル文字	[a-я]	
数字	[0-9]	
	@	予備

注意

1. 正規表現記号を通常の文字として使用するには、前にバックスラッシュを付けます。例えば、`[t-v]x+` は `tx`、`txx`、`txx` など、`ux`、`uxx` などを表しますが、`¥[t-v¥]x+` は `[t-v]x`、`[t-v]xx`、`[t-v]xxx` などを表します。
2. 正規表現の要素をグループ化するには、かっこを使用します。例えば、`(a|b)+|c` は `c` または `abbbbaabbb`、`ababab` などの任意の組み合わせ（長さがゼロではなく、任意の数の `a` および `b` が任意の順序で並んでいる単語）を表しますが、`a|b+|c` は `a`、`c`、および `b`、`bb`、`bbb` などを表します。

例

生年月日、名前、電子メール アドレスの 3 列からなる表を認識するとします。この場合、日付とアドレスの 2 つの新しい言語を作成し、それらに以下の正規表現を設定することができます。

日付の正規表現

日を表す数は 1 桁の数字 (1、2、など) または 2 桁の数字 (02、12) で構成できますが、ゼロ (00 または 0) にはできません。したがって、日の正規表現は次のようになります: `(([0][1-9])|([1|2][0-9])|(30)|(31))`。

月の正規表現は次のようになります: `(([0][1-9])|(10)|(11)|(12))`。

年の正規表現は次のようになります: `([19][0-9][0-9]|([0-9][0-9])|([20][0-9][0-9]|([0-9][0-9]))`。

この後するべきことは、これらをすべて組み合わせて、数字をピリオドで区切るだけです (1.03.1999 など)。ピリオドは正規表現記号であるため、前にバックスラッシュ (¥) を付ける必要があります。日付全体の正規表現は、次のようになります:

`(([0][1-9])|([1|2][0-9])|(30)|(31))¥.(([0][1-9])|(10)|(11)|(12))¥.((19)[0-9][0-9]|([0-9][0-9])|([20][0-9][0-9]|([0-9][0-9]))`

電子メール アドレスの正規表現

`[a-zA-Z0-9_¥-¥.]¥@[a-z0-9¥.¥-]¥`

テクニカル サポート

ABBYY FineReader の使用方法についてご不明な点がある場合は、テクニカル サポート サービスにご連絡いただく前に、すべての付属文書（ユーザーズ ガイドとヘルプ）をご覧ください。また、弊社 Web サイトのテクニカル サポート セクション www.abbyy.com/support

をご覧ください。このセクションを参照することにより問題を解決できる場合があります。

テクニカル サポート サービス担当者が迅速に対応するには、次の情報が必要です。

- お客様の氏名
- 会社名または組織名（企業ユーザーの場合）
- お客様の電話番号（または FAX 番号あるいは電子メール アドレス）
- ご使用の ABBYY FineReader パッケージのシリアル番号またはサポート ID。サポート ID はシリアル番号の固有の識別子で、ライセンスとコンピュータに関する情報を含んでいます。サポート ID を表示するには、[ヘルプ] > [バージョン情報...] > [ライセンス情報] をクリックします。
- ビルド番号（[ヘルプ] > [バージョン情報...] をクリックし、[ビルド] フィールドで確認します）
- 問題の説明と、エラー メッセージの全文（エラー メッセージがある場合）
- コンピュータとプロセッサの種類
- Windows オペレーティング システムのバージョン
- その他の重要な情報

これらの情報の一部は自動的に収集できます。

1. [ヘルプ] メニューで、[バージョン情報...] をクリックします。
2. [ABBYY FineReader について] ダイアログ ボックスで、[システム情報...] ボタンをクリックします。

上記情報の一部が含まれるウィンドウが開きます。

重要事項 無料のテクニカル

サポートを受けられるのは、登録ユーザーのみです。ご使用のプログラムの登録は、ABBYY Web サイトにて行うこともできますし、[ヘルプ] > [今すぐ登録...] をクリックして行うこともできます。